

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2008-154789
(P2008-154789A)

(43) 公開日 平成20年7月10日(2008.7.10)

(51) Int.Cl.
A63F 5/04 (2006.01)

F I
A 6 3 F 5/04 5 1 2 D
A 6 3 F 5/04 5 1 2 A
A 6 3 F 5/04 5 1 6 D
A 6 3 F 5/04 5 1 6 C

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 87 頁)

(21) 出願番号	特願2006-346832 (P2006-346832)	(71) 出願人	000148922
(22) 出願日	平成18年12月23日 (2006.12.23)		株式会社大一商会
			愛知県名古屋市中村区鵜付町1丁目22番地
		(74) 代理人	100128923
			弁理士 納谷 洋弘
		(72) 発明者	市原 高明
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式会社大一商会内
		(72) 発明者	高橋 優
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式会社大一商会内

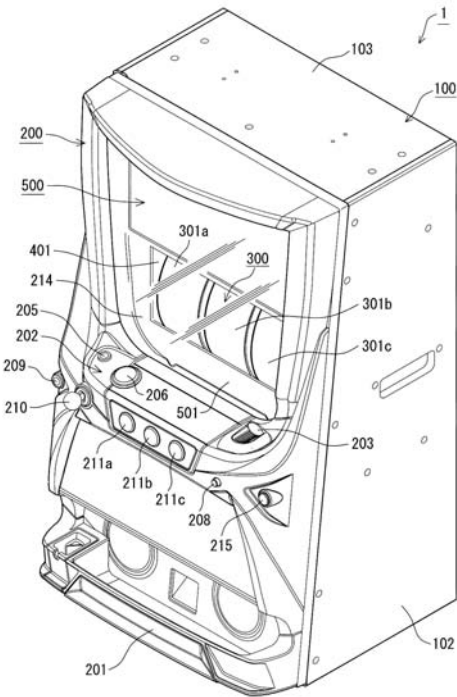
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

【課題】 遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供する。

【解決手段】 特定当選役としてのベルやチェリーに当選した場合には、リール301a, 301b, 301cの停止に先立って遊技者に当選役を推測させるための予告枚数を表示する払出予告を実行可能とする。すなわち、始動レバー210の操作により、乱数が抽出されてフラグ処理が実行されると、小役フラグの成立を判定する。ここで小役フラグがONとなっている場合、すなわちベル又はチェリーに当選した場合には、払出予告を実行するか否かを抽選にて決定し、さらに、遊技者の操作に基づく複数のタイミングで払出予告を実行し、予告枚数を段階的に変化させる。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の図柄を図柄列として施した図柄帯を有する可動表示体と、前記可動表示体を複数備えた図柄変動表示装置を有し、遊技媒体の投入に続くゲームの開始操作により内部抽選を実行して複数の前記可動表示体の回転を開始させ、前記可動表示体の停止操作が受け付けられると、前記図柄変動表示装置に 1 回のゲームの結果を表示し、当該結果に基づいて遊技媒体の払い出しを行う遊技機において、

前記可動表示体の停止状態において前記図柄帯の図柄の一部を視認可能とする図柄表示部と、

前記内部抽選として、各ゲーム毎に予め決められた複数の当選役及びハズレ役のうち少なくとも 1 つを選出する内部抽選手段と、

前記可動表示体の回転を個々に停止させるべく前記可動表示体の各々について前記停止操作を受け付ける停止操作手段と、

前記停止操作手段による前記停止操作及び前記内部抽選手段による前記内部抽選の結果に基づいて、前記可動表示体の停止を制御する可動表示体停止制御手段と、

前記図柄表示部における前記当選役に対応する図柄の組み合わせ態様としての当選態様が有効となる表示位置に前記当選態様が表示されると、前記当選役に対応する遊技媒体を払い出す遊技媒体払出手段と、

前記内部抽選手段により前記当選役としての特定当選役が選出された場合、前記可動表示体の全てが停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体の払い出しに係る払出予告を実行可能な払出予告手段と

を備えていることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機、スロットマシン等で代表される遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、スロットマシンに代表される回胴式遊技機においては、ビッグボーナスゲーム（略して B B という、以下同様）、レギュラーボーナスゲーム（略して R B という、以下同様）に加え、アシストタイム（A T）やチャレンジタイム（C T）を新たに設けた回胴式遊技機も知られるようになっていく（例えば、特許文献 1 参照）。このような回胴式遊技機では、短いゲーム試行回数で B B 等の機会を連続して得ることができれば、大量のメダルが獲得できる仕組みとなっている。

【特許文献 1】特開 2 0 0 4 - 3 3 5 2 1 号公報（第 1 0 頁、図 7）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、従来の遊技機の中には、B B 等の抽選が行われる通常遊技状態において、B B 等への当選確率が相対的に小さなものとなっているものがある。この場合、B B 等の機会を連続して得られることは少ない。つまり、通常遊技状態が継続してしまうことが往々にしてあり得る。その結果、遊技の興趣を低下させてしまうことが懸念される。

【0004】

本発明は、上述した問題を解決するためになされたものであり、その目的は、遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

手段 1. 複数の図柄を図柄列として施した図柄帯を有する可動表示体と、前記可動表示体を複数備えた図柄変動表示装置を有し、遊技媒体の投入に続くゲームの開始操作により内部抽選を実行して複数の前記可動表示体の回転を開始させ、前記可動表示体の停止操作

が受け付けられると、前記図柄変動表示装置に1回のゲームの結果を表示し、当該結果に基づいて遊技媒体の払い出しを行う遊技機において、

前記可動表示体の停止状態において前記図柄帯の図柄の一部を視認可能とする図柄表示部と、

前記内部抽選として、各ゲーム毎に予め決められた複数の当選役及びハズレ役のうち少なくとも1つを選出する内部抽選手段と、

前記可動表示体の回転を個々に停止させるべく前記可動表示体の各々について前記停止操作を受け付ける停止操作手段と、

前記停止操作手段による前記停止操作及び前記内部抽選手段による前記内部抽選の結果に基づいて、前記可動表示体の停止を制御する可動表示体停止制御手段と、

前記図柄表示部における前記当選役に対応する図柄の組み合わせ態様としての当選態様が有効となる表示位置に前記当選態様が表示されると、前記当選役に対応する遊技媒体を払い出す遊技媒体払出手段と、

前記内部抽選手段により前記当選役としての特定当選役が選出された場合、前記可動表示体の全てが停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体の払い出しに係る払出予告を実行可能な払出予告手段と

を備えていることを特徴とする遊技機。

【0006】

本発明の遊技機は、複数の図柄を施した図柄帯が付された可動表示体と、この可動表示体を複数備えた図柄変動表示装置を有している。そして、遊技媒体の投入が行われた状態で遊技者によるゲームの開始操作が受け付けられると、この複数の可動表示体を回転させるとともに内部抽選を実行し、内部抽選の結果と遊技者による停止操作に基づいて図柄変動表示装置に1回のゲームの結果が表示される。

【0007】

1回のゲームごとに行われる内部抽選は、遊技者の開始操作を契機として行われる。ここでいう「内部」とは、抽選の中味が遊技者に知らされておらず、遊技者の知覚できないところで抽選が行われることを表したものであり、実際に内部抽選は遊技機の動作を制御する制御装置（制御基板）にて行われる。内部抽選手段の行う内部抽選の方法としては、所定の数値範囲内（最小乱数値から最大乱数値までの範囲内）で乱数を発生させておき、その中から1回のゲームごとに乱数を1つ取得すると、この取得した1つの乱数の値を予め決められた当たり値と比較することで抽選結果を判断するものが挙げられる。

【0008】

内部抽選では複数種類の抽選結果とそれぞれの抽選結果に対応する当選役が予め決められている。これらの当選役は、種類別に上記所定範囲内の乱数の値がそれぞれ当たり値として割り当てられている。当たり値には当選役ごとに幅（数値範囲）が設けられており、取得された乱数の値がいずれかの当たり値の範囲内にあれば、その当たり値に対応する当選役に当選したと判断される。このような内部抽選の仕組みでは、全乱数値（所定の数値範囲内）に占める当たり値の数の割合から当選役の当選確率が算出される。

【0009】

なお、上記の当たり値に対して、複数の当選役に当選したこととなるものを設けてもよい。これは、上記内部抽選にて取得された乱数値が当該当たり値となった場合、複数（例えば2つ）の当選役とともに当選したと判定する（これを当選役A、当選役Bとする、以下同様）当たり値のことをいう。これにより、1回の内部抽選でいずれか1つの当選役（例えば当選役A）だけに当選となる場合（このときの当たり値を単独当たり値という）もあれば、当選役A及び当選役Bのいずれにも当選となる場合（このときの当たり値を共有当たり値という）もあるということになる。従って、当該ゲームの結果として図柄変動表示装置で表示された結果が当選役Aに対応する内容のものであっても、当選役Bにも同時に当選していたかもしれないという可能性（あるいは期待感）を遊技者に持たせることができる。これらのことは「当たり値には、1つの当選役に対応する単独当たり値と、複数の当選役に対応する共有当たり値がある」、または「1回のゲーム結果には、1つの当選

10

20

30

40

50

役に対応する遊技特典のみを許容する場合と、複数の当選役に対応する遊技特典を許容する場合がある」と言い換えることもできる。

【0010】

1回のゲームで行われた内部抽選の抽選結果は、少なくとも当該ゲームで維持される。当選役のなかには、当該ゲーム限りで結果が破棄されるものもあれば、次回以降のゲームまで持ち越されるものもある。また、内部抽選の抽選結果がいずれの当選役にも該当しない場合、ハズレということになる（ハズレ役に当選したということもできる）。

【0011】

図柄は、遊技者が視覚によって個々を識別することができる絵、記号、マーク、飾り文字等を意味する。これらの図柄は遊技者が本発明の遊技機でゲームをする際の目印（可動表示体の停止操作を行う際の目安）とすることができる。この図柄のなかには、上記の当選役図柄や、ハズレ図柄（いずれの当選役図柄にも該当しない図柄）を含むことができる。図柄帯にはこれらの図柄が所定個数分だけ一定間隔で配置されており（これにより図柄列が形成される）、この図柄帯が可動表示体に付されている。

【0012】

複数の可動表示体は個々に停止操作を受け付けることが可能となっており、（遊技者により）可動表示体の停止操作が行われると、当該ゲームにおける内部抽選の抽選結果に基づいて各可動表示体の停止制御が行われる。

【0013】

図柄変動表示装置は所定箇所に図柄表示部を備えており、上記図柄帯の図柄の一部が視認可能となっている。言い換えれば、図柄表示部では、各可動表示体の図柄を所定個数分の図柄群として表示することが可能となっている。なお、図柄表示部は、遊技機本体の前面側に設けることが望ましい。このようにすると、遊技者が遊技機に正対してゲームを行うことができる。

【0014】

図柄表示部においては、上記可動表示体の回転中には回転している図柄群が視認され、また、可動表示体の停止時には所定個数分の図柄群が視認される。そして、最終的に全ての可動表示体が停止すると、図柄表示部に停止した図柄からなる図柄群が形成される。この図柄表示部に表示された図柄群からなる態様が最終的な図柄の組み合わせ態様（表示態様）となる。

【0015】

また、上記所定個数分の図柄数を増減させることにより、図柄表示部に表示可能となる図柄の総個数を増減させることもできる。つまり、図柄表示部に表示可能となる図柄の最大個数は、「所定個数×可動表示体の数」として表すことができ、所定個数をNとした場合、Nの値が大きくなればなるほど図柄表示部に表示可能となる図柄の最大個数が増えることになる。また、可動表示体の数を増やせば、その分だけ図柄表示部に表示可能となる図柄最大個数も増えることになる。これを利用して図柄最大個数を増やし、内部抽選の抽選結果が同一の結果であったとしても、図柄の組み合わせ態様としては異なる態様を多数表示するようにすれば、単調な（あるいはバリエーションの少ない）図柄の組み合わせ態様とならず、遊技者を飽きさせるという事態を回避できる。

【0016】

図柄表示部における当選役に対応する図柄の組み合わせ態様としての当選態様が有効となる表示位置に当選態様が表示されると、当選役に対応する遊技媒体が払い出される。

【0017】

「有効となる表示位置」は、図柄表示部での並び、組み合わせ等を意味し、一般的には複数の可動表示体にまたがる水平または斜めの並び（直線型となる形）の組み合わせのことをいう。直線型以外の形の組み合わせとしては、への字型、V字型、折れ曲がり型、ジグザグ型となる形が組み合わせとして挙げられる。これらの組み合わせのうち、複数種類が同時に有効となる態様とすることもできる。このようにすると、例えば、直線型及びV字型のいずれかの有効となる表示位置に所定の当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が

10

20

30

40

50

表示されればよいことになり、図柄表示部に上記所定の当選役に対応する図柄の組み合わせ態様を表示することができる可能性が増えることになる。

【0018】

また、遊技媒体の掛け数に応じて有効となる表示位置を変更させてもよい。これは、「1回のゲームごとに掛けられた遊技媒体の掛け数に応じて図柄表示部の有効となる表示位置を変更させる」ということである。これにより、例えば遊技媒体の掛け数を増やせば、図柄表示部で有効となる表示位置を増やしたり、あるいは遊技媒体の掛け数を減らせば、図柄表示部で有効となる表示位置を減らしたりすることが可能となる。このようにすると、遊技媒体の掛け数をできる限り多くしてゲームを行えば、内部抽選の結果として所定の当選役に当選となっている場合、該当する所定の当選役に対応する図柄の組み合わせ態様を有効となる表示位置に表示できる可能性が高くなる（表示させやすくすることができる）。

10

【0019】

更に、有効となる表示位置を各可動表示体から複数個の図柄を選び出してできる組み合わせとすることもできる。これは、例えば、図柄表示部に表示されている各可動表示体からそれぞれ2個の図柄を抜き出して構成される組み合わせや、1つの可動表示体からは3個の図柄を抜き出して、その他の可動表示体からは1個の図柄を抜き出して構成される組み合わせ、あるいは、各々の可動表示体から2個、2個、1個と図柄を抜き出して構成される組み合わせ等、少なくとも1つの可動表示体からは複数個の図柄を抜き出して構成された組み合わせとすることである。このような組み合わせは、各可動表示体から少なくとも1個の図柄を選び出して構成される組み合わせと比べると、どの組み合わせが有効になったかを遊技者が視認しづらいものとなる。よって、有効となる表示位置が増えることになり、遊技者には有効となる表示位置を分かりづらくすることができる。

20

【0020】

以上説明した基本構成は、以下の手段においても同様である。

【0021】

本発明において、上記内部抽選手段により当選役としての特定当選役が選出された場合、可動表示体の全てが停止する前に、当該特定当選役に対応する遊技媒体の払い出しに係る払出予告が実行可能となっている。つまり、払出予告の実行によって特定当選役への当選が予告されるのである。ここで払出予告は遊技媒体の払い出しに係るものであるため、遊技者の関心を惹きやすく、通常遊技状態における特定当選役への当選をインパクトのあるものとして行うことができる。したがって、仮にBB等の機会を連続して得られることがないとしても、遊技者を飽きさせることを極力回避することができる。結果として、遊技の興趣の低下を抑制することができる。

30

【0022】

手段2．手段1に記載の遊技機において、

前記可動表示体の図柄帯には、前記特定当選役に対応する特定当選態様を構成する図柄が前記図柄列の所定範囲毎に配置され、

前記可動表示体停止制御手段は、前記内部抽選手段により前記特定当選役が選出された場合、前記停止操作手段による前記停止操作に基づき前記所定範囲で引き込み制御を行うことで、前記有効となる表示位置に前記特定当選態様を表示可能な特定当選態様表示手段を有していること

40

を特徴とする遊技機。

【0023】

手段2によれば、可動表示体の図柄帯には、特定当選役に対応する特定当選態様を構成する図柄が図柄列の所定範囲毎に配置されている。例えば、特定当選態様を構成する図柄が、最大でも図柄4個分の範囲に配置されているという具合である。そして、可動表示体停止制御手段によって、内部抽選手段により特定当選役が選出された場合、停止操作手段による停止操作に基づき所定範囲で引き込み制御を行うことで、有効となる表示位置に特定当選態様が表示されるようになっている。これにより、特定当選役については、目押

50

しを行わなくとも、特定当選態様が表示されることになり、取りこぼしがなくなる。

【0024】

なお、「目押し」とは、目的の図柄を狙って停止操作を行うことをいい、回胴式遊技機における技量の一つである。当選態様の図柄が所定範囲毎に配置されていない場合には、目押しが必要となる。このとき、停止操作のタイミングを誤ると、図柄表示部に当選態様が表示されず、遊技媒体の払い出しが行われない。これが「取りこぼし」であり、当選役に当選していたにもかかわらず、遊技媒体が払い出されない事態となる。この取りこぼしは、遊技者にとって悔しいものであり、また、技量不足という意味で恥ずかしさを覚える遊技者も多い。

【0025】

手段3．手段2に記載の遊技機において、

前記払出予告手段は、前記可動表示体が停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体を払い出す事前払出手段であること

を特徴とする遊技機。

【0026】

手段3によれば、可動表示体が停止する前に特定当選役に対応する遊技媒体が払い出されるため、通常遊技状態における特定当選役への当選を、特に、インパクトのあるものとすることができる。

【0027】

手段4．手段1又は2に記載の遊技機において、

前記払出予告手段は、前記可動表示体が停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体の払出数を表示する払出数表示制御手段であること

を特徴とする遊技機。

【0028】

手段4によれば、可動表示体が停止する前に特定当選役に対応する遊技媒体の払出数が表示されるため、特定当選役への当選を分かり易いものとすることができ、従来のように特定当選役に対応する演出を理解する必要がなくなるため、遊技の興趣の低下を抑制することができる。また、払出数の異なる複数の特定当選役が設けられている場合、いずれの特定当選役に当選したのかが一目瞭然となる。これにより、例えば目押しが必要であるか否かを遊技者に理解させることができ、注意を喚起することができるため、取りこぼしの可能性が小さくなる。

【0029】

手段5．手段1又は2に記載の遊技機において、

前記払出予告手段は、前記可動表示体が停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体の払出数に基づく予告数であって、当該特定当選役を遊技者が推測するための予告数を表示する予告数表示制御手段であること

を特徴とする遊技機。

【0030】

手段5によれば、可動表示体が停止する前に特定当選役に対応する遊技媒体の払出数以下に設定される予告数が表示されるため、特定当選役への当選を分かり易いものとすることができ、従来のように特定当選役に対応する演出を理解する必要がなくなるため、遊技の興趣の低下を抑制することができる。また、予告数は、選出された特定当選役を遊技者が推測するためのものである。これにより、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性を有しており、遊技の興趣の向上が図られる。結果として、予告数から特定当選役が推測できる場合には、例えば目押しが必要であるか否かを遊技者に理解させることができ、注意を喚起することができるため、取りこぼしの可能性が小さくなる。

【0031】

手段6．手段5に記載の遊技機において、

前記予告数は、前記特定当選役に対応する前記払出数と同一、又は、前記払出数を下回

10

20

30

40

50

るものであり、

前記予告数表示制御手段は、前記内部抽選手段により選出された第1の特定当選役よりも前記払出数が少ない第2の特定当選役がある場合、当該第2の特定当選役に対応する払出数を上回る予告数を表示すること

を特徴とする遊技機。

【0032】

手段6では、内部抽選手段により選出された第1の特定当選役よりも払出数が少ない第2の特定当選役がある場合、第2の特定当選役に対応する払出数を上回る予告数が表示される。そして、予告数は、特定当選役に対応する払出数と同一、又は、払出数を下回るものとなっている。例えば特定当選役としてのベルに対応する払出数が「6」、チェリーに対応する払出数が「4」である場合、ベルへの当選があった場合には、チェリーに対応する払出数「4」を上回る「5」又は「6」が予告数として表示される。したがって、第1の特定当選役に当選した場合に表示される予告数から、少なくとも第2の特定当選役への当選可能性が除外できることになる。このようにすれば、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性が顕著なものとなる。

【0033】

手段7. 手段5又は6に記載の遊技機において、

前記予告数表示制御手段は、一回のゲームにおける遊技者の操作に基づく複数のタイミングで、前記予告数を段階的に変化させながら表示すること

を特徴とする遊技機。

【0034】

手段7によれば、一回のゲームにおける遊技者の操作に基づく複数のタイミングで予告数が段階的に変化しながら表示されるため、一回のゲームにおける複数の操作に伴って遊技者に特定当選役を推測させることができる。このようにすれば、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性が顕著なものとなる。

【0035】

手段8. 手段1乃至7のいずれかに記載の遊技機において、

効果音を出力するための効果音出力手段と、

前記払出予告手段による前記払出予告の実行に際し、前記効果音出力手段を介して効果音を出力する効果音出力制御手段と

を備えていることを特徴とする遊技機。

【0036】

手段8によれば、払出予告の実行に際して効果音が出力されるため、払出予告をインパクトのあるものとすることができる。ここで、効果音は、払出効果音とすることが望ましい。この場合、可動表示体の停止後における払い出しに用いられる払出効果音を利用してよいし、別の払出効果音を用意してもよい。このようにすれば、払出数や予告数を表示する構成においても、実際に遊技媒体の払い出しが行われているかのような感覚を遊技者に与えることができ、遊技の興趣向上に寄与する。

【0037】

手段9. 複数の図柄を図柄列として施した図柄帯を有する可動表示体と、前記可動表示体を複数備えた図柄変動表示装置を有し、遊技媒体の投入に続くゲームの開始操作により内部抽選を実行して複数の前記可動表示体の回転を開始させ、前記可動表示体の停止操作が受け付けられると、前記図柄変動表示装置に1回のゲームの結果を表示し、当該結果に基づいて遊技媒体の払い出しを行う遊技機において、

前記可動表示体の停止状態において前記図柄帯の図柄の一部を視認可能とする図柄表示部と、

前記内部抽選として、各ゲーム毎に予め決められた複数の当選役及びハズレ役のうち少なくとも1つを選出する内部抽選手段と、

前記可動表示体の回転を個々に停止させるべく前記可動表示体の各々について前記停止操作を受け付ける停止操作手段と、

10

20

30

40

50

前記停止操作手段による前記停止操作及び前記内部抽選手段による前記内部抽選の結果に基づいて、前記可動表示体の停止を制御する可動表示体停止制御手段と、

前記図柄表示部における前記当選役に対応する図柄の組み合わせ態様としての当選態様が有効となる表示位置に前記当選態様が表示されると、前記当選役に対応する遊技媒体を払い出す遊技媒体払出手段と、

前記内部抽選手段により前記当選役としての特定当選役が選出された場合、前記可動表示体の全てが停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体の払い出しに係る払出予告を実行可能な払出予告手段と、

効果音を出力するための効果音出力手段と、

前記払出予告手段による前記払出予告の実行に際し、前記効果音出力手段を介して効果音を出力する効果音出力制御手段と

を備えていることを特徴とする遊技機。

【0038】

手段9によれば、上記内部抽選手段により当選役としての特定当選役が選出された場合、可動表示体の全てが停止する前に、当該特定当選役に対応する遊技媒体の払い出しに係る払出予告が実行可能となっている。つまり、払出予告の実行によって特定当選役への当選が予告されるのである。ここで払出予告は遊技媒体の払い出しに係るものであるため、遊技者の関心を惹きやすく、通常遊技状態における特定当選役への当選をインパクトのあるものとすることができる。したがって、仮にBB等の機会を連続して得られることがないとしても、遊技者を飽きさせることを極力回避することができる。結果として、遊技の興趣の低下を抑制することができる。

【0039】

また、払出予告の実行に際して効果音が出力されるため、払出予告をインパクトのあるものとすることができる。ここで、効果音は、払出効果音とすることが望ましい。この場合、可動表示体の停止後における払い出しに用いられる払出効果音を利用してもよいし、別の払出効果音を用意してもよい。

【0040】

手段10．手段9に記載の遊技機において、

前記可動表示体の図柄帯には、前記特定当選役に対応する特定当選態様を構成する図柄が前記図柄列の所定範囲毎に配置され、

前記可動表示体停止制御手段は、前記内部抽選手段により前記特定当選役が選出された場合、前記停止操作手段による前記停止操作に基づき前記所定範囲で引き込み制御を行うことで、前記有効となる表示位置に前記特定当選態様を表示可能な特定当選態様表示手段を有していること

を特徴とする遊技機。

【0041】

手段10によれば、可動表示体の図柄帯には、特定当選役に対応する特定当選態様を構成する図柄が図柄列の所定範囲毎に配置されている。例えば、特定当選態様を構成する図柄が、最大でも図柄4個分の範囲に配置されているという具合である。そして、可動表示体停止制御手段によって、内部抽選手段により特定当選役が選出された場合、停止操作手段による停止操作に基づき所定範囲で引き込み制御を行うことで、有効となる表示位置に特定当選態様が表示されるようになっている。これにより、特定当選役については、目押しを行わなくとも、特定当選態様が表示されることになり、取りこぼしがなくなる。

【0042】

手段11．手段10に記載の遊技機において、

前記払出予告手段は、前記可動表示体が停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体を払い出す事前払出手段であること

を特徴とする遊技機。

【0043】

手段11によれば、可動表示体が停止する前に特定当選役に対応する遊技媒体が払い出

10

20

30

40

50

されるため、通常遊技状態における特定当選役への当選を、特に、インパクトのあるものとすることができる。

【0044】

手段12. 手段9又は10に記載の遊技機において、

前記払出予告手段は、前記可動表示体が停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体の払出数を表示する払出数表示制御手段であること

を特徴とする遊技機。

【0045】

手段12によれば、可動表示体が停止する前に特定当選役に対応する遊技媒体の払出数が表示されるため、特定当選役への当選を分かり易いものとすることができ、従来のように特定当選役に対応する演出を理解する必要がなくなるため、遊技の興趣の低下を抑制することができる。また、払出数の異なる複数の特定当選役が設けられている場合、いずれの特定当選役に当選したのかが一目瞭然となる。これにより、例えば目押しが必要であるか否かを遊技者に理解させることができ、注意を喚起することができるため、取りこぼしの可能性が小さくなる。

【0046】

手段13. 手段9又は10に記載の遊技機において、

前記払出予告手段は、前記可動表示体が停止する前に、前記特定当選役に対応する遊技媒体の払出数に基づく予告数であって、当該特定当選役を遊技者が推測するための予告数を表示する予告数表示制御手段であること

を特徴とする遊技機。

【0047】

手段13によれば、可動表示体が停止する前に特定当選役に対応する遊技媒体の払出数以下に設定される予告数が表示されるため、特定当選役への当選を分かり易いものとすることができ、従来のように特定当選役に対応する演出を理解する必要がなくなるため、遊技の興趣の低下を抑制することができる。また、予告数は、選出された特定当選役を遊技者が推測するためのものである。これにより、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性を有しており、遊技の興趣の向上が図られる。結果として、予告数から特定当選役が推測できる場合には、例えば目押しが必要であるか否かを遊技者に理解させることができ、注意を喚起することができるため、取りこぼしの可能性が小さくなる。

【0048】

手段14. 手段13に記載の遊技機において、

前記予告数は、前記特定当選役に対応する前記払出数と同一、又は、前記払出数を下回るものであり、

前記予告数表示制御手段は、前記内部抽選手段により選出された第1の特定当選役よりも前記払出数が少ない第2の特定当選役がある場合、当該第2の特定当選役に対応する払出数を上回る予告数を表示すること

を特徴とする遊技機。

【0049】

手段14では、内部抽選手段により選出された第1の特定当選役よりも払出数が少ない第2の特定当選役がある場合、第2の特定当選役に対応する払出数を上回る予告数が表示される。そして、予告数は、特定当選役に対応する払出数と同一、又は、払出数を下回るものとなっている。例えば特定当選役としてのベルに対応する払出数が「6」、チェリーに対応する払出数が「4」である場合、ベルへの当選があった場合には、チェリーに対応する払出数「4」を上回る「5」又は「6」が予告数として表示される。したがって、第1の特定当選役に当選した場合に表示される予告数から、少なくとも第2の特定当選役への当選可能性が除外できることになる。このようにすれば、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性が顕著なものとなる。

【0050】

手段１５．手段１３又は１４に記載の遊技機において、
前記予告数表示制御手段は、一回のゲームにおける遊技者の操作に基づく複数のタイミングで、前記予告数を段階的に変化させながら表示すること
を特徴とする遊技機。

【００５１】

手段１５によれば、一回のゲームにおける遊技者の操作に基づく複数のタイミングで予告数が段階的に変化しながら表示されるため、一回のゲームにおける複数の操作に伴って遊技者に特定当選役を推測させることができる。このようにすれば、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性が顕著なものとなる。

【発明の効果】

10

【００５２】

本発明によれば、通常遊技状態における特定当選役への当選をインパクトのあるものとすることができ、遊技の興趣の低下を抑制することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００５３】

以下に本発明の実施の形態を遊技機たるスロットマシンを例に図面を参照しつつ説明する。なお、図１はスロットマシンの分解斜視図、図２は扉形前面部材を省略した状態を示すスロットマシンの分解斜視図、図３はスロットマシンの斜視図、図４は扉形前面部材を省略した状態を示すスロットマシンの縦断面図、図５は図４のＺ１部拡大図、図６はコネクタホルダーを移動させた状態を示す図４のＺ１部拡大図、図７は扉形前面部材を省略した状態を示すスロットマシンの横断面図、図８（ａ）は図７のＺ２部拡大図、図８（ｂ）はコネクタホルダーを移動させた状態を示す図７のＺ２部拡大図、図９は図８（ａ）の要部を示す拡大図、図１０は背板側を示すスロットマシン要部の横断面図、図１１はケース部材の分解斜視図、図１２はケース部材を後ろから見た斜視図、図１３（ａ）、（ｂ）はコネクタホルダーの仮止め状態を説明するケース部材の要部の斜視図、図１４は配線中継部材の分解斜視図、図１５は配線中継部材のカバー体を省略した正面図、図１６はコネクタホルダーの分解斜視図、図１７はケース部材を止めるストッパーの斜視図、図１８は他の形態を示すストッパーの斜視図、図１９、図２０はケース部材のガイド構造を示す要部の断面図、図２１は把手の他の形態を示す図柄変動表示装置の部分斜視図、図２２はケース部材と外本体側のストッパーとの関係を示す要部の斜視図、図２３は配線窓と図柄変動表示装置のリールとの関係を示す要部の断面図である。

20

30

【００５４】

本発明のスロットマシン１は、前面が開口する箱形の外本体１００と、該外本体１００の前面に横開きの扉状に回動可能に取り付けた扉形前面部材２００と、複数の図柄を駆動手段で変動させる図柄変動表示装置３００と、前記外本体１００に対し着脱自在であって前面に開口部４０１を有するケース部材４００と、任意の画像を表示する画像表示体５００と、を有する。

【００５５】

〔外本体〕

外本体１００は、図１～図４に示したように底板１０１の左右に側板１０２、１０２を取着すると共に該側板１０２、１０２の頂部に天板１０３を設置して正面視縦長「口」字形の枠状となし、その枠の背に背板１０４を固着して前面のみ開口する箱形に形成してなる。前記左右の側板１０２、１０２は前縁が後傾状態に僅かに傾斜する台形になっており、従って外本体１００の開口は後傾状態の傾きを有する。

40

【００５６】

〔外本体－仕切板〕

外本体１００内には高さのほぼ中央に柵板状の仕切板１０５が設けられている。該仕切板１０５は金属製であって、図１、図２に示したように中央に突段部１０６を有する正面視略凸形であり、両端に形成した垂直な取付片１０７を外本体１００の側板１０２、１０２内面に固着し、また、後端に形成した垂直な取付片１０８を外本体１００の背板１０４

50

内面に固着して取り付けられる。なお、仕切板 105 の後端の取付片 108 にはパーリング加工（下孔の孔径をポンチで広げながら短筒状の突起を立ち上げる金属加工）による筒状突起（図示せず）が形成されており、該筒状突起を外本体 100 の背板 104 にプレ加工した小孔（図示せず）に打ち込んで位置決めされる。また、仕切板 105 の両横の最奥部には外本体 100 の背板 104 との間に配線用の開口 109 が形成されている。

【0057】

外本体 100 内の前記仕切板 105 より下のスペースには、遊技媒体たるメダルを前記扉形前面部材 200 の前面下部にあるメダル用受皿 201 に放出するメダル放出装置 110 と、メダル放出装置 110 からオーバーフローするメダルを貯めるメダル用補助収納箱 111 と、電源装置 112 等が設けられている。

10

【0058】

前記メダル放出装置 110 は、駆動手段（例えばホップモータ 110f）を内蔵した装置本体 110a にメダル貯留用のホップ 110b を取り付けたものであり、装置本体 110a の前面にメダルの放出口 110c が設けられていて、ホップ 110b 内にあるメダルが前記駆動手段の作動により放出口 110c に向けて 1 枚ずつ送り出される。また、ホップ 110b には溢れたメダルを排出させるオーバーフロー樋 110d が設けてあり、そのオーバーフロー樋 110d の突端下方に前記したメダル用補助収納箱 111 が臨む。

【0059】

一方、外本体 100 内の仕切板 105 より上のスペースには前記ケース部材 400 が納められ、また、外本体 100 の背板 104 の内面には後述する配線手段の中核となる配線中継部材 113 が取り付けられている（図 1，図 2 参照）。

20

【0060】

〔扉形前面部材〕

図 3 に扉形前面部材 200 の表側が、また、図 1 に扉形前面部材 200 の裏側が示されている。扉形前面部材 200 は、表側の下方にメダル用受皿 201 を有し、また、表側のほぼ中央に操作部 202 が設けられている。この操作部 202 には、メダル投入用の投入口 203 と、後述するメイン基板 409 のメモリーにデータとして蓄えられているメダルから 1 枚のみの投入（引き落とし）を指示する 1 枚投入ボタン 205 と、同じく 1 回のゲームで使用可能な最高枚数（例えば 3 枚）の投入を指示する MAX 投入ボタン 206 と、後述するメダルセクタ 207 の中に詰まったメダルをメダル用受皿 201 に戻すためのメダル返却ボタン 208 と、メイン基板 409 のメモリーにデータとして蓄えられているメダルの貯留解除命令（精算による放出命令）を入力するための貯留解除スイッチ 209 と、前記図柄変動表示装置 300 を作動させる始動レバー 210 と、図柄変動表示装置 300 の各リール 301a，301b，301c を停止させる 3 個のリール停止ボタン 211a，211b，211c 等が設けられている。もちろんここに示した操作部 202 の構成は 1 つの例示であり、これらに限定されるものではない。

30

【0061】

また、前記投入口 203 の裏側にはメダルセクタ 207 が設けられており、そのメダルセクタ 207 の横にメダル樋 212 が、また、下に返却樋 213 が接続している。メダルセクタ 207 は内蔵したソレノイド 207a（図示せず）を ON・OFF させることによって流路を切り替える公知のものであり、遊技者からのメダルの投入を待つ遊技状態のときには流路をメダル樋 212 側に、また、規定枚数を越えたメダルの投入など、メダルの投入を拒否する遊技状態のときには流路を返却樋 213 側に設定する。前記メダル樋 212 は、扉形前面部材 200 が外本体 100 の前面に被さる閉じ位置にあるときその突端がメダル放出装置 110 のホップ 110b 内に臨むようになっており、投入口 203 からメダルセクタ 207 を通ってメダル樋 212 に流れたメダルはホップ 110b に行き着く。一方、前記返却樋 213 は表側のメダル用受皿 201 に繋がっており、投入口 203 からメダルセクタ 207 を通って返却樋 213 に流れたメダルはメダル用受皿 201 に戻る。

40

【0062】

50

扉形前面部材 200 は外本体 100 の前面全体をカバーする大きさであって、その上半部は、透明板を嵌めたゲーム用の透視窓 214 になっており、その透視窓 214 から前記画像表示体 500 と図柄変動表示装置 300 が上下に並んで見えるようになっている。また、扉形前面部材 200 の自由端側の一侧には専用キー（図示せず）を使って開閉操作する錠装置 215 が設けてある。

【0063】

[図柄変動表示装置]

図柄変動表示装置 300 はリール回転式表示装置であって、モータ等の駆動手段 303 で個別に回転可能な例えば 3 個のリール 301 a, 301 b, 301 c と、該リール 301 a, 301 b, 301 c を組込み・収容する装置ケース 302 とを有し、リール 301 a, 301 b, 301 c の周面に描いた複数の図柄（図示せず）の組合せで遊技を行う周知のものである。

10

【0064】

前記装置ケース 302 は、あたかも横倒しにした八角柱から正面（遊技者）に向かう 3 面を除いた変形六角柱形態であって、底部板 304 と、天部板 305 と、図 11 において向かって右側の右側板 306 と、同じく左側の左側板 307 と、後面を覆う垂直な後部板 308 と、天部板 305 と後部板 308 の間に設けた上斜板 309 と、底部板 304 と後部板 308 の間に設けた下斜板 310 で囲った箱形であり、前記リール 301 a, 301 b, 301 c の円弧の一部が装置ケース 302 の正面からはみ出す状態になっている。

【0065】

20

また、装置ケース 302 の天部板 305 には指掛可能な使用状態と、天部板 305 に伏した不使用状態とに変化可能な把手 311 が設けられており、該把手 311 に指を掛けて持ち運ぶようになっている。このように装置ケース 302 の天部板 305 に上記のごとく変化可能な把手 311 を設ける構成は、ケース部材 400 の強度アップ策と密接に関連する。すなわち、実施形態では後述するようにケース部材 400 の開口部 401 に補強棧 402 を設け、もってケース部材 400 の開口部 401 に画像表示体 500 を片持ちさせるに十分な強度を付与しているが、そのような補強棧 402 は開口部 401 を横切るから装置ケース 302 のケース部材 400 への出し入れに対し、明らかに障害となる。これに対し実施形態のように把手 311 を変化可能にして天部板 305 に伏させておけば、把手 311 の出っ張りがなくなるから、装置ケース 302 が補強棧 402 の下を難なく通過できるのである。従って、装置ケース 302 の天部板 305 に上記のように変化可能な把手 311 を設けてこそ、ケース部材 400 の開口部 401 に該開口部 401 を横切る向きの補強棧 402 を設けることが可能になる。ちなみに、従来の装置ケースは、天部板から把手が出っ張っていてそれが障害になるため、ケース部材の開口部に補強棧を設ける余地がない。

30

【0066】

なお、実施形態の把手 311 は、立てた使用状態と伏した不使用状態とに揺動して変化させる構造としたが、把手 311 を使用状態と不使用状態とに変化させ得る構造は、実施形態に限定されない。例えば図 21 に示したように、天部板 305 に 2 つのベルト通し 314, 314 を切り起こし、該ベルト通し 314, 314 に例えば合成樹脂や革製であって両端に抜け止め部 315, 315 を設けてなる帯状の把手 311 を挿通し、図 21 の伏した不使用状態から中央を引き上げて指掛可能な使用状態に変化させる構造にするなど、指掛可能な使用状態と、天部板 305 に伏した不使用状態とに変化可能であれば、どのような構造であってもよい。また、実施形態の装置ケース 302 の底部板 304 には図 4, 図 11 に示したようにフランジ状の下把手 316 が突設されており、該下把手 316 をつかんで装置ケース 302 を押し込み又は引っ張ることにより、ケース部材 400 への出し入れが行い易くなっている。

40

【0067】

[ケース部材]

ケース部材 400 は、前記外本体 100 の仕切板 105 から上のスペースにはほぼ合致す

50

る大きさであって、底板４０３と、該底板４０３の左右両横に立設した側板４０４、４０４と、底板４０３の後縁に立設した後面板４０５と、該後面板４０５と前記側板４０４、４０４の上面を覆う天板４０６とからなり、前面に開口部４０１を有する箱形である。

【００６８】

該ケース部材４００は、底板４０３が金属製で、側板４０４、４０４、後面板４０５、天板４０６が合成樹脂製であり、側板４０４、４０４と天板４０６の開口部４０１内面に金属製の補強部材４０７、４０７、４０７が設けられ、さらに側板４０４、４０４の補強部材４０７、４０７の間に開口部４０１を横切る金属製の補強棧４０２が掛け渡されている。そして、この補強棧４０２を境にそれより下が前記図柄変動表示装置３００の設置領域として、また、補強棧４０２より上の開口部４０１が前記画像表示体５００の設置領域として、さらにまた、画像表示体５００より後方のケース部材４００で囲われた領域が配線作業空間４０８として割り当てられ、その配線作業空間４０８の後面板４０５の内壁面に、主たる制御基板であるメイン基板４０９が装着され、さらにメイン基板４０９以外の制御基板等（例えばサブ基板４４９）も配線作業空間４０８内に装着されている。

【００６９】

ケース部材４００の後面板４０５の外面には図２、図５、図６、図１２に示したように複数のボス４１０、４１０が突設されており、該ボス４１０を外本体１００の背板１０４にプレ加工したボス孔１１４、１１４に嵌めて位置決めされる。なお、このボス４１０、４１０は、図２、図５に示したように後述する配線窓４１１近くに設けられており、一方、外本体１００側のボス孔１１４、１１４は前記配線中継部材１１３近くに設けられており、これによりケース部材４００の配線窓４１１と背板１０４の配線中継部材１１３の位置決めが正確になる。

【００７０】

一方、ケース部材４００の底板４０３の底面には、図２に示したように凹段部４１２が形成されており、該凹段部４１２が前記仕切板１０５の突段部１０６に嵌まり合う。凹段部４１２の後面板４０５側の端部には後方に向かって拡大する向きのテーパ部４１３が設けてあり、該テーパ部４１３に案内され仕切板１０５の突段部１０６とケース部材４００の凹段部４１２との嵌め合わせが円滑に行える。このようにケース部材４００の凹段部４１２と仕切板１０５の突段部１０６の嵌め合いによってケース部材４００が仕切板１０５の奥に真っ直ぐに案内されるが、例えば図１９に示したように仕切板１０５に凹溝形態のレール部材１１５を敷設又は一体にプレス成形し、一方、ケース部材４００の底板４０３に車輪４１４を設置し、該車輪４１４をレール部材１１５の溝内で転がらせるようにしてもよい。或は、図２０に示したように仕切板１０５に凸形態のレール部材１１６を敷設又は一体にプレス成形し、一方、ケース部材４００の前記車輪４１４の両端に鍰４１５、４１５を形成し、該車輪４１４の鍰４１５、４１５でレール部材１１６を挟ませるようにしてもよい。

【００７１】

また、ケース部材４００は、仕切板１０５上の所定の位置にセットした状態で、図１、図２、図１７、図２２に示した揺動レバー形態のストッパー１１７、１１７、１１７で止められている。このストッパー１１７は、図１、図２に示したように仕切板１０５の前端部と、天板１０３に垂設した２つの取付具１１８、１１８とに軸着されており、図１７実線のようにケース部材４００の一部に係合する作動姿勢と、図１７想像線のようにケース部材４００に係合しない非作動姿勢とを手動で切り替えてケース部材４００の仕切板１０５上における前方向の動きを規制する。なお、ストッパー１１７を図１８に示したように鍵形にしてケース部材４００に設けた引掛部４１６に係合させるようにすれば、ケース部材４００の仕切板１０５上における上方向の動きも規制することができる。また、天板１０３の取付具１１８に軸着したストッパー１１７は、図２２に示したようにケース部材４００の側板４０４と天板４０６のコーナー部に貫設した係止孔４４２に臨む位置にあり、ケース部材４００を所定の位置に押し込んだ状態でケース部材４００の内側から作動姿勢と非作動姿勢の切り替えが行えるようになっている。

【0072】

また、ケース部材400の後面板405には外本体100の背板104側に貫通する長孔形態の配線窓411が開設されている。該配線窓411は、図4、図5、図23に示したようにケース部材400に設置した図柄変動表示装置300の装置ケース302の上斜板309に対応し且つ前記メイン基板409の下側の位置にあり、上斜板309の上にある横長の空きスペース417（或は上斜板309とメイン基板409の間に形成される横長の三角スペース417と観念してもよい。）と背板104を結ぶ開口として機能する。

【0073】

また、ケース部材400には図5、図12に示したように空きスペース417の高さのほぼ中間位置に棚板状の仮止め部材418（以下「仮止め棚」ともいう。）が設けられており、また、後面板405の外側であって配線窓411の両横にケース部材400の左右側面に抜ける配線用の凹み419、419が形成されている。

10

【0074】

なお、前記配線窓411の配置を、図柄変動表示装置300のリール301a、301b、301cを基準に特定するならば、配線窓411は、図23に示したように図柄変動表示装置300のリール301a、301b、301cの回転中心を通る水平面HLと、リール301a、301b、301cの最高高さ位置を通る水平面HHとの間を下限とする状態に配置したものである、と言い換えることもできる。

【0075】

〔画像表示体〕

20

画像表示体500は、例えば、少なくとも液晶ディスプレイ（他にもプラズマディスプレイや有機ELディスプレイ等でもよい。）で構成される画像表示可能なパネル形のユニットであり、図11においてケース部材400の左側の側板404に設けた補強部材407にヒンジ金具420を取り付けて（取付位置は図11斜線部参照）、該ヒンジ金具420により回動自在に支持されている。

【0076】

図11、図12に示したように、ケース部材400の縦の補強部材407のうち前記ヒンジ金具420を設けた補強部材407の反対側の補強部材407（図11において向かって右側）にはロック片421が軸着されており、該ロック片421を図11の状態から時計回りに回動させるとその先端が画像表示体500の裏側に突設した受部508に係合し、この状態で画像表示体500がケース部材400の開口部401の上部を閉じた位置にロックされる。一方、前記ロック片421をロック状態から逆向きに回動させると画像表示体500のロックが解除され、ヒンジ金具420を中心に回動自在になる。通常、ケース部材400を外本体100に装着する前の状態では画像表示体500を閉じ位置にロックして無用の回動を防止し、一方、ケース部材400を外本体100に装着した状態では画像表示体500のロックを解除して回動自在とする。そうすることにより扉形前面部材200を開いて直ぐに画像表示体500の奥の配線作業空間408内のチェックが行える。

30

【0077】

なお、画像表示体500の奥の配線作業空間408内のチェックを効率よく行う手段として、扉形前面部材200と画像表示体500を適宜な連結具で連結し、扉形前面部材200の開閉に連動して画像表示体500も一緒に開閉させるようにしてもよい。この場合、実施形態の扉形前面部材200と画像表示体500は、回転中心の位置が異なるため、両者の動きに相対的なずれが生じるが、そのような動きのずれは、連結具を柔軟なワイヤーにするか或は伸縮自在なロッドにする等して吸収できる。但し、連結具が柔軟なワイヤー等であると、扉形前面部材200を閉じる段階で扉形前面部材200が開いたまま停止している画像表示体500にぶつかることになって、円滑さを損なうおそれがある。これに対し、例えば画像表示体500に巻バネなどの付勢手段を設けて常時閉じ方向に付勢するようにすればよい。そうすることにより扉形前面部材200の閉じ動作に際し、画像表示体500が前記付勢力の作用で連結具を引っ張りつつ自力で閉じるから、扉形前面部材

40

50

200と画像表示体500がぶつからない。もちろん扉形前面部材200と画像表示体500の連れ回りのための手段は上記に限定されない。

【0078】

また、ケース部材400に対する画像表示体500の取着手段をヒンジ構造にして該画像表示体500を扉状に回動させ得る構成に、上記のように画像表示体500を閉じ位置にロックするロック手段（上記のロック片421）を付加した場合には、ケース部材400を外本体100に装着した状態で原則ロックを継続させ、配線作業空間408内のチェック等、必要な時にのみロックを解除する、という取り扱いを選択することも可能であり、その場合には画像表示体500によって配線作業空間408内の重要部品（例えばメイン基板409）がブロックできるから、防犯性能の向上に効果がある。

10

【0079】

ケース部材400の開口部401上縁と閉じた画像表示体500の上縁との前後間には隙間10が設けられており、該隙間10に通した指で天板406の前記補強部材407が掴めるようになっている。また、ケース部材400の天板406の前方中央部分には把手口422が形成されており、該把手口422に通した指で天板406の補強部材407が掴めるようになっている。従ってケース部材400は、取り扱う場所や姿勢に応じて該把手口422と前記隙間10との適宜な使い分けが可能である。例えば、ケース部材400を外本体100に組み込む前の搬送時には把手口422を使って鞆形態に持ち運ぶ方がバランスがよく、一方、ケース部材400を外本体100に装着した状態では、図4に示したように把手口422が外本体100の奥に隠れて指が入らないため、前記隙間10から補強部材407に指を掛けてケース部材400を引っ張り出す、という具合である。なお、ケース部材400の底板403の正面中央には前記した装置ケース302の下把手316（図4、図11参照）が突出しており、該下把手316を持って押し込み又は引っ張ることで外本体100へのケース部材400の出し入れが容易に行える。この場合の下把手316は、装置ケース302がケース部材400にビスで固着されていることよりケース部材400と一体であり、従ってケース部材400の床板403の正面に下把手316が突設されているに等しい。

20

【0080】

〔画像表示体一枠部材〕

画像表示体500は、ケース部材400の開口部401の前記補強枠402から上の領域のほぼ全部を覆う大きさである。また、画像表示体500の下側には、ケース部材400の開口部401の前記補強枠402から下の領域、つまり図柄変動表示装置300の前方領域を額縁状に囲う枠部材501が一体に垂設されており、該枠部材501により前記図柄変動表示装置300のリール301a、301b、301cが縁取られる。この枠部材501の表面は装飾面になっており、適宜な模様等が描かれている。

30

【0081】

〔画像表示体一枠部材－照明装置〕

前記枠部材501の裏側上下には照明装置502が設けられており、該照明装置502によって図柄変動表示装置300の図柄が明るく照らされる。実施形態として例示した照明装置502は、図4に示したように、図の紙面と直交する方向（スロットマシン1の幅方向）に細長い帯状の基板503に多数のLED504を並べたものであり、下側の照明装置502は、上面を例えば乳白色の透光性蓋板505で塞いだチューブ枠506の中にLED504を上向きにして配置し、一方、上側の照明装置502は、断面上向きコ字状の透光性カバー507内にLED504を下向きにして配置してなる。

40

【0082】

なお、上側の照明装置502は、照明方向を図4に示したように真下より遊技者側に傾けて設置してある。実験によれば、照明装置502の照明方向をリール301a、301b、301cの周面側に向けた場合には、リール301a、301b、301cの特定部分が強く照らされて見辛くなるのに対し、前記のように傾けた場合には、リール301a、301b、301cの広い範囲がほぼ均等に照らされて見え易くなることが確認できた

50

。扉形前面部材 200 の透視窓 214 に嵌めた透明板により照明装置 502 の光が反射されて全体に拡散するか、或は透明板が明るく照らされることでリール 301a, 301b, 301c の広い範囲が明るく見えるか、或はそれらの相乗作用によるものと推測される。また、枠部材 501 は画像表示体 500 の下に垂設されていて図柄変動表示装置 300 に近いから、そのような枠部材 501 に照明装置 502 を組み込むことで光源を図柄変動表示装置 300 に近づけることができる。従って枠部材 501 に照明装置 502 を組み込む手段は、従来の照明装置に比べて低光量でも十分な明るさが確保できる、という特徴がある。

【0083】

〔配線手段〕

前記外本体 100 に取り付けられている例えばメダル放出装置 110 や電源装置 112 及び扉形前面部材 200 の操作部 202 にある例えば各投入ボタン 205, 206 や始動レバー 210 (以下、これらの総称として単に「本体側電気部品」という場合もある。)と、ケース部材 400 にある例えばメイン基板 409 等 (ケース部材側の電気部品の総称として単に「ケース部材側電気部品」という場合もある。)とは、電氣的に接続されている。そして、実施形態のスロットマシン 1 は、遊技ユニット (ケース部材 400) が外本体 100 に対し着脱自在であるため、遊技ユニット (ケース部材 400) の交換等に際して本体側電気部品とケース部材側電気部品とを簡単に接続又は切り離すための合理的な配線手段が設けられている。

【0084】

〔配線手段—配線中継部材〕

前記のように外本体 100 の背板 104 の内面上部には、図 14 に示した配線中継部材 113 が取り付けられている。該配線中継部材 113 は図 4, 図 5 に示したように、前記ケース部材 400 の配線窓 411 に対応する位置にあって該配線窓 411 からケース部材 400 の空きスペース 417 に臨むようになっている。配線中継部材 113 は、前記本体側電気部品につながる本体側配線類 119 と、前記ケース部材側電気部品につながるケース側配線類 423 とを中継するものであって、外本体 100 の背板 104 にビス止めされる取付板 120 と、該取付板 120 の前面に被さるカバー体 121 と、該カバー体 121 と前記取付板 120 の間に納められる複数 (実施形態では大小 2 枚) のコネクタ基板 122, 123 とからなる。

【0085】

前記 2 枚のコネクタ基板 122, 123 のうち、図 14, 図 15 において左側に位置する大きい方のコネクタ基板 122 は取付板 120 に対して固定的に取り付けられており、前記メイン基板 409 につながっているハーネス 424 の先端のコネクタ 425 と対をなすコネクタ 124 が設けられている。

【0086】

一方、図 14, 図 15 において右側に位置する小さい方のコネクタ基板 123 は、取付板 120 に対して非固定的な遊動可能状態に取り付けられており、従って図 15 拡大図に示したように上下方向に移動可能であり、また、左右方向にも移動し得る。この小さいコネクタ基板 123 には、メイン基板 409 以外のケース部材側電気部品につながっているハーネス 426 の先端のコネクタ 427 と対をなすコネクタ 125 が設けられている。

【0087】

また、取付板 120 の前面に被さるカバー体 121 は、前記コネクタ 124, 125 が通る大小 2 つの開口 126, 127 と、該開口 126, 127 と横並びの位置に突設した支持筒 128 と、下半部前方に張り出すトンネル状の配線ダクト 129 と、を有する。

【0088】

配線中継部材 113 に接続する本体側配線類 119 は、前記配線ダクト 129 の内部を通るか、または配線中継部材 113 の取付板 120 の下側前面に突設したフック形状の配線止め 130 に束ねられた状態で、図 1 一点鎖線 L に示したように外本体 100 の側板 102, 102 側に振り分けられ、該側板 102, 102 と背板 104 のコーナー付近では

ば垂直に向きを変え、その多くは仕切板 105 の奥に設けた配線用の開口 109 を通って本体側電気部品に夫々接続される。もちろん仕切板 105 より上の領域に本体側電気部品（例えば図 1 において側板 102 の内面に設けた外部中継端子板 131）がある場合には、仕切板 105 の配線用の開口 109 とは無関係にそのまま接続される。

【0089】

ここまでで説明した配線手段から、次のような技術的思想が把握できる。

（a）ケース部材 400 の後面板 405 に、図柄変動表示装置 300 のリール 301a, 301b, 301c の回転中心を通る水平面とリール 301a, 301b, 301c の最高高さ位置を通る水平面との間を下限とする位置に配線窓 411 を形成する。

（b）外本体 100 の背板 104 に、本体側電気部品につながる本体側配線類 119 と、ケース部材側電気部品につながるケース側配線類 423 とを中継する配線中継部材 113 を設置する。

（c）外本体 100 の側板 102, 102 の内面沿いに配線を通す上下方向の配線経路を形成する。

（d）配線中継部材 113 につながる本体側配線類 119 をケース部材 400 の側方に導き、そこから前記配線経路を通して本体側電気部品に接続する。

【0090】

以上（a）～（d）の構成要素を備えた遊技機は、図柄変動表示装置 300 のリール 301a, 301b, 301c の後ろを本体側配線類 119 が通らず、外本体 100 の側板 102, 102 沿いに設けた配線経路を迂回するため、リール 301a, 301b, 301c を外本体 100 の背板 104 近くにまで寄せることが可能になり、従来の構成、すなわち、本体側配線類 119 が背板 104 のほぼ中央を下ってリール 301a, 301b, 301c の後ろを通っていた従来の構成に比べて、リール 301a, 301b, 301c の径を大きくすることができる。なお、リール 301a, 301b, 301c の径は大きい方が、回転時の迫力が増す。

【0091】

〔配線手段－コネクタ 425, 427〕

上記のように配線中継部材 113 に設けられている 2 つのコネクタ 124, 125 には、ケース部材 400 のメイン基板 409 につながっているハーネス 424 の先のコネクタ 425 と、メイン基板 409 以外のケース部材側電気部品につながっているハーネス 426 の先のコネクタ 427 がそれぞれ接続されている。この 2 つのコネクタ 425, 427 は、図 16 に示したように 1 つのコネクタホルダー 428 に一体に取り付けられている。該コネクタホルダー 428 は、コネクタ 425, 427 がビス止めされるホルダー主体 429 と、ほぼ中央に透孔 430 を有し前記ホルダー主体 429 の両横に突設した板状の取着片 431 と、該取着片 431 の透孔 430 に装着した周知のボタン形パネルファスナー 432（商品名「ナイラッチ」：登録商標）と、からなり、図 5, 図 8（a）に示したように配線中継部材 113 の前記支持筒 128 の先に取り着片 431 を当て、該取着片 431 のボタン形パネルファスナー 432 を支持筒 128 に差し込んでロックしてある。従ってコネクタホルダー 428 が固定手段たる支持筒 128 に固定され、ひいては配線中継部材 113 に固定されるため、コネクタ 425, 427 とコネクタ 124, 125 の結合が外れない。

【0092】

〔配線中継基板－コネクタ 425, 427－仮止め棚〕

上記のようにコネクタ 425, 427 は配線中継部材 113 のコネクタ 124, 125 に接続されているが、ケース部材 400 が外本体 100 に組み込まれる前、つまり工場出荷から設置完了までの間、コネクタ 425, 427 は、ケース部材 400 に設けた仮止め棚 418 に仮止めされている。

【0093】

前記仮止め棚 418 は、図 5, 図 6, 図 12, 図 13 に示したようにケース部材 400 の内側から前記配線窓 411 に向かわせた棚板状の部材であり、図 6 に示したようにコネ

クタホルダー 4 2 8 を載置するほぼ水平なベンチ部 4 3 3 と、そのベンチ部 4 3 3 の両端に立設したベンチ側板 4 3 4 と、各ベンチ側板 4 3 4 に突設した 3 本の内向き爪片 4 3 5, 4 3 5, 4 3 5 とを有する。この内向き爪片 4 3 5, 4 3 5, 4 3 5 の中央の 1 本と他の上下の 2 本との間にはコネクタホルダー 4 2 8 の取着片 4 3 1 が嵌まり得る間隔が設けてある。なお、一方のベンチ側板 4 3 4 は、先端に指掛部 4 3 6 を延設した薄板構造であって、指掛部 4 3 6 に指を掛け図 8 (b) 矢示 X 方向に力を加えることにより一端支持の板バネのごとく外向きに反らせ得るようになっており、その反らせた状態で内向き爪片 4 3 5, 4 3 5, 4 3 5 からコネクタホルダー 4 2 8 の取着片 4 3 1 が簡単に外れるようになっている。図 8 (a) の想像線は指掛部 4 3 6 の先を鍵形に折り曲げた例を示したものであり、こうすることにより矢示 Y のようにボタンを押す感覚でコネクタホルダー 4 2 8 の取外しが楽に行える。

10

【0094】

しかして、図 6 に示したように前記仮止め柵 4 1 8 のベンチ部 4 3 3 にコネクタホルダー 4 2 8 を載置し、該コネクタホルダー 4 2 8 の取着片 4 3 1 をベンチ側板 4 3 4 の内向き爪片 4 3 5, 4 3 5, 4 3 5 の間に嵌めることによってコネクタホルダー 4 2 8 が仮止め柵 4 1 8 に仮止めされる。もちろん仮止めと言っても、ケース部材 4 0 0 の輸送中にコネクタホルダー 4 2 8 が仮止め柵 4 1 8 から外れない強度を有する設定になっており、従ってケース部材 4 0 0 が外本体 1 0 0 に組み込まれる前までは、コネクタホルダー 4 2 8 と一体のコネクタ 4 2 5, 4 2 7 はケース部材 4 0 0 に設けた仮止め柵 4 1 8 に仮止めされて動かない。よってケース部材 4 0 0 を輸送したり、ケース部材 4 0 0 を外本体 1 0 0 に組み込む作業の最中に、ハーネス 4 2 4, 4 2 5 の先にあるコネクタ 4 2 5, 4 2 7 が、ケース部材 4 0 0 内の部品に当たってその部品はもちろん、自らも損傷する、というようなおそれがない。

20

【0095】

そして、図 8 (b) → 図 8 (a) に示したように、ケース部材 4 0 0 を外本体 1 0 0 に固定した後の配線工程で、上記のように一方のベンチ側板 4 3 4 を外向きに反らせてコネクタホルダー 4 2 8 を仮止め柵 4 1 8 から外し、そのコネクタホルダー 4 2 8 を自己の取着片 4 3 1 が配線中継部材 1 1 3 の支持筒 1 2 8 に当たる位置まで移動させれば、コネクタ 4 2 5, 4 2 7 が配線中継部材 1 1 3 のコネクタ 1 2 4, 1 2 5 に嵌まるから（その詳細は後述する。）、その状態で取着片 4 3 1 のボタン形パネルファスナー 4 3 2 を押し込んで取着片 4 3 1 を支持筒 1 2 8 にロックする。なお、このとき図 5, 図 6 に二点鎖線で示したように、ベンチ部 4 3 3 にガイド用の案内レール 4 4 0 を設けておけば、コネクタホルダー 4 2 8 を奥に押し込むだけでよいため、作業性が向上する。

30

【0096】

[コネクタ 4 2 5, 4 2 7 とコネクタ 1 2 4, 1 2 5 の結合]

前記のようにコネクタ 4 2 5 とコネクタ 4 2 7 は、1 つのコネクタホルダー 4 2 8 に取り付けられている。こうすることによりコネクタホルダー 4 2 8 を配線中継部材 1 1 3 の所定の位置にセットする 1 回の動作で 2 つのコネクタ 4 2 5, 4 2 7 の接続が完了する。しかし現実の問題として、2 つのコネクタ 4 2 5, 4 2 7 とコネクタホルダー 4 2 8 という独立した要素を寄せ集めて一体にする構造では、コネクタ 4 2 5, 4 2 7 とコネクタ 1 2 4, 1 2 5 の「正確な位置決め」という困難な問題に直面する。すなわち 2 つのコネクタ 4 2 5, 4 2 7 と配線中継部材 1 1 3 側のコネクタ 1 2 4, 1 2 5 の 4 要素の位置決めが全て正確でなければ、コネクタ 4 2 5, 1 2 4 とコネクタ 4 2 7, 1 2 5 の一括結合は不可能であるのに、そのような位置決めの精度を量産レベルのコストで達成するのは困難だからである。そのような問題を解決する 1 つの手段として、結合時の融通性に優れたドロワーコネクタを使用する方法が考えられるが、それでもまだコスト面の負担が大きい。

40

【0097】

これに対し実施形態の配線手段では、配線中継部材 1 1 3 のコネクタ基板 1 2 2, 1 2 3 を分割してそれぞれにコネクタ 1 2 4, 1 2 5 を装着し、そのコネクタ基板 1 2 2, 1

50

23の少なくとも一方を非固定的な遊動可能状態にする手段を講じている。かかる構成においてコネクタホルダー428の結合照準をコネクタ425とコネクタ124に定めた場合、もう一方のコネクタ427とコネクタ125の相対位置に若干の狂いがあっても、コネクタ基板123が遊動してその狂いを矯正すべく移動するから、コネクタ427とコネクタ125の結合も可能になる。これにより安価なDIN規格のコネクタで十分に対応できる。

【0098】

なお、実施形態のように、小さいコネクタ125に対応する小さいコネクタ基板123を遊動可能とし、大きいコネクタ425、コネクタ124同士を結合の基準に定める構成は、その逆の構成に比べてコネクタ425、124、427、125の結合が楽に行える。小さいコネクタ基板123の方が軽い力で扱えるため、狂いの自動矯正が容易だからである。また、実施形態では、図9のようにコネクタ425、124の方がもう一方のコネクタ427、125より先に結合するようになっており、そうすることにより結合照準のコネクタ同士が合わせやすい。

【0099】

また、図9に拡大して示したように凸形のコネクタ425、427の凸部先端の周縁角部及び／又は凹形のコネクタ124、125の差込口の周縁角部に面取り部C（直線的な面取り、曲線的な面取りのいずれも可）を形成しておけば、面取り部Cのテーパに沿った誘導作用が、コネクタ同士の結合性をより良好にする。

【0100】

また、実施形態のように、配線中継部材113のコネクタ基板122、123を遊動可能にする構成の他、コネクタホルダー428側のコネクタ425、427の何れか一方を遊動可能にすることも可能であり、その場合も上記と同様の作用効果が得られる。

【0101】

また、実施形態では図4、図12に示したように、ケース部材400の後面板405の裏側であって、前記図柄変動表示装置300の装置ケース302の下斜板310に向けて凹ませたケーブル溝437が形成され、該ケーブル溝437の両端近傍にケース部材400の側板404（又は後面板405）を貫く配線口438、438が開設されている。この配線口438、438とケーブル溝437は、図柄変動表示装置300とメイン基板409等とを接続するためのものであり、図11において図柄変動表示装置300の装置ケース302の向かって右側面（扉形前面部材200の非ヒンジ側の側面）に設けたリール基板312のケーブル313（図12参照）を1つの配線口438からケース部材400の外に引き出し、そのケーブル313を図12のようにケーブル溝437に納め、さらにそのケーブル313の先を他の配線口438からケース部材400の中に戻してメイン基板409等につなぐようにしてある。なお、ケーブル溝437には所定の間隔でケーブル止め439が設けられていて、ケーブル溝437からケーブル313が脱落しないようになっている。

【0102】

しかしてメイン基板409等とリール基板312は、共にケース部材400の中にあるケース部材側電気部品であり、本来、ケース部材400の外にケーブル313を引き出す必要はない。それを敢えてケース部材400に配線口438、438とケーブル溝437を設けてケーブル313を外伝いに迂回させるようにした理由は次のとおりである。

【0103】

リール基板312の設置場所は、限られたスペースの中でコネクタを抜き差しする配線の作業性を考慮すると、図柄変動表示装置300（装置ケース302）の側面のうち扉形前面部材200の非ヒンジ側に相当する側が好ましい。もし逆に、扉形前面部材200のヒンジ側に相当する装置ケース302の側面にリール基板312を設けると、開ききった扉形前面部材200（図1参照。）とリール基板312が近接位置で向かい合うため、コネクタの抜き差しに必要な広い作業空間が確保できないからである。しかし一方、リール基板312の接続対象たる基板類（メイン基板409、画像表示体500等）の接続部が

10

20

30

40

50

ケース部材 400 の扉形前面部材 200 のヒンジ側に相当する側にあると、ケーブル 313 がケース部材 400 の内部を横切る格好になる。そうすると前記装置ケース 302 をケース部材 400 に装着する際にケーブル 313 を噛み込んだり、逆に装置ケース 302 を引き出す際にケーブル 313 を引っ掛けるおそれがある。

【0104】

これに対し実施形態のように、ケース部材 400 に配線口 438、438 とケーブル溝 437 を設けてケーブル 313 を外伝いに迂回させるようにすれば、上記したようなケーブル 313 のトラブルは生じない。また、配線作業は、装置ケース 302 を所定の位置から若干引き出した状態で行う方が作業性がよく、それに伴って配線口 438 からリール基板 312 までのケーブル 313 の長さは、配線代とでも言うべき余裕が設けられている。従って装置ケース 302 を所定の位置にセットした状態でケーブル 313 に弛みが生じ、引き出し量によってはケーブル 313 の弛みが大きくなる。そのようなケーブル 313 の弛みが大きい場合には、配線口 438 と横並びの位置にある、装置ケース 302 の下斜板 310 とケース部材 400 の奥のコーナー部分との間に出来る三角スペースにケーブル 313 の弛んだ部分を逃がすことができる。

【0105】

また、実施形態のようにケーブル溝 437 を装置ケース 302 の下斜板 310 に向かわせて膨らませるようにした場合には、ケース部材 400 の奥と装置ケース 302 の下斜板 310 との間にできるデッドスペースの有効活用に役立つ。

なお、配線口 438、438 とケーブル溝 437 を使った配線は、リール基板 312 のケーブル 313 に限定する必要はなく、ケース部材 400 の内部を横切るケーブル全てに適用できる。

【0106】

その他、図 11 中、符号 441 は機能分離中継端子板である。

【0107】

[各リールの図柄、図柄列]

各リール 301a、301b、301c には、図 24 に示すように、複数種類（ここでは、合計 9 種類のうちいずれか）の図柄が一定間隔に配置されることで構成された図柄列（配列番号 1 番から 21 番までで示した合計 21 個の図柄）が表記されたリール帯（図柄帯）が付されている。図 24 では、各リール 301a、301b、301c に付されたそれぞれのリール帯 321a、321b、321c に表記された図柄列を平面的に展開した状態を示す。なお、図柄列中に配置された図柄を識別するために上記配列番号を便宜的に記している。

【0108】

そして、各リール 301a、301b、301c は、各々の図柄列中に配置された図柄のうち、連続する所定数（例えば、3 つ）の図柄が開口部 401（図柄表示窓ともいう、以下では図柄表示窓 401 として統一する）を介して視認可能となるように配置されている（次に説明する図 25 参照）。

【0109】

また、図柄の種類は、図 24 に示すように、「赤で塗りつぶされている「7」図柄、以下では赤 7 図柄という」（リール帯 321a、321b、321c それぞれの配列番号 12 番の 3 つ）、「白で塗りつぶされている「7」図柄、以下では白 7 図柄という」（リール帯 321a の配列番号 19 番及びリール帯 321b の配列番号 5 番の 2 つ）、「青で塗りつぶされている「7」図柄、以下では青 7 図柄という」（リール帯 321a の配列番号 2 番、4 番、8 番の 3 つ）の比較的目立ちやすい図柄（他の図柄に比べて大きさが大きく視認しやすい）がある。

【0110】

また、「チェリーを形どった図柄、以下ではチェリー図柄という」（例えば、リール帯 321a の配列番号 6 番等）、「REPLAY という文字の書かれた図柄、以下ではリプレイ図柄という」（例えば、リール帯 321b の配列番号 4 番等）、「鐘（ベル）を形ど

った図柄、以下ではベル図柄という」（例えば、リール帯 3 2 1 b の配列番号 2 番等）、
「上記リプレイ図柄とベル図柄の 2 つの図柄を組み合わせると 1 つの図柄としているもの、
以下ではリプベル図柄という」（例えば、リール帯 3 2 1 a の配列番号 3 番等）がある。

【0111】

さらに、「星を形どった図柄、以下では星図柄という」（例えば、リール帯 3 2 1 c の
配列番号 4 番等）、「ハートを形どった図柄、以下ではハート図柄という」（例えば、リ
ール帯 3 2 1 a の配列番号 1 1 番等）、「上記のいずれにも該当しない図柄、雲を形どっ
たような図柄、以下では雲図柄という」（例えば、リール帯 3 2 1 b の配列番号 1 4 番等
）の図柄がある。以上のように各リール帯 3 2 1 a, 3 2 1 b, 3 2 1 c に表記される図
柄の種類は合計 9 種類となっている。

10

【0112】

[枠部材]

図 2 5 は、図柄表示窓 4 0 1 部分を拡大したところを示している。図柄表示窓 4 0 1 か
らは、各リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c の図柄列中の図柄のうち、連続する 3 つの
図柄が視認可能となっている。この図柄が表示されている 3 つの位置を図 2 5 の上から「
上段（または上段位置）」（例えば、リール 3 0 1 a の「リプベル図柄」の表示されてい
る位置）、「中段（または中段位置）」（例えば、リール 3 0 1 b の「星図柄」の表示さ
れている位置）、「下段（または下段位置）」（例えば、リール 3 0 1 c の「赤 7 図柄」
の表示されている位置）という。

【0113】

20

上記のことから、図柄表示窓 4 0 1 内では、「段数×リールの数」個の図柄を表示させ
ることが可能である。従って、スロットマシン 1 では「段数（3）×リールの数（3）」
より図柄表示窓 4 0 1 内には最大で 9 個の図柄を表示させることができる。

【0114】

枠部材 5 0 1（表示パネルともいう、以下では表示パネル 5 0 1 として統一する）の左
側端（図柄表示窓 4 0 1 から見て左側には、各種のランプが備えられており、そのうち、
「B E T 1」, 「B E T 2」, 「B E T 3」と記されているのが B E T ランプ（ベットラ
ンプ）6 0 2 である。B E T ランプの数字（上記の「B E T 1」, 「B E T 2」, 「B E
T 3」の 1, 2, 3 の数字）はそれぞれベット数（掛け数のこと、掛けたメダルの枚数に
応じた数のこと）に対応している。すなわち、「1」は 1 ベット（掛けたメダルの枚数は
1 枚）、「2」は 2 ベット（掛けたメダルの枚数は 2 枚）、「3」は 3 ベット（M A X ベ
ットともいう、掛けたメダルの枚数は 3 枚）に対応しているということである。

30

【0115】

ベット数に応じて有効となる並び（直線型）が決められている。この「有効となる並び
」は有効ラインとも呼ばれる。以下では有効ラインと統一する。後述する所定の当選役に
対応する図柄の組み合わせ態様は、一つの有効ライン上に並んで表示されてはじめて当該
当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されたとは判断されるものである。すなわち
、所定の当選役に対応する図柄を構成する各図柄が図柄表示窓 4 0 1 内に個々に表示され
たととしても、その図柄の組み合わせが一つの有効ライン上に並んでいなければ、所定の当
選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されたとは判断されないことになる。

40

【0116】

次に、ベット数に対応する有効ラインと有効ラインの数について具体的に説明する。1
ベットに対応する有効ラインは、各リールの中段位置を繋いだ「中段－中段－中段」とな
る並びの 1 つの有効ライン 6 2 1（中段ライン 6 2 1、これを「1 ライン（1 B E T ライ
ン）」という）のみである。

【0117】

2 ベットに対応する有効ラインは、各リールの上段位置を繋いだ「上段－上段－上段」
となる並びの有効ライン 6 2 2 a（上段ライン 6 2 2 a）と、各リールの下段位置を繋い
だ「下段－下段－下段」となる並びの有効ライン 6 2 2 b（下段ライン 6 2 2 b）である
。この上段ラインと下段ラインの 2 つの有効ラインのことをまとめて「2 ライン（2 B E

50

Tライン)」という。さらに、2ベットの場合は前述の「1ライン」も有効ラインに加えられるので、合計で3つ有効ラインがあることになる。

【0118】

3ベットに対応する有効ラインは、左リールの上段位置及び中リールの中段位置及び右リールの下段位置を繋いだ「上段－中段－下段」となる右下がりの並びの有効ライン623a（右下がりライン623a）と、左リールの下段位置及び中リールの中段位置及び右リールの上段位置を繋いだ「下段－中段－上段」となる右上がりの並びの有効ライン623b（右上がりライン623b）である。この右上がりラインと右下がりラインの2つの有効ラインのことをまとめて「3ライン（3BETライン）」という。さらに、3ベットの場合は前述の「1ライン」及び「2ライン」も有効ラインに加えられるので、合計で5

10

【0119】

上記は一般的なスロットマシンに代表される回胴式遊技機の有効ラインについての説明であるが、有効ラインは上記のような直線型の並びに限られることはない。以下では、本実施形態のスロットマシン1の有効ラインについて引き続き図25を用いて具体的に説明する。

【0120】

本実施形態のスロットマシン1では、掛け数は3ベット（MAXベット）のみとし、有効ラインを図25の図柄表示窓401内で「赤7図柄－赤7図柄－赤7図柄」が表示されているライン、すなわち下段ライン622bと、「リブベル図柄－星図柄－赤7図柄」が表示されているライン、すなわち右下がりライン623aの2つのラインのみを有効ラインとしている。

20

【0121】

従って、スロットマシン1では、上記以外のライン（中段ライン621、上段ライン622a、右上がりライン623b）は有効ラインに含まれない。

【0122】

その他、表示パネル501には、スロットマシン1の遊技状態に合わせて点灯（あるいは点滅）可能なランプ及びLED類が設けられている。これらのランプ類は図の上から、「ERR」という文字の描かれたエラーランプ604、上記BETランプ602のすぐ下に位置する、「REP」という文字の描かれたリプレイランプ606、「STR」という文字の描かれたスタートランプ608、「INS」という文字の描かれたメダルINランプ610、及び2つの横並びの7セグメントLEDを備えた払出枚数表示LED612がそれぞれ備えられている。なお、これらの他に後述するボーナスゲームの当選を告知するボーナス告知ランプや、ボーナスゲームなどでのメダルの累計払い出し枚数を表示したり、ボーナスゲームをカウントしたりする7セグメントLED等を別途設けてもよい。

30

【0123】

エラーランプ604は、スロットマシン1の遊技中に何かトラブル、故障等が生じた場合に点灯（あるいは点滅）を開始し、現在トラブル等が生じていることを遊技者等（ホールの係員なども含む）に知らせる役割を持っている。

【0124】

リプレイランプ606は、ゲーム結果がリプレイ（後述する）となった場合に、再遊技（もう一度遊技ができること）ができることを遊技者に知らせる役割を持っている。

40

【0125】

スタートランプ608は、ベット数がMAXベットに達すると点灯（あるいは点滅）を開始し、遊技者に始動レバー210の操作（始動操作）を促す役割を持っている。

【0126】

メダルINランプ610は、ベット数が最大（MAXベット）になるまで点灯（あるいは点滅）を続けることにより、遊技者にベットを促す役割を持っている。

【0127】

払出枚数表示LED612は、ゲーム結果に伴う遊技球の払い出しがある場合に、その

50

払い出し数（払出されるメダルの枚数）を表示することにより、遊技者に払出枚数を知らせる役割を持っている。

【0128】

〔スロットマシンの内部構成〕

図26は、スロットマシン1に装備されている各種の機構要素や電子機器類、操作部材等の構成を概略的に示している。スロットマシン1は遊技の進行を統括的に制御するためのメイン基板409を有しており、このメイン基板409にはCPU1110をはじめROM1112、RAM1114、入出力インタフェース1116等が実装されている。

【0129】

前述した投入ボタン205、206や始動レバー210、リール停止ボタン211a、211b、211c、貯留解除スイッチ209等はいずれもメイン基板409に接続されており、これら操作ボタン類は図示しないセンサを用いて遊技者による操作を検出し、検出された操作信号をメイン基板409に出力することができる。具体的には、始動レバー210は前述した図柄変動表示装置300を始動させる（リール301a、301b、301cの回転を開始させる）操作信号をメイン基板409に出力し、リール停止ボタン211a、211b、211cは、リール301a、301b、301cをそれぞれ停止させる操作信号をメイン基板409に出力する。

【0130】

なお、以下では必要に応じて、リール301a、301b、301cをそれぞれ左リール301a、中リール301b、右リール301cと呼ぶ。そして、これに対応するそれぞれのリール停止ボタン211a、211b、211cを左リール停止ボタン211a、中リール停止ボタン211b、右リール停止ボタン211cと呼ぶ。

【0131】

またスロットマシン1にはメイン基板409とともにその他の機器類が収容されており、これら機器類からメイン基板409に各種の信号が入力されている。機器類には、図柄変動表示装置300のほか、メダル放出装置110等がある。

【0132】

図柄変動表示装置300はリール301a、301b、301cをそれぞれ回転させるためのリール駆動モータ341a、341b、341cを備えている（左リール駆動モータ341a、中リール駆動モータ341b、右リール駆動モータ341c）。このリール駆動モータはステッピングモータからなり、それぞれのリール301a、301b、301cは独立して回転、停止することができ、その回転時には図柄表示窓401にて複数種類の図柄が上から下へ連続的に変化しつつ表示される。

【0133】

また各リール301a、301b、301cの回転に関する基準位置を検出するための位置センサ（図示しない）を有しており、各リール301a、301b、301cにはそれぞれ位置センサがリール内に対応して設けられている（左リール位置センサ331a、中リール位置センサ331b、右リール位置センサ331c）。これら位置センサからの検出信号（インデックス信号）がメイン基板409に入力されることで、メイン基板409では各リールの停止位置情報を得ることができる。

【0134】

メダルセレクト207内には、前述したソレノイド207aや投入センサ207bが設置されている。投入センサ207bは、メダル投入口203から投入されたメダルを検出し、メダルの検出信号をメイン基板409に出力する。ソレノイド207aがOFFの状態のとき、投入されたメダルは投入センサ207bで検出される。逆にソレノイド207aがONの状態のときは、メダルセレクト207内で投入センサ207bに到達する通路がロックアウトされてメダルの投入が受け付けられなくなり、遊技者がメダルを投入しても、メダルセレクト207を通して返却樋213に流れたメダルはメダル用受皿201に戻る。このとき合わせて投入センサ207aの機能が無効化されるので、メダル投入によるベットまたはメダルの貯留のいずれも行われなくなる。

【0135】

メダル放出装置110は、払い出されたメダルを1枚ずつ検出する払出センサ110e（図示しない）を放出口110c内に有しており、この払出センサ110eからメダル1枚ごとの払出メダル信号がメイン基板409に入力されている。また、遊技メダル用補助収納箱111にはメダル満タンセンサ111aが設けられており、内部に貯留されたメダルの貯留数が所定数量を超えた場合、メダルが所定数量を超えた検出信号をメイン基板409に出力する。このとき画像表示体500、エラーランプ604等により遊技機の異常を知らせるエラー表示が行われ、遊技者やホール従業員等に遊技機に異常が発生したことが報知される。

【0136】

一方、メイン基板409からは、図柄変動表示装置300やメダル放出装置110に対して制御信号が出力される。すなわち、前述した各リール駆動モータ341a、341b、341cの起動及び停止を制御するための駆動パルス信号がメイン基板409から出力される。またメダル放出装置110には、有効ライン上に停止した図柄の組み合わせの種類に応じてメイン基板409から駆動信号が入力され、これを受けてメダル放出装置110はメダルの払い出し動作を行う。このときメダル放出装置110内に払い出しに必要な枚数のメダルが不足しているか、あるいはメダルが全く無い状態であった場合、払出センサ110eによる枚数検出が滞ることとなる。そして所定時間（例えば3秒間）が経過すると、払出センサ110eより払い出しメダルの異常信号がメイン基板409へ出力され、これを受けてメイン基板409は、メダルの払い出しに異常が発生したことを知らせる内容をエラーランプ604や画像表示体500等に表示させて遊技者等に異常が発生したことを報知する。

【0137】

スロットマシン1は、メイン基板409の他にサブ基板449を備えており、このサブ基板449にはCPU1118やROM1120、RAM1122、入出力インタフェース1130、VDP（Video Display Processor）1124、AMP（オーディオアンプ）1126、音源IC1128等が実装されている。サブ基板449はメイン基板409から各種の指令信号を受け、画像表示体500の表示や照明装置502等の発光（または点灯、点滅、消灯等）及びスピーカ510の作動を制御している。

【0138】

さらに、メイン基板409に外部中継端子板131を設けた場合には、スロットマシン1はこの外部中継端子板131を介して遊技場のホールコンピュータ1200に接続される。外部中継端子板131はメイン基板409から送信される各種信号（投入メダル信号や払出メダル信号、遊技ステータス等）をホールコンピュータ1200に中継する役割を担っている。

【0139】

その他、電源装置112には、設定キースイッチ112aやリセットスイッチ112b、電源スイッチ112c等が付属している。これらスイッチ類はいずれもスロットマシン1の外側に露出しておらず、扉形前面部材200を開けることではじめて操作可能となる。このうち電源スイッチ112cは、スロットマシン1への電力供給をON-OFFするためのものであり、設定キースイッチ112aはスロットマシン1の設定（例えば設定1～6）を変更するためのものである。またリセットスイッチ112bはスロットマシン1で発生したエラーを解除するためのものであり、更には設定キースイッチ112aとともに設定を変更する際にも操作される。

【0140】

以上がスロットマシン1の内部構成例である。スロットマシン1によるゲームは、遊技者がメダルの掛け数を決定した状態で始動レバー210を操作すると各リール301a、301b、301cが回転し、その後、遊技者がリール停止ボタン211a、211b、211cを操作すると、対応する各リール301a、301b、301cが停止制御され

、そして、全てのリール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c が停止すると、有効ライン上での図柄の組み合わせ態様からゲーム結果を判断し、必要に応じて該当する当選役に対応する規定数のメダルが付与される。

【0141】

[当選役と図柄の組み合わせ態様]

ここで、スロットマシン 1 の当選役（入賞役と呼ばれるものを含む）と、それに対応する図柄の組み合わせ態様について、図 2 7, 図 2 8 を用いて具体的に説明をする。図 2 7 は、スロットマシン 1 の各当選役と対応する図柄の組み合わせ態様及びその特典（遊技特典、以下では遊技特典という）を示したものである。また図 2 8 は、遊技者に向けた配当表（各当選役の遊技特典の簡単な説明、スロットマシン 1 に表記される）である。

10

【0142】

前述したとおり、各リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c には、それぞれリール帯 3 2 1 a, 3 2 1 b, 3 2 1 c が付されている。リール帯ごとに図柄の順番や図柄の種類等はそれぞれ異なった順番になっており、例えば、複数の当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が重複して図柄表示窓 4 0 1 内に表示されることの無いものとなっている。なお、図柄表示窓 4 0 1 内に複数の当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が重複して表示されなければ、いくつかのリール帯の図柄の順番や図柄の種類が同じであってもよい。

【0143】

そして、全てのリール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c を停止させた際に図柄表示窓 4 0 1 内に表示される表示内容（図柄の組み合わせ態様）から所定の当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されたか否かが判断される。具体的には、図柄表示窓 4 0 1 内で前述の有効ライン（2 B E T ラインのうちの下段ライン、3 B E T ラインのうちの右下がりライン）のいずれか 1 つのラインに所定の当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されているか否かが判断される。

20

【0144】

以下では、（所定の）当選役に対応する図柄の組み合わせ態様がいずれか一つの有効ライン上に表示された場合のことを、（所定の）当選役に対応する図柄（これを当選役図柄という）の組み合わせが揃う、あるいは当選役図柄が揃った、という。

【0145】

スロットマシン 1 の図柄には、「赤 7 図柄」、「白 7 図柄」、「青 7 図柄」、「チェリー図柄」、「ベル図柄」、「リプレイ図柄」、「リブベル図柄」、さらには「星図柄」、「ハート図柄」、「雲図柄」があることは既に述べたとおりであるが、このうち、「赤 7 図柄」、「白 7 図柄」、「青 7 図柄」は他の図柄に比べて目立ち易く、識別しやすい図柄となっている。ここでいう識別のし易さとは、リールの回転中や、リールの停止した状態を含めて遊技者が容易に図柄を識別することができる度合いの高さのことをいう。このうち、「赤 7 図柄」は、各リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c の 1 つしかなく、加えて色彩も赤と他の図柄に比べて視認しやすい。また「白 7 図柄」は左リール 3 0 1 a に 1 つしかなく、加えて色彩も白とこれも他の図柄に比べて視認しやすいものである。これらの図柄はリールの回転中もその色彩や図柄の大きさから、遊技者が目標の図柄にすることが容易である。

30

40

【0146】

これらの図柄はそれだけでは象徴的な図柄（図柄 1 つだけでは当選役に対応しない）に過ぎないものであるが、所定の組み合わせとなることにより当選役に対応する図柄の組み合わせとなるものである。具体的に図 2 7 に示された各当選役に対応する所定の図柄の組み合わせ態様について説明する。

【0147】

[ビッグボーナス、レギュラーボーナス]

図 2 7 で、B B と示されている当選役が、ビッグボーナス（以下では B B と呼称する）である。この B B には対応する図柄（B B 図柄）の組み合わせ態様として「赤 7 図柄－赤 7 図柄－赤 7 図柄」が予め決められている。つまり、「赤 7 図柄」が B B 図柄ということ

50

になる。

【0148】

B B図柄が揃うと、ビッグボーナスゲーム（省略してB Bゲーム）という遊技特典が付与される。このB Bゲームでは、メダルの獲得が容易な複数回にわたるゲームが集中して行われることになる。これは、規定枚数のメダル（例えば、300枚）を払い出すまで継続して実行される。払い出されたメダルが規定枚数分に到達すると（規定枚数を越えた場合も含む）、B Bゲームは終了となる。

【0149】

また、スロットマシン1では、B B図柄が揃った際（B B図柄が揃った当該ゲーム）には、メダルは付与されない。つまり、B B図柄が揃うことはB Bゲームへ移行する契機としての役割を持っていることになる。また、B B図柄は各リール301a, 301b, 301cにそれぞれ1つずつしか配置されていないため（図25参照）、B B図柄を図柄表示窓401内に正確に狙って停止操作（リール停止ボタン211a, 211b, 211cを押す操作）を行わないと、B B図柄を揃えることができない。このように目的の図柄（この例ではB B図柄）を狙って停止操作を行うこと、即ち「目押し」は、スロットマシン1に代表される回胴式遊技機における技量の一つである。

【0150】

よって、遊技者の「目押し」の技量が高ければ（主に遊技に熟練した遊技者等）、目的の図柄を狙った位置（例えば、図柄表示窓401内）に表示させる（停止させる）ことが容易といえる。一方、遊技者の「目押し」の技量が低ければ（熟練度が低い遊技者、主に遊技に未熟な遊技者等）、目的の図柄を狙った位置に表示させる（停止させる）ことが困難といえる。

【0151】

また、R Bと示されている当選役は、レギュラーボーナス（以下ではR Bと呼称する）である。R B図柄が揃うこととなる図柄の組み合わせ態様は「白7図柄ー赤7図柄ー赤7図柄」となっている。

【0152】

R B図柄が揃うと、レギュラーボーナスゲーム（省略してR Bゲーム）という、B Bゲームに準じたメダルの獲得が容易な複数回にわたるゲームが集中して行われる遊技特典が付与される。これは規定ゲーム回数（例えば2回）継続して実行される。規定ゲーム数に到達すると、R Bゲームは終了となる。

【0153】

R B図柄が揃った場合も当該ゲームではメダルの付与はされず、R Bゲームへ移行する契機としての役割のみとなっている。また、R B図柄を構成する各図柄（赤7図柄、白7図柄）も、B B図柄の場合と同様、各リール301a, 301b, 301cにそれぞれ1つずつしか配置されていないため（図25参照）、目押しが必要な図柄となる。

【0154】

〔リプレイ〕

図27で、リプレイと示されている当選役には、対応する図柄（リプレイ図柄）の組み合わせ態様として、「リプベル図柄ーリプレイ図柄ーリプレイ図柄」が予め決められている。

【0155】

リプレイ図柄が揃うと、リプレイゲームという遊技特典が付与される。このリプレイゲームでは、改めてメダルを投入もしくはベット操作をすることなく、次のゲームとして行うゲームを再遊技として実行できることをいう。その場合の有効ライン数は、リプレイ図柄が揃った当該ゲームの有効ライン数と同じとなる。

【0156】

また、リプレイ図柄が揃った際にもメダルは付与されず、リプレイゲームへ移行する契機としての役割のみとなっている。このリプレイゲームの遊技特典の特徴は、メダルの払出しを行わない代わりに次のゲームで新たにメダルを消費する必要がないことである。

それゆえ、リプレイはその当選確率を他の当選役と比較して高い確率としてもホールの利益を著しく損なわせる虞が少ないものである。この例では、概ね7回に1回程度は当選する確率としている。これにより、遊技者が消費するメダル量（一定時間当たりにつき消費するメダル数）をある程度一定の範囲に保つことが可能となる（つまり、リプレイに、ゲーム進行における過剰なメダルの消費を抑える役割を持たせることができるということになる）。またリプレイはメダルの払い出しを伴わない当選役であるので、その当選確率を高くすることにより、当選頻度が高くなったとしてもホールにとって不利益となることは非常に少ないといえる。従って、各リール301a, 301b, 301cにリプレイ図柄をそれぞれ満遍なく配置する（例えば、リプレイ図柄からリプレイ図柄までの間に配置する他の図柄を1個から最大でも4個までにすることにより、リプレイ図柄を目押しの必要なく揃えることができるものとする）ことができる。なお、この図柄の配置と目押しの必要性との関係等については後述のリール停止処理にて説明する。

10

【0157】

〔ベル〕（特定当選役）

図27で、ベルと示されている当選役には、対応する図柄（ベル図柄）の組み合わせ態様として「リプベル図柄ーベル図柄ーベル図柄」が予め決められている。

【0158】

ベル図柄が揃うと、規定枚数（例えば、3枚）のメダルの払い出しが行われる。このときのメダルの払い出しは当該ゲームにて行われる。つまり、ベル図柄が揃うと3枚のメダルの払い出しという遊技特典が付与される。従って、ベルはゲームを進めるうえでメダルの増加を期待できたり、メダルの消費を抑えることが期待できたりする当選役であるといえる。ただし、ベルに当選する頻度が高くなると、遊技者はゲームを進めていくだけでメダルを増加させることが可能となってしまう（BBやRBに当選しなくともメダルが増加してしまうこととなってしまう）、スロットマシン1のゲーム性が損なわれてしまう。また、遊技者が過度のメダルを獲得することが容易となり、ホールとの利益バランスが崩れるという事態を招いてしまうことも危惧される。これらのことから、ベルには、ゲーム進行の中で遊技者がメダルを大量消費してしまうことを抑える程度の役割を持たせるに留め、リプレイに比べて当選確率を低く抑えている。従って、ベル図柄、リプベル図柄についても、前述のリプレイ図柄と同様、各リール301a, 301b, 301cに満遍なく配置して目押しの必要なく揃えられるものとなっている。なお、この図柄の配置と目押しの必要性との関係等については後述のリール停止処理にて説明する。

20

30

【0159】

〔チェリー〕（特定当選役）

図27で、チェリーと示されている当選役には、対応する図柄（チェリー図柄）が予め決められている。また、チェリー図柄については、「ANYーANYーチェリー図柄」というように、チェリー図柄が1つ（この例では、右リール301cのみ）あればそれだけでチェリー図柄が揃ったとみなされる。ここでいう「ANY」とはいずれの図柄でもよいことを示す。そして、チェリー図柄が揃うと、当該ゲームにて規定枚数（例えば、2枚）のメダルの払い出しが行われる。つまり、チェリー図柄が揃うと2枚のメダルの払い出しという遊技特典が付与される。

40

【0160】

従って、チェリー図柄は全てのリールが停止した状態における図柄の組み合わせ態様でその遊技特典が付与されるのではなく、少なくとも1つのリールについて、そのリールが停止したときに図柄表示窓401内にチェリー図柄がいずれか一つの有効ライン上に停止する態様となるだけでメダルの払い出し（2枚）が付与されるものである。ただし、メダルの払い出しは全てのリール停止後に行われる。なお本実施形態のスロットマシン1では上記でいう「少なくとも1つのリール」を右リール301cとしている。

【0161】

また、スロットマシン1では、有効ラインが2BETラインのうちの下段ラインまたは3BETラインのうちの右下がりラインのいずれかのみとなっているため、チェリー図柄

50

が図柄表示窓401内に表示される場合、右リール301cの下段位置のみに表示される。このとき右リール301cの下段位置に表示されたチェリー図柄は、上記の2つの有効ラインともに含まれることとなる。つまり、下段ライン及び右下がりラインに重複してチェリー図柄が揃っているということになる。従って、このときの払い出し枚数は、

[2枚×2=4枚]

となる。すなわち、チェリー図柄が揃う場合は、必ず4枚のメダルが払出されることになる。

【0162】

チェリーについても、前述のベルと同様に、ゲームの進行の中で遊技者がメダルを大量消費してしまうことを抑える程度の役割を持たせるに留め、リプレイに比べて当選確率を低く抑えている。従って、チェリー図柄についても、前述のリプレイ図柄等と同様、各リール301a, 301b, 301c（特に左リール）に満遍なく配置（この場合は、チェリー図柄からチェリー図柄までの間に配置する他の図柄を1個から最大4個までとする）ことにより、チェリー図柄を目押しの必要なく揃えることのできるものとなっている。なお、この図柄の配置と目押しの必要性との関係等については後述のリール停止処理にて説明する。

【0163】

さらに、図28の配当表では、チェリー図柄については、「チェリー—ANY—ANY」というように、チェリー図柄が左リール301aのみにあればチェリー図柄が揃ったと記している。しかし、実際チェリー図柄が表示されたか判定対象となるのは、前述のとおり右リール301cである。つまり、チェリー図柄が揃う場合には、「チェリー図柄—ANY—チェリー図柄」という図柄の組み合わせ態様が有効ライン上に表示されていることになるのである。このとき（左リール301aのチェリー図柄が図柄表示窓401内に表示される場合）、図柄表示窓401の上段位置または下段位置のいずれかに停止するものとしている。すなわち、3BETラインのうちの右下がりラインまたは2BETラインのうちの下段ライン（スロットマシン1の有効ライン）に表示され、規定枚数（図28の配当表の記載どおり4枚）のメダルが払い出される。

【0164】

従って、左リール301aについてもチェリー図柄を満遍なく配置（この場合は、チェリー図柄からチェリー図柄までの間に配置する他の図柄を1個から最大6個までとする）ことにより、チェリー図柄を目押しの必要なく図柄表示窓401内の上段位置あるいは下段位置に揃えることができる。

【0165】

このように、配当表上では、チェリー図柄左リール301aに表示されるだけでよいこととなり、遊技者の意識は自然と左リール301aのみに集中することになる。さらにメダルの払い出し枚数（規定枚数）についても左リール301aのチェリー図柄のみでみると、右下がりライン（左リール301aについて図柄表示窓401内の上段位置に表示された場合）もしくは下段ライン（左リール301aについて図柄表示窓401内の下段位置に表示された場合）のいずれか一方の有効ライン上に揃ったとしか遊技者には判断できない。従って、実際には右リール301cについて図柄表示窓401内にチェリー図柄が表示されていることに気づいたり、確認したりすることがない。また違和感を生じさせることもない。このようにすると、左リール301aではチェリー図柄が揃っているのにメダルの払い出しを行わない（つまり、右リール301cにはチェリー図柄が揃っていない）こととして遊技者にいつもと違うといったことに気づかせて、BBやRBに当選したことを知らせることもできる（いわゆる「リーチ目」を作り出すことができる）。

【0166】

なお、チェリー図柄が有効となる（揃える対象となる）リールを必ずしも左リール301aに限定することはなく、中リール301bあるいは右リール301cとしてもよい。この場合「ANY—チェリー図柄—ANY」または「ANY—ANY—チェリー図柄」となるとチェリーの遊技特典が付与されることとなる。あるいは、左リール301a、中リ

10

20

30

40

50

ール301b及び右リール301cのうちいずれか2つのリールのチェリー図柄が図柄表示窓401内で、いずれか一つの有効ライン上に停止したときにチェリーの遊技特典を付与することとしてもよい。つまり「チェリー図柄－チェリー図柄－A N Y」、「チェリー図柄－A N Y－チェリー図柄」、「A N Y－チェリー図柄－チェリー図柄」となる図柄の組み合わせ態様となった場合である。

【0167】

上記のいずれの場合であっても、左リール301a、中リール301b及び右リール301cのうち、少なくとも1つ（多くとも2つ）のリールについてのチェリー図柄を揃えるだけで遊技特典が得られることが望ましい。これは遊技者に全てのリールについて目押しを毎回強いるといった負荷を軽減させることにもなるからである。

10

【0168】

また、前述したベルとチェリーはともにメダル払い出しという遊技特典に対応した当選役であることから、以下では、必要に応じてこれらをまとめて「小役」と呼ぶ。

【0169】

なお、スロットマシン1では、ベルとチェリーの2つを小役として説明したが、これらの他にさらに小役を設けることもできる。例えば、ベル図柄、チェリー図柄とは異なる種類の図柄を設けて、これに対応するメダルの払い出し枚数（規定枚数）を異ならせて上記の小役と区別したり、あるいは各リール301a、301b、301cの図柄の配置数を少なくして、目押しの必要な当選役図柄として難易度をつけたりすることも可能である。

20

【0170】

[UNBB]

図27で、UNBBと示されている当選役が、UNBB（アンラッキーボーナス、以下ではUNBBと呼称する）である。このUNBBには対応する図柄（UNBB図柄）の組み合わせ態様として「リプレイ図柄－ベル図柄－リプレイ図柄」が予め決められている。

【0171】

UNBB図柄が揃うとUNBBゲーム（アンラッキーボーナスゲーム）という遊技特典が付与される。このUNBBゲームでは、前述のBBゲームとは異なり、メダルの獲得の容易な複数回にわたるゲームが集中して行われることはなく、メダルの累計の払い出し枚数が規定枚数（例えば、100枚）に到達するまでBBの抽選の行われないゲームが続くものである。

30

【0172】

また、UNBB図柄の組み合わせを構成する各図柄（リプレイ図柄、ベル図柄、リプレイ図柄）は前述のとおり各リール301a、301b、301cに満遍なく配置されているため、UNBB図柄についても目押しの必要なく揃えることができるものとなっている。

【0173】

[チャンスボーナス]

図27で、CBと示されている当選役が、チャンスボーナス（以下ではCBと呼称する）である。このCB図柄については、前述のチェリー図柄と同様に「A N Y－A N Y－星図柄」と、星図柄が1つ（この例では、右リール301cのみ）あればそれだけでCB図柄が揃ったとみなされる。そして、CB図柄が揃うと、当該ゲームではメダルの払い出しは行わずに、次のゲームにてBBとRB、リプレイを除く全ての当選役のいずれに対応する図柄も揃えられる遊技特典が付与される（これをチャンスボーナスゲーム、省略してCBゲームという）。このとき揃えられる可能性のある当選役は、ベル、チェリー、CBとなり、いずれかを揃えるに当たり優先順位を、CB、チェリー、ベルという順に予め決めている。これはより規定枚数の多い小役を優先して揃えさせるものである。なお、CBが最優先となっているのは、次回以降のゲームにもさらにCBゲームをできる可能性を持たせるためである。

40

【0174】

また、CB図柄についても右リール301cに星図柄を満遍なく配置する（例えば、星

50

図柄から星図柄までの間に配置する他の図柄を1個から最大でも4個までにすることにより、C B図柄を目押しの必要なく揃えることができるものとする。なお、この図柄の配置と目押しの必要性との関係等については後述のリール停止処理にて説明する。

【0175】

なお、詳細は後述するが、前述のU N B B及びC Bについては図28の配当表には記載しない。つまり、遊技者がU N B B図柄やC B図柄の揃ったことに気づいたり、U N B BゲームやC Bゲームが行われていることに気づいたりすることが非常に困難であるといえる。

【0176】

[B Bゲーム専用役]

さらに、B Bゲーム及びR Bゲーム中のみ有効となる当選役としてB Bゲーム専用役がある。このB Bゲーム専用役に対応する図柄（B Bゲーム専用役図柄）の組み合わせ態様は「リプベル図柄ーリプレイ図柄ーベル図柄」が予め決められている。

【0177】

B Bゲーム中あるいはR Bゲーム中にB Bゲーム専用役図柄が揃うと、規定枚数（例えば、15枚）のメダルの払い出しが行われる。このときのメダルの払い出しは当該ゲームにて行われる。つまり、B Bゲーム専用役図柄が揃うと15枚のメダルの払出しという遊技特典が付与されるので、B Bゲーム中（あるいは、R Bゲーム中）限定の小役ともいえる。

【0178】

また、B Bゲーム専用役図柄の組み合わせを構成する各図柄（リプベル図柄、リプレイ図柄、ベル図柄）も前述のとおり各リール301a, 301b, 301cに満遍なく配置されているため、B Bゲーム専用役図柄についても目押しの必要なく揃えることができるものとなっている。

【0179】

[ハズレ]

図27に示されたいずれにも該当しない場合は、ハズレとなる。そして、ハズレとなった当該ゲームでは、メダルの付与は行われず、また次回以降のゲームに変化を及ぼすこともない。つまり、ハズレは遊技者に当該ゲーム及び次回以降のゲームにおいて何の遊技特典も付与しない当選役ということもできる。

【0180】

スロットマシン1の図柄のうち、「ハート図柄」及び「雲図柄」については、上記のいずれの当選役図柄の組み合わせ態様にも含まれない図柄である。従って、これらの図柄はハズレ図柄であるということになる。また上記にいずれかの当選役図柄であっても、図柄の組み合わせ態様としてみた場合に当選役図柄が揃ったとみなされない場合には、ハズレ（ハズレとなる図柄の組み合わせ態様）であるということになる。

【0181】

以上がスロットマシン1におけるそれぞれの当選役と、それぞれの当選役に対応する図柄の組み合わせ態様である。これらからいえることは、スロットマシン1では、B B図柄及びR B図柄を除く全ての当選役図柄が目押しの必要なく揃えることができるということである。つまり、遊技者は毎回のゲームに特に目押しを行うことにより絶えず緊張（集中するため）を強いられて疲労してしまうといったことが極力軽減され、スムーズなゲームの進行が可能となる。

【0182】

なお、これらの図柄は上記で説明した図柄や図柄の組み合わせ態様に限定されるものではない。また、上記の図柄に加えて複数種類の図柄を新たに設けることもできる。そして、当選役の種類をさらに増やすことや、あるいは減らすこともできる。なお、上記で述べた当選役は全てを必ず設けることに限定されるものではなく、適宜必要な種類の当選役を選ぶこととしてもよい。

10

20

30

40

50

【0183】

[ゲーム処理]

次に、スロットマシン1におけるゲーム処理の流れについて説明する。以下のゲーム処理は、メイン基板409（主にCPU1110等）にて実行される制御プログラム上の処理手順に沿って進行する。

【0184】

図29は、スロットマシン1における基本的な1ゲームの処理手順を一通り示している。先ずステップS1では、ゲームスタートに備えるための初期設定を実行する。特に電源の立ち上げ時等においては、前述した各種装置の接続及び作動状況を確認するとともに、バックアップデータの有無を確認し、バックアップデータが存在する場合には、電源断前の状態に復帰させる処理を実行する。

10

【0185】

次のステップS2では、メダル投入口203から投入されたメダルの枚数により、あるいはすでに貯留されているメダルがある場合にはMAX投入ボタン206（あるいは1枚投入ボタン205）の押下操作により掛け数が決定され、始動レバー210の操作待ちの状態となる。すなわち、1回のゲームの掛け数が決定され、始動レバー210の操作が可能な状態となるまでがBET処理にて実行される。なお、スロットマシン1では掛け数はMAXベット（3枚掛け）のみとしているが、1ベット（1枚掛け）あるいは2ベット（2枚掛け）でもゲームを行えるものとしてもよい。

【0186】

20

ステップS3では、ステップS2において操作待ちの状態となった始動レバー210の操作によりゲームをスタートさせるとともに、いずれかの当選役を内部抽選の結果とするか否かを決定するための内部抽選処理を実行する。この内部抽選処理とは、次のステップS4にて回転を開始する全てのリール301a, 301b, 301cが停止状態（遊技者の停止操作により停止状態となること）となる前の段階において、いずれかの当選役を当該ゲームの抽選結果とするかを決定するために実行されるものである。すなわち、この抽選の抽選結果がいずれかの当選役に該当する場合に限り、該当する当選役が許容されるのである。

【0187】

30

次にステップS4では、ステップS3の内部抽選処理の終了に伴い全てのリール301a, 301b, 301cの回転を開始させるリール回転処理を実行する。このリール回転処理においては、全てのリール301a, 301b, 301cの回転が開始された時点でリール停止ボタン211a, 211b, 211cの押下操作を有効とし、リール停止ボタン211a, 211b, 211cが有効になったことを知らせる操作有効ランプ（図示しない）を点灯させるとともに、次のリール回転処理が実行されるまでのタイマカウントを開始する。なお、操作有効ランプは各リール停止ボタン211a, 211b, 211cにそれぞれ内蔵されるランプである。

【0188】

40

ステップS5では、遊技者によるリール停止ボタン211a, 211b, 211cの押下操作が受け付けられて、その受け付け順に操作有効ランプを消灯させるとともに、対応するリール301a, 301b, 301cの回転を停止させるリール停止処理を実行する。

【0189】

次のステップS6では、ステップS5において全てのリール301a, 301b, 301cの回転が停止状態になったと判定した時点で、有効ライン上に表示された表示内容（図柄の組み合わせ態様）と、上記のステップS3において決定された内部抽選の結果として許容されているものを照合して当選役の判定を行う判定処理を実行する。

【0190】

50

ステップS7では、ステップ6において判定された当選役に対応する遊技特典の内容に基づくメダルの払出処理を実行する。また当選役がBBやRB、CB、リプレイの場合に

は、それぞれ遊技状態の変更や再遊技等の各種遊技特典に付与を実行する。

【0191】

以上が、スロットマシン1の基本的な1ゲームの処理手順である。ここで、ステップS2（BET処理）、ステップS3（内部抽選処理）、ステップS4（リール回転処理）は、一連の操作として遊技者により行われるものである。従って、これらの処理（ステップS2、ステップS3、ステップS4）をまとめて始動処理と呼ぶ。以下ではこの始動処理の具体的な説明をする。

【0192】

[始動処理]

図30は、始動処理で行われる各処理を具体的に示したものである。

10

【0193】

始動処理では、まずステップS101にてメダルの投入または1枚投入ボタン205、MAX投入ボタン206の操作が待ち受けられる。ベット操作またはメダル投入があると、ステップS101の判定が満たされ、ステップS102に移る。なお、この判定はMAXベットに相当するメダルの投入（つまり、3枚以上のメダルの投入）やMAXベットとなる各投入ボタン205、206の操作が有った場合にのみ満たされるものとしている。

【0194】

次のステップS102では、受付処理として、ベット数（この例ではMAXベットのみ）を決定するとともに、ベット数に応じた有効ラインランプを点灯させる。

【0195】

20

ステップS103では、始動レバー210の操作を有効化する。始動レバー210の操作が有効化されると、この始動レバー210の操作が受け付けられるまで操作待ちの状態となり、次のステップS104に移る。

【0196】

次のステップS104では、始動レバー210の操作が有効化されているか、またその場合は始動レバー210の操作が受け付けられたかを判定する。先のステップS103にて始動レバー210の操作が有効化されている場合、遊技者による始動レバー210の操作が受け付けられると、この判定が満たされ、次のステップS105へ移る。

【0197】

また、上記のステップS101にて遊技者がベット操作またはメダル投入をしない、あるいはMAXベットに至らないうちはステップS101の判定が満たされず、ステップS104に移る。このときはステップS104の判定も満たされず、ステップS101に戻り、以降の処理を繰り返す。

30

【0198】

また、リプレイゲームでは、新たにメダルのベットを必要としないが、自動的にMAXベットとなるため、ステップS101の判定が満たされることになる。

【0199】

ステップS105では、ステップS104での始動レバー210の操作を受けて、始動レバー210の操作を無効化する。

【0200】

40

次にステップS106では、始動レバー210の操作があると、これを契機として乱数の抽出を行う。乱数の抽出を行った後、次のステップS107に移る。なお、このときの乱数を抽出するタイミングについては、始動レバー210の操作後直ぐに行っても所定時間（例えば0.5秒後など）後に行うなど、プログラミングの過程で適切な抽出タイミングを設定することができる。

【0201】

ステップS107では、フラグ処理として、抽出された乱数値（以下では、抽出乱数値という）からいずれの当選役に該当するかを判定（乱数値の照合）する。ここで行われる乱数値の照合とは、予め決められた当選役の乱数値に、抽出乱数値が該当（合致、一致）するか否かを判定することである。このとき抽出乱数値がいずれかの当選役に該当すると

50

判定された場合、該当する当選役に応じたフラグ（当選フラグという）をONにする。

【0202】

一方、ステップS107にて、抽出乱数値がいずれの当選役にも該当しないと判定された場合、いずれの当選役にも該当しない「ハズレ」となり、ハズレフラグをONにする。ここで、当選フラグまたはハズレフラグ（これらを総称して成立フラグという）とは、該当する成立フラグがONになっているときに限り、その成立フラグに該当した当選役図柄を揃えることが可能となるものである。従って、ハズレフラグが成立フラグに該当する場合は、いずれの当選役図柄も揃えることができないことになる。上記のステップS106及びステップS107はスロットマシン1の内部にて乱数抽選を行っているということもでき、以下ではこれらのステップのことを、まとめて内部抽選、あるいは内部抽選を行う等という。なお、この乱数の抽出からフラグ処理までは内部抽選に相当する。

10

【0203】

次のステップS108では、前回の始動処理（具体的には当該ゲームの1回前のゲーム）にてスタートさせたウェイトタイマがタイムアップ（例えば4.1秒経過）したか否かを判定する。なお、このウェイトタイマと呼ばれるタイマは、当該ゲームにおいてリールの回転が開始されたときから次のゲームでリールの回転が開始されるまでの所定時間（例えば、4.1秒）の経過を計測するものである。ここで、ウェイトタイマがタイムアップ（既に4.1秒経過した）となった場合にはこの判定が満たされ、次のステップS109に移る。また、この判定はウェイトタイマがタイムアップするまでループする。

【0204】

20

ステップS109では、全てのリール301a, 301b, 301cの回転を開始させる。そして全てのリール301a, 301b, 301cの回転の速さが一定となると、それぞれのリール停止ボタン211a, 211b, 211cの操作有効ランプを点灯させる。この点灯により、遊技者はリール停止ボタン211a, 211b, 211cの押下操作が有効になったことを知ることとなる。

【0205】

なお、スロットマシン1では、回転を開始したリールは遊技者による停止操作（リール停止ボタン211a, 211b, 211cの押下操作）が受け付けられるまで上記の一定の速さで回転を維持し続けるものである。

【0206】

30

次にステップS110では、ウェイトタイマをリセットするとともに、次の始動処理までウェイトタイマをスタートさせ始動処理は終了となる。

【0207】

〔内部抽選確率〕

上記のとおり、スロットマシン1では、内部抽選の結果（抽出乱数値の照合の結果）が当該ゲームで該当する当選役（以下では、該当当選役をいう）として許容される。これが、所定の当選役に当選となる、ということである。ここで該当当選役が許容された（ずなわち、該当当選役図柄を揃えることが許容された）当該ゲームの結果（内部抽選の結果）は、内部抽選フラグ（前述した「成立フラグ」に該当する）という内部抽選の結果を示す情報コマンドとして以降の処理（リール停止処理、判定処理、払出処理等）に反映されることになる。

40

【0208】

スロットマシン1では、乱数抽出を行う際の乱数値の範囲（これを抽出範囲という）を予め決めておくものである。この抽出範囲は、例えば、0から16383までの整数値（つまり、 $2^{14} = 16384$ 個の乱数）と決めることができる。なお、スロットマシン1では、抽出範囲の乱数値を0から16383まで（ $2^{14} = 16384$ 個の乱数値）としているが、0から32767まで（ $2^{15} = 32768$ 個の乱数値）や、0から65535まで（ $2^{16} = 65536$ 個の乱数値）をとるものとしてもよい。乱数の抽出範囲を拡大すると、その分だけ抽出可能な乱数値の範囲（いわゆる分母）が大きくなるので特定の乱数値が偏って抽出されるといった事象が起こりにくくなる。

50

【0209】

上記の抽出範囲内においては、さらにそれぞれの当選役に対応する乱数値が予め割り当てられている。例えば、抽出範囲（0から16383）内の乱数値のうち、BBに対応する乱数値を「1」とすれば、抽出乱数値が「1」となった場合に、内部抽選の結果は「BBに当選した」ということになり、BBの内部抽選フラグ（成立フラグ、この場合は前述の当選フラグともいう）が当該ゲームでの情報コマンドとして処理されることになる。また、これを利用すると、抽出範囲及びBBに対応する乱数値から、BBの当選確率（BBが内部抽選の結果として選出される確率、抽選確率）を算出することができる。上記の例（BB）でいえば、

〔 BBに対応する乱数値の総個数／抽出範囲内の乱数値の総個数 〕

が、 $1 / 16384$ となり、BBの当選確率は $1 / 16384$ であるということになる。

【0210】

このように全ての当選役にはそれぞれ対応する乱数値が決められており、これらの乱数値は、それぞれの当選役に対応する当たり値と呼ばれる。上記の例（BB）では、抽出範囲内の乱数値「1」がBBに対応する当たり値ということになる。また、当たり値が複数存在する場合、例えば、BBの当たり値を抽出範囲内の連続する乱数値「1」、「2」、「3」、「4」とすれば、BBの当たり値の範囲は乱数値「1」から「4」までとなる。そして、抽出乱数値が乱数値「1」から「4」までのいずれかに該当すると判定される（照合される）と、内部抽選の結果として「BBに当選した」ということになる。

【0211】

このことから全ての当選役はその当たり値の範囲が決められ、内部抽選で抽出乱数値がいずれかの当選役の当たり値の範囲に該当するか否かが判定されることになる。このとき、抽出乱数値がいずれの当選役の当たり値の範囲にも該当しない場合は、ハズレ、となる。すなわち、ハズレの当たり値の範囲は、全ての当選役の当たり値の範囲以外ということになる。なお、当たり値は当選許容値とも呼ばれることもある。

【0212】

図31（図31（a）、図31（b）、図31（b））は、スロットマシン1の全ての当選役についての当たり値と内部抽選確率を具体的に示している。なお、これらはそれぞれ、当たり値判定テーブルとして予めROM1112等に格納されているものである。

【0213】

図31（a）は、通常遊技状態のゲーム（通常ゲームという）における各当選役及びハズレの当たり値の範囲（乱数値の範囲）を示したものである（通常判定テーブルともいう）。ここで、BB及びRBについては、それぞれBBのみ、あるいはRBのみとなる当たり値の範囲（単独当選当たり値という）と、BB+小役（ベル、チェリー）、RB+小役（ベル、チェリー）となる当たり値の範囲（共有当選当たり値）に分けられている。

【0214】

上記のBB及びRBの単独当選当たり値は、ベルやリプレイ、UNBB等の当たり値と同様に、その該当する当選役1つのみに対応している。すなわち、この図31（a）の例では、

抽出乱数値が「1」の場合は、ベルの当たり値に該当する。

抽出乱数値が「7000」の場合は、リプレイの当たり値に該当する。

抽出乱数値が「9300」の場合は、UNBBの当たり値に該当する。

といったことになり、同様に、

抽出乱数値が「9050」の場合は、BBの当たり値に該当する。

抽出乱数値が「9220」の場合は、RBの当たり値に該当する。

というように、1つの抽出乱数値に対して、1つの当選役のみが対応するものである。

【0215】

一方、BB及びRBの共有当選当たり値は、図31（a）の例では、

抽出乱数値が「9100」の場合は、BB、ベルの当たり値に該当する。

抽出乱数値が「9207」の場合は、RB、チェリーの当たり値に該当する。

というように、1つの抽出乱数値に対して、複数（この場合2つ）の当選役が対応するものである。つまり、抽出乱数値が共有当選当たり値に該当する場合、複数の当選役のいずれにも当選したということになる。これは、前述したフラグ処理（図30のステップS107参照）にて、BB及び小役（ベルまたはチェリー）の2つの当選フラグを、あるいはRB及び小役（ベルまたはチェリー）の2つの当選フラグ（内部抽選フラグ）を同時にONにするということである。

【0216】

そして、BB及びRBについては、単独当選当たり値及び共有当選当たり値を合計（合算）した当たり値の範囲がBB全体及びRB全体の当たり値ということになり、このことからBB全体及びRB全体の当選確率を算出することができる。

10

【0217】

すなわち、

BB（全体） 158 / 16384（1 / 103.70）

RB（全体） 36 / 16384（1 / 455.11）

というように、BB全体の当選確率、RB全体の当選確率が算出される。

【0218】

また、図31（a）では、特に、BB全体の当選確率（1 / 103.70）が、UNBBの当選確率（1 / 85.78）に比べて低くなっている。すなわち、BBに比べてUNBBに若干当選しやすいといえる。

【0219】

20

図31（b）は、BB遊技状態のゲーム（BBゲームという）における各当選役及びハズレの当たり値の範囲（乱数値の範囲）を示したものである（BBゲーム判定テーブルともいう）。

【0220】

これによれば、BBゲーム中は、BB及びRB、さらにUNBBの抽選も行われないことになる。また共有当選当たり値に該当する場合には、それぞれ小役のみに該当（小役のみに当選）したものと、小役の内部抽選フラグのみONとする。そのことを示すために、図31（b）では便宜的に共有当選当たり値の一方であるBB及びRBに取り消し線を付している（次に説明する図31（c）についても同様である）。なお、RBゲームにおける各当選役及びハズレの当たり値の範囲（乱数値の範囲）についても、これと同じものとしている。

30

【0221】

また、BBゲーム中は、このときのみ有効となる（当たり値が存在することになる）BBゲーム専用役の当たり値が抽出範囲の大半以上を占めている（当たり値の総数9438個）。従って、BBゲーム中は、約2回に1回以上はBBゲーム専用役に当選することが多いといえる。また、BBゲーム専用役の当たり値が増加した代わりに、ハズレに該当する当たり値は大幅に減少（当たり値の総数1個）している。このため、BBゲーム中は、極めてハズレとなる可能性が低いということもいえる。

【0222】

図31（c）は、UNBB遊技状態のゲーム（UNBBゲームという）における各当選役及びハズレの当たり値の範囲（乱数値の範囲）を示したものである（UNBBゲーム判定テーブルともいう）。

40

【0223】

これによれば、UNBBゲーム中は、BB及びUNBBの抽選は行われないことになる。ここで、上記の図31（a）で説明したBBゲーム中との違いは、UNBBゲーム中は、RBについての抽選は行うということである。これは、RBの当選もUNBBゲームの終了条件の一つとするためである。また、ボーナス専用役に当たり値は存在せず、その代わりにCBの当たり値を通常ゲーム等に比べて大幅に増加させている（CBの当選確率、1 / 2.29）。このため、UNBBゲーム中はCB、ベル、ハズレにほぼ同程度で当選する可能性が高いといえる。

50

【0224】

また、図31(c)で示したUNBBゲームにおける当たり値の範囲は、CBゲームにおいても用いる(適用する)ものとする。このようにすると、UNBBゲーム中にCBに当選した場合、さらに次のゲーム時にもCBに当選する可能性が高いといえる。そしてさらにその次のゲーム(当該ゲームからみて、次々回のゲーム)においてもCBに当選する可能性が高い、というように数ゲーム(あるいは数十ゲーム)くらい延々とCBに当選し続けていく可能性も低いとはいえないことになる。

【0225】

上述のことから、「通常遊技状態」(図31(a)参照)とは、「BB遊技状態」(図31(b)参照)および「UNBB遊技状態」(図31(c)参照)よりもハズレに当選する確率が高い(逆に言えば、他の当選役に当選する確率が低い)。つまり、この「通常遊技状態」は、所定期間(例えば、100回の抽選が行われる期間)に投入されるコイン総数に対して払出されるコイン総数の割合が、「BB遊技状態」および「UNBB遊技状態」よりも低い遊技状態である。そのため、「通常遊技状態」は、コインの払出が集中あるいは連続して与えられることがない、遊技者に不利な遊技状態といえる。一方で、「通常遊技状態」は、「BB遊技状態」または「UNBB遊技状態」とは異なり、「BB遊技状態」に移行する当選役BBまたは「UNBB遊技状態」に移行する当選役UNBBに当選する可能性を有している。

【0226】

また、「UNBB遊技状態」は、「通常遊技状態」よりもハズレに当選する確率が低い(逆に言えば、他の当選役に当選する確率が高い)。つまり、この「UNBB遊技状態」は、所定期間(例えば、100回の抽選が行われる期間)に投入されるコイン総数に対して払出されるコイン総数の割合が、「通常遊技状態」よりも高い。そのため、「UNBB遊技状態」は、「通常遊技状態」と比べてコインの払出が集中あるいは連続して与えられる、遊技者に比較的有利な遊技状態といえる。

【0227】

また、「BB遊技状態」は、「UNBB遊技状態」よりもハズレに当選する確率が低い(逆に言えば、他の当選役に当選する確率が高い)。つまり、この「BB遊技状態」は、所定期間(例えば、100回の抽選が行われる期間)に投入されるコイン総数に対して払出されるコイン総数の割合が、「UNBB遊技状態」よりも高い。そのため、「BB遊技状態」は、「UNBB遊技状態」と比べてコインの払出が集中あるいは連続して与えられる、遊技者に最も有利な遊技状態といえる。

【0228】

なお、スロットマシン1には複数の設定値(設定値1から4までの4段階)を設けている(それぞれ図示はしない)。そして、それぞれの設定値では内部抽選確率に格差(段階的な差、極端な差など)がつけられている。この設定値は、設定値1<設定値2<設定値3<設定値4、というように設定値が高くなるほど当選役(特にBB、RB等)の内部抽選確率が優遇されるようになっている。例えば、設定値1に比べると設定値4ではBBの当選確率が高く決められているのでBBに当選する可能性が高いといったようなことである。このように段階的な設定値を設けることにより、設定値ごとに特徴を持たせて遊技者が設定値の推測する際の手掛かりとしたり、ホール等の経営に合わせた設定値にてスロットマシン1の運用をしたり、といったことが可能となる。また、上記の図31(a)から(c)は設定値4に相当する内部抽選確率を示したものである。

【0229】

[リール停止処理]

始動処理が終了すると、一定速度で回転を続けているリールを停止させるための操作(停止操作、つまりリール停止ボタン211a, 211b, 211cの押下操作)待ちの状態となる。図32では、一例として「テーブル方式」によるリール停止処理の内容を示している。以下では、リール停止制御の処理の流れを説明する。

【0230】

リール停止処理では、まずステップ S 2 0 1 で、当該ゲームでの内部抽選の結果を示す内部抽選フラグにしたがってリール停止制御テーブルを選択する。このリール停止制御テーブルは予め全ての内部抽選フラグについてパターンが用意されており、これらは読み出し専用のテーブルデータとしてメイン基板 4 0 9 の R O M 1 1 1 2 に格納されている。

【 0 2 3 1 】

上記のステップ S 2 0 1 にて内部抽選フラグに基づいてリール停止制御テーブルが選択された状態になると、各リール停止ボタン 2 1 1 a, 2 1 1 b, 2 1 1 c の押下操作が受け付けられるまで待ち受け状態となる（ステップ S 2 0 2, S 2 1 0, S 2 1 7）。これらの待ち受け状態で、左リール 3 0 1 a、中リール 3 0 1 b、右リール 3 0 1 c の各リールがすでに停止しているか否か、あるいは第 1 リール停止フラグが O N となっていない状態（F = 0、つまり O F F の状態）であるか否かを判定するとともに、合わせてリール停止ボタン 2 1 1 a, 2 1 1 b, 2 1 1 c のいずれかが押下されたかについても判定する。全てのリール停止ボタン 2 1 1 a, 2 1 1 b, 2 1 1 c の押下操作が受け付けられるまでは、ステップ S 2 0 9 の判定が満たされず、ステップ S 2 0 2 以降の処理を繰り返す。

【 0 2 3 2 】

ここで、リール停止ボタン 2 1 1 a, 2 1 1 b, 2 1 1 c の押下操作の受け付けられた順番（停止操作手順）を、それぞれ「順押し」、「逆押し」、「中押し」と呼ばれる停止操作手順（または押し順ともいう）に分ける。

【 0 2 3 3 】

上記の「順押し」の停止操作手順とは、左リール 3 0 1 a を第 1 番目に停止させる操作手順（つまり、左リール停止ボタン 2 1 1 a を第 1 番目に押下操作する手順）のことをいい、第 2 番目以降に停止させるリールの操作順番より、

〔 左リール→中リール→右リール 〕、

あるいは、

〔 左リール→右リール→中リール 〕となる 2 つの停止操作手順にさらに分けられる。これら 2 つをまとめて「順押し」と呼ぶ。なお、後者の停止操作手順は特に「順はさみ押し」とも呼ばれる場合もある。

【 0 2 3 4 】

上記の「逆押し」の停止操作手順とは、「順押し」と反対に右リール 3 0 1 c を第 1 番目に停止させる操作手順（つまり、右リール停止ボタン 2 1 1 c を第 1 番目に押下操作する手順）のことをいい、第 2 番目以降に停止させるリールの操作順番より、

〔 右リール→中リール→左リール 〕、

あるいは、

〔 右リール→左リール→中リール 〕となる 2 つの停止操作手順にさらに分けられる。これら 2 つをまとめて「逆押し」と呼ぶ。なお、後者の停止操作手順は特に「逆はさみ押し」とも呼ばれる場合もある。

【 0 2 3 5 】

上記の「中押し」の停止操作手順とは、中リール 3 0 1 b を第 1 番目に停止させる操作手順（つまり、中リール停止ボタン 2 1 1 b を第 1 番目に押下操作する手順）のことをいい、第 2 番目以降に停止させるリールの操作順番より、

〔 中リール→左リール→右リール 〕、

あるいは、

〔 中リール→右リール→左リール 〕となる 2 つの停止操作手順にさらに分けられる。

これら 2 つをまとめて「中押し」と呼ぶ。

【 0 2 3 6 】

ステップ S 2 0 2 では、左リール 3 0 1 a が停止状態となったことを示すフラグ（左リール停止フラグ L F）が O F F（L F = 0）であり、なおかつ、左リール停止ボタン 2 1 1 a の押下操作が受け付けられたかを判定する。ステップ S 2 0 1 で、リール停止ボタン 2 1 1 a, 2 1 1 b, 2 1 1 c の押下操作の待ち受け状態から「順押し」の停止操作手順に沿って最初（第 1 番目）に左リール停止ボタン 2 1 1 a が押下されたとすると、ステッ

10

20

30

40

50

プ S 2 0 2 の判定が満たされ、ステップ S 2 0 3 に移る。

【0 2 3 7】

ステップ S 2 0 3 では、第 1 リール停止フラグが O F F (F = 0) であるか判定する。ここでいう「第 1 リール」とは第 1 番目に停止操作が受け付けられる、あるいは第 1 番目に停止するリールのことをいう。この例(「順押し」)では、左リール 3 0 1 a の停止操作が第 1 番目に受け付けられるので、第 1 リール停止フラグが O F F の状態 (F = 0) となっている。従って、ステップ S 2 0 3 の判定は満たされ、次のステップ S 2 0 4 に移る。

【0 2 3 8】

次のステップ S 2 0 4 では、左リール 3 0 1 a について第 1 リール停止処理が行われる。この第 1 リール停止処理では、内部抽選フラグに対応するリール停止制御テーブルに基づいて内部抽選フラグに対応する当選役図柄の停止位置の制御を実行する。

【0 2 3 9】

ステップ S 2 0 6 では、残りの中リール 3 0 1 b、右リール 3 0 1 c のリール停止制御テーブルを決定する。前述のとおり、スロットマシン 1 の有効ラインは右下がりラインと下段ラインの 2 ラインのみであるため、この時点で残りのリール(中リール 3 0 1 b、右リール 3 0 1 c)の停止制御テーブルは 1 つに決定することができる。つまり、第 1 停止リール(この場合は左リール 3 0 1 a)の図柄表示窓 4 0 1 内の図柄(これを停止目と呼ぶ、以下同様)のうち特に上段位置または下段位置の図柄が当選役図柄となる可能性のある図柄であった場合、その該当図柄を基準とした有効ライン上に残りのリール(中リール 3 0 1 b、右リール 3 0 1 c)の該当当選役図柄を揃えることの可能なリール停止制御テーブルを選択することになる。これにより、B B 図柄、R B 図柄以外の当選役図柄については目押しの必要なく揃えることができることになる。

【0 2 4 0】

ステップ S 2 0 7 では、第 1 リール停止フラグを O N (F = 1) として、次のステップ S 2 0 8 に移る。

【0 2 4 1】

次いでステップ S 2 0 8 では、左リール停止フラグ L F を O N (L F = 1) として、ステップ S 2 0 9 に移る。

【0 2 4 2】

そして、ステップ S 2 0 9 では、全てのリール 3 0 1 a、3 0 1 b、3 0 1 c が停止状態となったかを判定する。この例では、まだ左リール停止フラグ L F が O N となっただけであり、中リール 3 0 1 b 及び右リール 3 0 1 c はまだ回転中であることから、この判定が満たされず、ステップ S 2 0 2 に戻り以降の処理を繰り返し実行する。

【0 2 4 3】

そして、再びステップ S 2 0 2 以降の処理が実行される場合、すでに左リール 3 0 1 a は停止状態となっているのでステップ S 2 0 2 の判定は満たされず、ステップ S 2 1 0 に移る。

【0 2 4 4】

ステップ S 2 1 0 では、中リール 3 0 1 b が停止状態となったことを示すフラグ(中リール停止フラグ M F)が O F F (M F = 0) であり、なおかつ、中リール停止ボタン 2 1 1 b の押下操作が受け付けられたかを判定する。ここでは「順押し」の停止操作手順に沿うため、中リール停止ボタン 2 1 1 b の押下操作が受け付けられることとなる。従って、ステップ S 2 1 0 の判定が満たされ、次のステップ S 2 1 1 に移る。

【0 2 4 5】

ステップ S 2 1 1 では、上記のステップ S 2 0 3 と同様に第 1 リール停止フラグが O F F (F = 0) であるか判定する。そして、この時点ではすでに第 1 リール停止フラグは O N (F = 1) となっているため、この判定が満たされず、ステップ S 2 1 3 に移る。

【0 2 4 6】

ステップ S 2 1 3 では、中リール停止処理として、内部抽選フラグに対応するリール制

御テーブル（この場合は上記のステップS206で決定したリール停止制御テーブル）に基づいて該当当選役図柄の停止位置の制御を実行する。そして、このとき中リール301bは第2番目に停止するリール（第2リール）となり、ステップS212、S214、S215は全て迂回され、ステップS216に移り、中リール停止フラグMFをON（MF=1）としてステップS209に移る。

【0247】

そして、再度ステップS209では、左リール301a及び中リール301bが停止状態となっただけであり、まだ右リール301cは回転中で停止状態（右リール停止フラグRFがOFFとなっている）となっていないので、この判定が満たされず、ステップS202に戻り、再度以降の処理を繰り返し実行する。

10

【0248】

さらに、3度目のステップS202以降の処理では、先ずステップS217で右リール停止フラグMFがOFF（MF=0）であり、なおかつ、右リール停止ボタン211cの押下操作が受け付けられたかを判定していくことになるが、以降のステップS218、S220等の処理は、上記のステップS210以降の処理（ステップS211、S213）と同様であるため詳細な説明は省略する。

【0249】

そして、ステップS223にて、右リール停止フラグRFをON（MF=1）として、ステップS209に移る。

【0250】

20

最後にステップS209では、この時点において、全てのリール301a、301b、301cが停止状態となっていることから、この判定が満たされ、リール停止処理が終了する。

【0251】

なお、「中押し」の停止操作手順の場合も上記と同様の説明ができるため詳細は省略する。ただし、「逆押し」の停止操作手順の場合は上記の説明と一部異なる点があるため、以下に説明する。

【0252】

「逆押し」の停止操作手順で、上記の「順押し」あるいは「中押し」の停止操作手順と異なる点は、ステップS221（第1リール停止処理の後に残りのリール停止制御テーブルの決定）についてである。すなわち、「逆押し」の停止操作手順では、右リール301cのみが停止状態となり、なおかつ、右リール301cの停止目のうち、下段位置にいずれかの当選役図柄があった場合、まだ2つの有効ラインのいずれにも該当当選役図柄を揃えることが可能である。従って、ステップS221の段階では、いずれの有効ラインにも該当当選役図柄を揃えることのできるリール停止制御テーブルを複数用意しておき、いずれかを選び出すものとすればよい。

30

【0253】

〔リール停止制御〕

さらに、上記のリール停止処理では、成立フラグに対応した当選役図柄（該当当選役図柄）を極力図柄表示窓401内に引き込むリール停止制御を行う（いわゆる、引き込み制御といわれる）。具体的には、遊技者によるリール停止操作が受け付けられた時点で、図柄表示窓401内に表示させることが可能な範囲（該当当選役図柄を引き込むことが可能な範囲、例えば、図柄4個分）を予め決めておき、その範囲内に該当当選役図柄がある場合、これを図柄表示窓401内に引き込んでリールを停止させる制御を実行する。なお、ここでいう「引き込むことが可能な範囲」とは、リールの停止操作が受け付けられてから当該リールが停止するまでに、リールの回転方向にみて移動が可能な図柄の最大数のことをいう。例えば、引き込み可能な範囲を最大図柄4個分とすれば、停止操作が受け付けられてからさらに図柄4個分までリールの回転移動が可能となる。

40

【0254】

従って、上記のリール停止制御によれば、リールの停止操作が受け付けられた時点で、

50

図柄表示窓４０１内に該当当選役図柄がなかったとしても、引き込み制御を行うことによって、リールが完全に停止状態となるまでに該当当選役図柄が引き込み可能な範囲内にあれば、その該当当選役図柄を図柄表示窓４０１内にまで移動させたうえで停止させることが可能となる。この引き込み制御を行うことにより、遊技者は該当当選役図柄の目押しのタイミングが多少早かったとしても、引き込み可能範囲内に当該当選役図柄があれば、その当該当選役図柄を図柄表示窓４０１内に引き込んで停止させることができる。従って、当該当選役図柄の取りこぼしを回避することが可能となる。

【０２５５】

スロットマシン１では、ＢＢ及びＲＢ以外の当選役が成立フラグとなる場合には、遊技者の目押しを必要とせずに必ず該当当選役図柄を揃えることができる（前述の図２４参照）。これは、ベル、リプレイ、ＵＮＢＢについては、対応するそれぞれの当選役図柄が最大で４個分の図柄おきに配置されているからである。

【０２５６】

また、チェリーについては、判定の対象となるのは、右リール３０１ｃのチェリー図柄であり、これも最大で４個分の図柄おきに配置されているため、目押しを必要とせずにチェリー図柄を揃えることができる。同様のことは星図柄にもいえるため、ＣＢについても目押しを必要とせずに当該当選役図柄を揃えることができる。

【０２５７】

さらに、チェリーの場合、前述したとおり、左リール３０１ａにもチェリー図柄が表示されている必要がある。これは遊技者向けの配当表では「チェリー図柄－ＡＮＹ－ＡＮＹ」としているため、左リール３０１ａの図柄表示窓４０１内の上段位置あるいは下段位置のいずれかに表示（停止）させる必要があるためである。ここで、前述の図２４の図柄配列を見ると、左リール３０１ａ上では、チェリー図柄からチェリー図柄までのあいだに他の図柄が６個分配置されている。

【０２５８】

例えば、配列番号１２番（以下では、単に〇〇番という）の赤７図柄あるいは１１番のハート図柄を図柄表示窓４０１内の下段位置付近に目押しした場合、そのまま停止すると「リプベル図柄（１０番）→ハート図柄（１１番）→赤７図柄（１２番）」と図柄表示窓４０１内の上段位置から下段位置に停止することになる。しかし、上記引き込み制御により最大４個の図柄分だけ移動可能とすると、１１番のハート図柄から８番の青７図柄までリール回転方向に移動して停止させることができる。この結果、図柄表示窓４０１内には「チェリー図柄（６番）→リプベル図柄（７番）→青７図柄（８番）」となり、チェリー図柄を上段位置に停止させることができる。

【０２５９】

このように、左リール３０１ａでは、リールのどの位置で停止操作が受け付けられても、必ずチェリー図柄を上段位置あるいは下段位置のいずれかに引き込んで停止させることができる。従って、右リール３０１ｃの下段位置にチェリー図柄が停止する場合には、左リール３０１ａにもチェリー図柄が上段位置あるいは下段位置に必ず停止することになり、遊技者の意識を左リール３０１ａのチェリー図柄にむけることができる。つまり、右リール３０１ｃのチェリー図柄についてはほとんど意識させることがない。

【０２６０】

また、共有当選当たり値の当選役の場合は、ＢＢ図柄（ＲＢ図柄）を優先的に引き込むものとしている。ただし、ＢＢ図柄（ＲＢ図柄）は目押しが必要な図柄であるため、ＢＢ図柄（ＲＢ図柄）が引き込み不可能なとき（引き込み可能範囲にない）には他方の当選役図柄を引き込むものとする。そして、既に説明したとおり、このとき他方の当選役図柄は取りこぼすことなく揃えることが可能となる。従って、共有当選当たり値の当選役に該当する場合には、ＢＢ図柄または他方の当選役（小役）図柄のいずれかを必ず揃えることができる。

【０２６１】

さらに、ＣＢの場合には、次回のＣＢゲームにおいて、ＣＢ＞チェリー＞ベルという優

10

20

30

40

50

先順位で引き込み制御を行うものとしている。

【0262】

以上のことから、スロットマシン1では、BB図柄及びRB図柄以外の当選役図柄については、目押しを必要とせずに揃えることができる。つまり、BB及びRB以外の当選役については「取りこぼし」を生じることがないということになる。従って、目押しの技量の差により、遊技者ごとに利益の差が大きくなる（メダルの獲得枚数に大幅な差が生じることなど）ことを極力解消することができる。

【0263】

また、右リール301cの停止図柄のみで判定を行う当選役（チェリー、CB）があっても、配当表等の記載により、「順押し」でゲームを進めていっても遊技者に違和感を持たせることがない。従って、遊技者は一般的な停止操作手順（「順押し」）でスムーズにゲームを進めていくことができる。

【0264】

以上がテーブル方式によるリール停止処理の一例である。これとは別にコントロール方式によるリール停止処理があるが、これについても公知の処理を適用可能であるため、ここでは具体的な説明を省略する。また、本実施形態においてコントロール方式またはテーブル方式のいずれのリール停止処理を実行してもよく、どの方式を採用するかは制御プログラムを構築するにあたって適宜決定すればよい。

【0265】

〔判定処理〕

リール停止処理が終了すると、図柄表示窓401内にていずれかの有効ライン上に当選役図柄が揃っているか（いずれかの当選役に該当する図柄の組み合わせ態様が表示されているか）否かについて判定を行う。図33では、この判定処理の内容を、具体的に説明する。

【0266】

リール停止処理により全てのリール301a, 301b, 301cが停止した状態となると、まずステップS301では、図柄表示窓401内の停止目の態様から、いずれかの有効ライン上に当選役図柄が揃っているか（当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されているか）否かを判定する。なお、特に全てのリールが停止状態となった場合の停止目のことは出目と呼ばれることもある。

【0267】

ステップS301にて、いずれかの有効ライン上に当選役図柄が揃っている場合には、この判定が満たされ、揃っている当選役図柄に応じて以下のステップS302, S305, S308, S312, S316, S318のいずれかに移る。

【0268】

ステップS302では、BB図柄が揃っているかを判定する。いずれかの有効ライン上にBB図柄が揃っている場合（「赤7図柄－赤7図柄－赤7図柄」）、この判定が満たされ、次のステップS303に移る。

【0269】

ステップS303では、BB図柄が揃ったことを知らせる祝福効果音コマンドをサブ基板449に送信する。この祝福効果音コマンドによりサブ制御基板449は、スピーカ510等から祝福効果音を出力する（効果音を発生させる）。なお、祝福効果音には、ファンファーレやBBを知らせるメッセージ等も含まれる。

【0270】

次のステップS304では、BBゲーム遊技処理を実行する。ここでは、BBゲームとして、メダルの獲得が容易な複数回にわたるゲームが集中して行われることになる。なお、BBゲーム遊技処理の詳細な説明は後述する。

【0271】

ステップS305では、RB図柄が揃っているかを判定する。いずれかの有効ライン上にRB図柄が揃っている場合（「白7図柄－赤7図柄－赤7図柄」）、この判定が満たさ

10

20

30

40

50

れ、次のステップ S 3 0 6 に移る。

【0 2 7 2】

ステップ S 3 0 6 では、R B 図柄が揃ったことを知らせる祝福効果音コマンドをサブ基板 4 4 9 に送信する。この祝福効果音コマンドによりサブ制御基板 4 4 9 は、スピーカ 5 1 0 等から祝福効果音を出力する（効果音を発生させる）。なお、祝福効果音には、ファンファーレや R B を知らせるメッセージ等も含まれる。さらに、このときの祝福効果音は B B 図柄が揃った際の祝福効果音とは異なる効果音として、遊技者の視覚的にも識別しやすいものとしている。

【0 2 7 3】

次のステップ S 3 0 7 では、R B ゲーム遊技処理を実行する。ここでは、R B ゲームとして、B B ゲームに準じたメダルの獲得が容易な複数回（2 回）にわたるゲームが集中して行われることになる。なお、R B ゲーム遊技処理の詳細な説明についても後述する。

【0 2 7 4】

ステップ S 3 0 8 では、小役図柄が揃っているかを判定する。いずれかの有効ライン上に小役図柄が揃っている場合（「リプベル図柄ーベル図柄ーベル図柄」または「A N YーA N Yーチェリー図柄」）、この判定が満たされ、次のステップ S 3 0 9 に移る。

【0 2 7 5】

ステップ S 3 0 9 では、揃っている小役図柄に対応する小役の遊技特典として規定枚数のメダルの付与を実行するため、メダル放出装置 1 1 0 にメダル払出コマンドを出力する。さらにこのとき、小役図柄が揃ったことを知らせる払出効果音コマンドをサブ基板 4 4 9 に送信する。

【0 2 7 6】

次のステップ S 3 1 0 では、払出処理として、上記の規定枚数のメダルがメダル放出装置 1 1 0 から払出されるとともに、サブ制御基板 4 4 9 は、スピーカ 5 1 0 等から払出効果音を出力させる。（効果音を発生させる）。なお、この払出効果音はそれぞれの小役に対応する別々の効果音を設けても、同じ効果音としてもよい。

【0 2 7 7】

そして、ステップ S 3 1 1 では、このときの内部抽選フラグ（小役の成立フラグ、小役フラグという）を O F F として処理を終了する。

【0 2 7 8】

ステップ S 3 1 2 では、リプレイ図柄が揃っているかを判定する。いずれかの有効ライン上にリプレイ図柄が揃っている場合（「リプベル図柄ーリプレイ図柄ーリプレイ図柄」）、この判定が満たされ、次のステップ S 3 1 3 に移る。

【0 2 7 9】

ステップ S 3 1 3 では、リプレイ図柄が揃ったことを知らせる効果音コマンドをサブ基板 4 4 9 に送信する。この祝福効果音コマンドによりサブ制御基板 4 4 9 はスピーカ 5 1 0 等から祝福効果音を出力する（効果音を発生させる）。

【0 2 8 0】

次のステップ S 3 1 4 では、リプレイゲーム処理を実行する。このリプレイゲーム処理では、当該ゲームでのベット数と同じベット数（この例では M A X ベット）にて次回のゲームを開始させるために M A X ベットコマンドを例えば R A M 1 1 1 4 に一旦記憶させる。このコマンドに基づき、次回のゲームを再遊技として開始させることができる。

【0 2 8 1】

そして、ステップ S 3 1 5 では、このときの内部抽選フラグ（リプレイの成立フラグ、リプレイフラグという）を O F F として処理を終了する。

【0 2 8 2】

ステップ S 3 1 6 では、U N B B 図柄が揃っているかを判定する。いずれかの有効ライン上に U N B B 図柄が揃っている場合（「リプベル図柄ーベル図柄ーリプレイ図柄」）、この判定が満たされ、次のステップ S 3 1 7 に移る。

【0 2 8 3】

10

20

30

40

50

ステップ S 3 1 7 では、U N B B ゲーム遊技処理を実行する。ここでは、前述の B B ゲーム、R B ゲームとは異なり、メダルの獲得の容易な複数回にわたるゲームが集中して行われることはなく、メダルの累計の払い出し枚数が規定枚数に到達するまで B B の抽選の行われないゲームが続くことになる。なお、U N B B ゲーム遊技処理の詳細な説明についても後述する。

【 0 2 8 4 】

また、U N B B 図柄が揃った場合には、U N B B 図柄が揃ったことを知らせる祝福効果音等は一切行わない。これは画像表示体 5 0 0 等による表示も行わない。従って、U N B B 図柄が揃ったこと自体、遊技者には秘匿されることとなる。

【 0 2 8 5 】

ステップ S 3 1 8 では、C B 図柄が揃っているかを判定する。いずれかの有効ライン上に C B 図柄が揃っている場合（「A N Y - A N Y - 星図柄」）、この判定が満たされ、次のステップ S 3 1 9 に移る。

【 0 2 8 6 】

ステップ S 3 1 9 では、C B ゲーム遊技処理を実行する。この C B ゲーム処理では、次のゲームにて、次のゲームにて B B と R B、リプレイを除く全ての当選役のいずれに対応する図柄も揃えられるよう上記の内部抽選フラグを全て O N とした状態とする C B コマンドを例えば R A M 1 1 1 4 に一旦記憶させる。このコマンドに基づき、次のゲームでは、上記 O N となった内部抽選フラグに対応する当選役図柄のいずれを揃えることの可能な状態を作り出すことができる。

【 0 2 8 7 】

そして、ステップ S 3 2 0 では、このときの内部抽選フラグ（C B の成立フラグ、C B フラグという）を O F F にして処理を終了する。

【 0 2 8 8 】

また、C B 図柄が揃った場合にも、U N B B 図柄が揃ったときと同様に、これを知らせる効果音等は一切行わず、また画像表示体 5 0 0 等による表示も行わない。従って、C B 図柄が揃ったこと自体、遊技者には秘匿されることとなる。

【 0 2 8 9 】

有効ライン上にいずれの当選役図柄も揃っていない場合、上記のステップ S 3 0 2、S 3 0 5、S 3 0 8、S 3 1 2、S 3 1 6、S 3 1 8 いずれの判定も満たされず、ステップ S 3 2 1 に移る。なお、このときの出目がいわゆる「ハズレ目」ということである。

【 0 2 9 0 】

ステップ S 3 2 1 では、ハズレ処理を実行する。このハズレ処理では、この時点で O N となっている内部抽選フラグを確認し、B B、R B 以外の内部抽選フラグを O F F とする。

【 0 2 9 1 】

従って、B B、R B 以外の内部抽選フラグが成立フラグに該当する場合には、この時点で「取りこぼし」が確定することになる。

【 0 2 9 2 】

一方、B B 及び R B の内部抽選フラグが成立フラグに該当する場合には、このハズレ処理によってその内部抽選フラグは消滅しない。つまり、B B 及び R B の内部抽選フラグは次のゲーム（もしくは次回以降のゲーム）に引き継がれる（または持ち越される）ことになる。従って、B B 及び R B については「取りこぼし」をすることなく、その該当する当選役図柄を揃えることができるまで内部抽選フラグを持ち越すことができる。これは目押しの技量の低い遊技者にとっては、B B や R B といった他の当選役に比べて利益の度合いの高い当選役の「取りこぼし」を心配することなくゲームを行うことができることに加えて、B B 図柄（R B 図柄）を揃えることができるまで何度も目押しの練習をすることも可能となる。

【 0 2 9 3 】

以上のように判定処理では、図柄表示窓 4 0 1 内の出目からいずれかの処理（B B ゲー

10

20

30

40

50

ム遊技処理、S Bゲーム遊技処理、リプレイゲーム処理、払出処理、ハズレ処理)が行われて処理は終了する。以下では、B Bゲーム遊技処理、S Bゲーム遊技処理の詳細について説明する。

【0294】

[B Bゲーム遊技処理]

前述の判定処理においてB B図柄が揃った場合、B Bゲーム遊技処理にてB Bゲームを開始させる。図34では、B Bゲーム遊技処理の詳細について説明する。

【0295】

ステップS401では、まず初期化処理として、ON状態となっているB Bの内部抽選フラグをOFFとする。次いで、各当選役の当たり値をB Bゲーム用の当たり値に変更する。特に図示はしないが、B Bゲーム用の当たり値テーブル(B Bゲーム用判定テーブルという)に当たり値テーブルを変更する。このB Bゲーム用判定テーブルはB Bゲーム専用役の当たり値を多く保有しており、B Bゲーム専用役の当選確率を約1/1.7となるよう当選許容値の範囲を決めている。また、他の小役(ベル、チェリー)の当たり値は変更せず、B Bゲーム専用役の当たり値はハズレの大部分やリプレイ、B Bに該当する当たり値をこれに該当させるものとする。従って、B Bゲーム用判定テーブルでは、B B及びリプレイに当選することはなく、ハズレとなることも極めて少ないものとなる。

【0296】

このようにすると、B Bゲームでは、ほとんど毎ゲーム、B Bゲーム専用役、あるいはベルやチェリーに当選することとなる。また、B Bゲーム専用役でのメダルの払い出しの規定枚数は15枚であるため、B Bゲームでは効率良くメダルを獲得して増加させていくことができる。

【0297】

また、スロットマシン1では、B Bゲーム中も通常ゲームと同様に1回のゲームの掛け数はMAXベット(3枚掛け)のみとする。従って、遊技者は通常ゲームと比べて特別な違和感を覚えることなくゲームを行うことができる。

【0298】

次のステップS402では、前述した始動処理を実行する。次いでステップS403では、前述したリール停止処理を実行する。これら始動処理及びリール停止処理の内容は既に説明したものと同一であるため詳細な説明は省略する。

【0299】

ステップS404では、図柄表示窓401内の出目の態様から、いずれかの有効ライン上に当選役図柄が揃っているか(当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されているか)を確認する。

【0300】

そして、ステップS405では、B Bゲーム数カウンタを1つだけカウントアップする。また、このB Bゲーム数(B Bゲーム中の累計ゲーム回数)は、画像表示体500に表示させる。なお、ゲーム数を表示するためのLED等を新たに設けてこれに表示させるものとしてもよい。

【0301】

次にステップS406では、B Bゲーム専用役図柄または小役図柄(ベル図柄、チェリー図柄)が揃っているか否かを判定する。これらのいずれかの当選役図柄が揃っている場合、この判定が満たされ、次のステップS407に移る。

【0302】

ステップS407では、規定枚数のメダルの払出コマンドをメダル放出装置110に出力するとともに、メダル払出効果音コマンドをサブ基板449に送信する。

【0303】

そして、ステップS408では、払出処理として、上記の規定枚数のメダルがメダル放出装置110から払出されるとともに、サブ制御基板449は、スピーカ510等から払出効果音を出力させる(効果音を発生させる)。

【0304】

ステップS409では、上記ステップS408で払い出したメダルの枚数分だけ累計払出カウンタをカウントアップして、次のステップS410に移る。また、上記のステップS406の判定が満たされない場合（BBゲーム専用役図柄または小役図柄のいずれも揃っていない場合）もステップS410に移る。そして、累計払出枚数についても、画像表示体500にて表示させる。なお、累計払出枚数を表示するためのLED等を新たに設けてこれに表示させるものとしてもよい。

【0305】

次にステップS410では、このときの内部抽選フラグ（成立フラグ）をOFFにして、次のステップS411に移る。

10

【0306】

ステップS411では、BBゲームの終了判定を実行する。この終了判定では、BBゲームそのものを終了すべきか否かを判定する。この判定が満たされるまでは、ステップS402に戻り、以降の処理を繰り返す。

【0307】

上記のステップS411の終了判定が満たされる条件（BBゲーム終了条件）は、規定枚数（例えば、300枚）を超えるメダルの払出し（累計払出し枚数が300枚を超えること）があった場合となる。なお、これ以外に規定回数のゲームを終了した場合を終了判定が満たされる条件としてもよい。

20

【0308】

BBゲームにて、メダルの累計払出枚数が300枚を超えた場合、ステップS411の終了判定が満たされ、次のステップS412に移る。

【0309】

最後にステップS412では、終了処理として、各当選役の当たり値をBBゲーム用判定テーブルから元の当たり値テーブルに戻してBBゲーム遊技処理は終了となる。

【0310】

なお、BBゲーム中のみ、通常ゲームとベット数を変えて行うものとしてもよい。これにより、遊技者は、通常ゲームとは明らかに異なるゲーム（BBゲーム）であることを明確に認識することができる。

【0311】

30

[RBゲーム遊技処理]

次に図35では、RBゲーム遊技処理の詳細について説明する。

【0312】

ステップS501では、まず初期化処理として、ON状態となっているRBの内部抽選フラグをOFFとする。次いで、各当選役の当たり値をRBゲーム用の当たり値に変更する。特に図示はしないが、RBゲーム用の当たり値テーブル（RBゲーム用判定テーブルという）に当たり値テーブルを変更する。このRBゲーム用判定テーブルとしては前述のBBゲーム用判定テーブルを兼用する。なお、メイン基板409（ROM1112等）の負荷を圧迫しない程度であれば、RBゲーム用判定テーブルを別に設けるものとしてもよい。

40

【0313】

従って、RBゲームでも、BBゲーム専用役、あるいはベルやチェリーに当選する可能性が高いこととなる。

【0314】

また、RBゲーム中も通常ゲームと同様に1回のゲームの掛け数はMAXベット（3枚掛け）のみとする。従って、遊技者は通常ゲームと比べて特別な違和感を覚えることなくゲームを行うことができる。

【0315】

次のステップS502では、前述した始動処理を実行する。次いでステップS503では、前述したリール停止処理を実行する。これら始動処理及びリール停止処理の内容は既

50

に説明したものと同一であるため詳細な説明は省略する。

【0316】

ステップS504では、図柄表示窓401内の出目の態様から、いずれかの有効ライン上に当選役図柄が揃っているか（当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されているか）を確認する。

【0317】

そして、ステップS505では、RBゲーム数カウンタを1つだけカウントアップする。また、このRBゲーム数（RBゲーム中の累計ゲーム回数）は、画像表示体500に表示させる。なお、ゲーム数を表示するためのLED等を新たに設けてこれに表示させるものとしてもよい。

10

【0318】

次にステップS506では、BBゲーム専用役図柄または小役図柄（ベル図柄、チェリー図柄）が揃っているか否かを判定する。これらのいずれかの当選役図柄が揃っている場合、この判定が満たされ、次のステップS507に移る。

【0319】

ステップS507では、規定枚数のメダルの払出コマンドをメダル放出装置110に出力するとともに、メダル払出効果音コマンドをサブ基板449に送信する。

【0320】

そして、ステップS508では、払出処理として、上記の規定枚数のメダルがメダル放出装置110から払出されるとともに、サブ制御基板449は、スピーカ510等から払出効果音を出力させる（効果音を発生させる）。

20

【0321】

ステップS509では、上記ステップS508で払い出したメダルの枚数分だけ累計払出カウンタをカウントアップして、次のステップS510に移る。また、上記のステップS506の判定が満たされない場合（BBゲーム専用役図柄または小役図柄のいずれも揃っていない場合）もステップS510に移る。そして、累計払出枚数についても、画像表示体500にて表示させる。なお、累計払出枚数を表示するためのLED等を新たに設けてこれに表示させるものとしてもよい。

【0322】

次にステップS510では、このときの内部抽選フラグ（成立フラグ）をOFFにして、次のステップS511に移る。

30

【0323】

ステップS511では、RBゲームの終了判定を実行する。この終了判定では、RBゲームそのものを終了すべきか否かを判定する。この判定が満たされるまでは、ステップS502に戻り、以降の処理を繰り返す。

【0324】

上記のステップS511の終了判定が満たされる条件（RBゲーム終了条件）は、RBゲーム中の累計ゲーム数が規定回数（例えば、2回）に到達した場合となる。

【0325】

RBゲームにて、累計ゲーム数が2回に到達した場合、ステップS511の終了判定が満たされ、次のステップS512に移る。

40

【0326】

最後にステップS512では、終了処理として、各当選役の当たり値をRBゲーム用判定テーブルから元の当たり値テーブルに戻してRBゲーム遊技処理は終了となる。

【0327】

なお、RBゲーム中のみ、通常ゲームとベット数を変えて行うものとしてもよい。これにより、遊技者は、通常ゲームとは明らかに異なるゲーム（RBゲーム）であることを明確に認識することができる。

【0328】

[UNBBゲーム遊技処理]

50

UNBBゲームでは、その開始や途中経過、終了まで何も表示、告知、報知等一切することなくゲームを進行させるものである。図36では、UNBBゲーム遊技処理の詳細について説明する。

【0329】

まず、ステップS601では、まず初期化处理として、ON状態となっているUNBBの内部抽選フラグをOFFとする。次いで、各当選役の当たり値をUNBBゲーム用の当たり値に変更する（前述の図31（c）参照）。

【0330】

従って、UNBBゲームでは、一部当選しない当選役（この例ではリプレイ、BB）があるものの、その他の当選役については通常ゲームとほとんど当選確率が変わることなくゲームが進行されるものとなる。

10

【0331】

また、UNBBゲーム中も通常ゲームと同様に1回のゲームの掛け数はMAXベット（3枚掛け）のみとする。これにより、遊技者に向けては、UNBBゲームを行っているのか、通常ゲームを行っているのか区別を困難なものとすることができる。ここで、UNBBゲーム中はリプレイについても抽選されていないため、例えば数十回のゲームを行うと、リプレイの当選状況（この場合、全く当選していないという状況）に注目していれば、気づく可能性もあるといえる。つまり、リプレイが遊技状態を見極める手掛かりとしての役割を持っているということになる。ただし、内部抽選による各当選役の当選状況（リプレイ含む）には通常ゲームであっても偏りが生じるものであるから、十数回、数十回とリプレイに当選とならない場合も可能性としては有りうる。従って、遊技者がUNBBゲーム中であると確信を持つに至るまでには相当のゲーム回数を経なければならず、そのうちに後述するUNBBゲームの終了条件が成立してしまう場合も多々あるといえる。つまり、あくまで一つの推測材料としての役割を持つだけに留めることができ、早いうちに（数回のゲーム程度で）遊技者がUNBBゲーム中であることに気づいてしまう（その結果、落胆する）ことを極力回避できる。

20

【0332】

次のステップS602では、前述した始動処理を実行する。次いでステップS603では、前述したリール停止処理を実行する。これら始動処理及びリール停止処理の内容は既に説明したものと同一であるため詳細な説明は省略する。

30

【0333】

ステップS604では、図柄表示窓401内の出目の態様から、いずれかの有効ライン上に当選役図柄が揃っているか（当選役に対応する図柄の組み合わせ態様が表示されているか）を確認する。

【0334】

そして、ステップS605では、UNBBゲーム数カウンタを1つだけカウントアップする。また、このUNBBゲーム数（UNBBゲーム中の累計ゲーム回数）は、特に画像表示体500等に表示させたり、その他報知（告知）したりすることもしない。つまり、遊技者には全く秘匿されることになる。

【0335】

40

次にステップS606では、小役図柄（ベル図柄、チェリー図柄）が揃っているか否かを判定する。小役図柄が揃っている場合、この判定が満たされ、次のステップS607に移る。

【0336】

ステップS607では、規定枚数のメダルの払出コマンドをメダル放出装置110に出力するとともに、メダル払出効果音コマンドをサブ基板449に送信する。

【0337】

そして、ステップS608では、払出処理として、上記の規定枚数のメダルがメダル放出装置110から払出されるとともに、サブ制御基板449は、スピーカ510等から払出効果音を出力させる（効果音を発生させる）。

50

【0338】

ステップS609では、上記ステップS608で払い出したメダルの枚数分だけ累計払出カウンタをカウントアップして、次のステップS610に移る。この累計払出枚数についても、画像表示体500等に表示させたり、その他報知（告知）したりすることはしない。つまり、遊技者には全く秘匿されることになる。

【0339】

また、上記のステップS606の判定が満たされない場合（小役図柄が揃っていない場合）、ステップS621に移り、CB図柄が揃っているか否かを判定する。CB図柄が揃っている場合、この判定が満たされ、ステップS622に移る。

【0340】

ステップS622では、CBゲーム処理を実行する。このCBゲーム処理の内容は既に説明したものと同一であるため詳細な説明は省略する。そして、ステップS610に移る。

10

【0341】

次にステップS610では、このときの内部抽選フラグ（成立フラグ）をOFFにして、次のステップS611に移る。

【0342】

ステップS611では、UNBBゲームの終了判定を実行する。この終了判定では、UNBBゲームそのものを終了すべきか否かを判定する。この判定が満たされるまでは、ステップS602に戻り、以降の処理を繰り返す。

20

【0343】

上記のステップS611の終了判定が満たされる条件（UNBBゲーム終了条件）は、規定枚数（例えば、100枚）を超えるメダルの払出し（累計払出し枚数が100枚を超えること）があった場合となる。なお、これ以外に規定回数のゲームを終了した場合を終了判定が満たされる条件としてもよい。例えば、通常ゲームで累計払出枚数が約100枚に到達する程度のゲーム数を規定回数とすればよい。

【0344】

UNBBゲームにて、メダルの累計払出枚数が100枚を超えた場合、ステップS611の終了判定が満たされ、次のステップS612に移る。

【0345】

また、上記のステップS621の判定が満たされない場合（CB図柄が揃っていない場合）、ステップS631に移り、RB図柄が揃っているか否かを判定する。RB図柄が揃っていない場合、この判定が満たされず、ステップS610に移る。なお、ステップS610以降の内容については既に説明したとおりである。

30

【0346】

そして、RB図柄が揃っている場合、上記ステップS621の判定が満たされ、ステップS632に移る。

【0347】

ステップS632では、RB図柄が揃ったことを知らせる祝福効果音コマンドをサブ基板449に送信する。そして次のステップS633に移る。

40

【0348】

次のステップS633では、RBゲーム遊技処理を実行する。そしてステップS612に移る。なお、上記ステップS632、S633は既に説明した内容と同一であるので詳細な説明は省略する。

【0349】

最後にステップS612では、終了処理として、各当選役の当たり値をUNBBゲーム用判定テーブルから元の当たり値テーブルに戻してUNBBゲーム遊技処理は終了となる。

【0350】

以上のことから、UNBBゲームはその特徴として、終了判定が満たされずとも終了す

50

る場合があるということがいえる。言い換えれば、U N B Bゲーム中にR Bに当選すると、強制的にU N B Bゲームが終了するということである。従って、U N B BゲームでB Bの抽選が行われないという不利な状況から脱出する方法は規定枚数のメダルが払出されるか、R Bに当選するか、いずれかということになる。

【0351】

[各種演出等]

以上は、メイン基板409による制御の例であるが、スロットマシン1では、ゲームの進行にあわせてサブ基板449により各種演出動作の制御（演出処理）を実行することができる。これは既に説明したとおり、メイン基板409から出力される各種コマンドに基づいて、サブ基板449のCPU1118等にて実行されるものである。

10

【0352】

例えば、通常ゲーム及びB Bゲーム等の遊技状態に応じて、各種演出処理を実行することができる。この各種演出処理では、画像表示体500による表示や、スピーカ510等による効果音の発生、LED装飾等による発光や点灯を各種演出として実行させることができる。これらの各種演出は遊技者を視覚的にあるいは聴覚的（あるいは触覚的）に楽しませることができ、ゲームの面白みをさらに高めるものである。

【0353】

また、ゲームの結果（内部抽選の抽選結果、判定処理の結果など）に対応する演出態様を実行させることや、ゲームの結果に対応しない演出態様を実行させることもできる。

【0354】

20

具体的に、ゲームの結果に対応する演出態様とは、内部抽選の抽選結果がB Bとなった場合などにそのことを告知する態様（例えば、「ボーナス確定」の表示等）を実行させることである。これは、遊技者が始動操作を開始したときや、停止処理を終えたときなどに実行させることにより、遊技者がB B等の大量のメダルを獲得できる機会が得られたことを素早く知ることが可能となる。また、小役やリプレイなどの当選を知らせることもできる。

【0355】

また、ゲームの結果に対応しない演出態様とは、内部抽選の抽選結果がハズレとなった場合などに、あたかも小役やリプレイ、B Bなどに当選しているかに見せ掛ける態様を実行させることである。これも、遊技者が始動操作を開始したときや、停止処理を終えたときなどに実行させることにより、遊技者に期待感を抱かせることができる。

30

【0356】

さらに、各種演出処理はゲームの進行に基づいて実行させることができるので、遊技者が行う一連の操作（ゲームを進行させる操作）に関連していつでも実行させることができる。例えば、始動操作が受け付けられてからしばらく時間をおいて突然演出を行わせたり、あるいは遊技者による停止操作により各リールが停止するたびに演出を行わせたり、といったことが挙げられる。

【0357】

また、各種演出は、画像表示体500、スピーカ510、LED装飾等で実行されることとなるが、これに限られるものではない。例えば、画像表示体500に代えて、ELディスプレイ（Electroluminescence Display）や、ドットLEDを用いてもよい。さらに、キャラクタを模した人形や、可動可能な模型等や、サイドリール（例えば、各リールとは別の位置に配され、演出の一環として遊技者の操作に因らずにその始動と停止を実行するもの）や、あるいは、ランプなどの照明（例えば、回転灯に代表される回転可能なライト等）を設けて各種演出を実行させるものとしてもよい。このような方法をとれば、液晶表示等を用いずとも遊技者を十分に楽しませることが可能である。

40

【0358】

[払出予告]

本実施形態のスロットマシン1では、払出予告が実行可能となっている。つまり、上述

50

したようなリール停止処理（図 3 2 参照）によって各リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c が停止した後の判定処理（図 3 3 参照）を経た規定枚数のメダルの払い出しとは別に、特定当選役としてのベルやチェリーに当選した場合には、リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c の停止に先立って払出枚数に基づく予告枚数の表示が可能となっている。

【0 3 5 9】

具体的には、始動レバー 2 1 0 の操作があると（ステップ S 1 0 4 にて Y E S）、乱数を抽出し（ステップ S 1 0 6）フラグ処理を実行して（ステップ S 1 0 7）、小役フラグの成立を判定する。ここで小役フラグが O N となっている場合、すなわちベル又はチェリーに当選した場合には、払出予告を実行するか否かを抽選にて決定する。払出予告の実行が決定されると、始動レバー 2 1 0 の操作に基づくタイミング（例えば、各リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c が回転を開始した直後）、各リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c の停止操作のうち最初の停止操作に基づくタイミング（例えば、第 1 リールが停止した直後）、及び、2 番目の停止操作に基づくタイミング（例えば、第 2 リールが停止した直後）で、払出予告を実行する（払出予告手段）。また、各タイミングにおいて、予告枚数を段階的に変化させる。このような払出予告の実行は、サブ基板 4 4 9 に予告枚数の表示コマンドを送信することで行われる。これにより、サブ基板 4 4 9 は、画像表示体 5 0 0 に、予告枚数を表示する。またこのとき、サブ基板 4 4 9 に対し予告枚数の表示コマンドと共に、払出音コマンドを送信する。これにより、スピーカ 5 1 0 を介して払出効果音が出力される。

【0 3 6 0】

ところで、予告枚数は、メダルの払出枚数以下で設定される。具体的には、特定当選役としてチェリーに当選した場合には、払出枚数が「4」であるため、予告枚数は、「1」～「4」の範囲で設定される。また、ベルに当選した場合には、払出枚数が「6」であるため予告枚数は「6」以下に設定されるのであるが、本実施形態では、チェリーの払出枚数「4」を上回る「5」又は「6」として予告枚数が設定される。したがって、本実施形態によれば、ベルに当選している場合、予告枚数「5」又は「6」が表示されることになり、チェリーへの当選可能性が常に否定される。

【0 3 6 1】

なお、本実施形態では、ベルに当選した場合にはチェリーの当選可能性を否定するような予告枚数を設定するようにしているが、ベルに当選した場合であっても、単に「6」以下の予告枚数「1」～「6」を設定するようにしてもよい。その場合、ベルに当選した場合であっても、たまたま「5」や「6」が予告枚数として設定された場合にのみ、チェリーの当選可能性が否定されることになる。

【0 3 6 2】

もちろん、特定当選役を 3 種類以上設けることも考えられる。例えば特定当選役に払出枚数「1 5」といったスイカ等を設けるようにしてもよい。その場合、スイカに当選した場合の予告枚数は、「1」～「1 5」で設定するようにしてもよいし、チェリーの払出枚数「4」を上回るものとして設定してもよいし、ベルの払出枚数「6」を上回るものとして設定してもよい。「4」を上回る予告枚数を設定すれば、スイカに当選した場合には、チェリーへの当選可能性が常に否定されることになり、「6」を上回る予告枚数を設定すれば、ベル及びチェリーへの当選可能性が常に否定されることになる。

【0 3 6 3】

以上詳述したように、本実施形態では、払出予告が実行可能となっている。すなわち、特定当選役としてのベルやチェリーに当選した場合には、リール 3 0 1 a, 3 0 1 b, 3 0 1 c の停止に先立って予告枚数の表示が可能となっている。これにより、通常遊技状態におけるベル又はチェリーへの当選がインパクトのある分かり易いものとなり、従来のように特定当選役への当選に対応する演出を理解する必要がなくなるため、遊技の興趣の低下を抑制することができる。

【0 3 6 4】

また、表示される予告枚数は、選出された特定当選役を遊技者が推測するためのものと

なっている。これにより、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性を有しており、遊技の興趣の向上が図られる。特に、ベルに当選した場合には、チェリーへの当選を否定できるような予告枚数「5」又は「6」が設定されるため、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させるという新たな遊技性が顕著なものとなる。

【0365】

さらにまた、本実施形態では、払出予告を実行するか否かが抽選によって決定され、払出予告の実行が決定されている場合に、払出予告手段によって、払出予告が実行される。これにより、この抽選確率を適切なものとすることで、払出予告の実行は不確定ではあるが確率に従うものとなり、払出予告を適度に実行することができる。その結果、払出予告が頻発する等、却って興趣の妨げとなってしまうという事態を回避できる。

10

【0366】

さらにまた、本実施形態では、払出予告の実行タイミングが、始動レバー210の操作に基づくタイミング、各リール301a, 301b, 301cの停止操作のうち最初の停止操作に基づくタイミング、及び、2番目の停止操作に基づくタイミングとなっている。また、各タイミングにおいて段階的に予告枚数が変化させられる。これによって、各タイミングで、すなわち一回のゲームの中で何度も、いずれの特定当選役への当選があったかを遊技者に推測させることができる。その結果、上記新たな遊技性が顕著なものとなる。

【0367】

また、本実施形態では、サブ基板449に対し払出枚数の表示コマンドと共に、払出音コマンドを送信する。これにより、スピーカ510を介して払出効果音が出力される。その結果、通常遊技状態における特定当選役への当選を聴覚を通じて予告するという意味で、払出予告をインパクトのあるものとすることができる。また、払出効果音が出力されるため、実際にメダルの払い出しが行われているかのような感覚を遊技者に与えることができ、遊技の興趣向上に寄与する。

20

【0368】

なお、上記実施形態では、特定当選役としてのベルやチェリーは目押しの必要なく揃えられるようになっていた。これに対して、特定当選役に目押しの必要な当選役を割り当ててもよい。この場合、予告枚数から特定当選役が推測できる場合には、例えば目押しが必要であるか否かを遊技者に理解させることができ、注意を喚起することができるため、取りこぼしの可能性が小さくなる。

30

【0369】

また、上記実施形態は払出枚数に基づく予告枚数を表示するものであったが、払出枚数自体を表示することで予告を行うものとしてもよいし、実際に事前の払い出しを行うことで予告を行うものとしてもよい。

【0370】

本実施形態におけるリール301a, 301b, 301cが「可動表示体」に相当し、図柄変動表示装置300が「図柄変動表示装置」に相当し、図柄表示窓401が「図柄表示部」に相当し、停止ボタン211a, 211b, 211cが「停止操作手段」に相当する。また、図29のステップS3が「内部抽選手段」としての処理に相当し、ステップS5が「可動表示体停止制御手段」及び「特定当選態様表示手段」としての処理に相当し、ステップS6及びステップS7が「遊技媒体払出手段」としての処理に相当する。また、スピーカ510が「効果音出力手段」に相当し、サブ基板449が「効果音出力制御手段」に相当する。

40

【0371】

以上は、本発明のスロットマシン1の一形態であるが、これに限定されることはない。その他にも、遊技球を用いるタイプの回胴式遊技機もあり、こちらも実施形態として好適である。

【図面の簡単な説明】

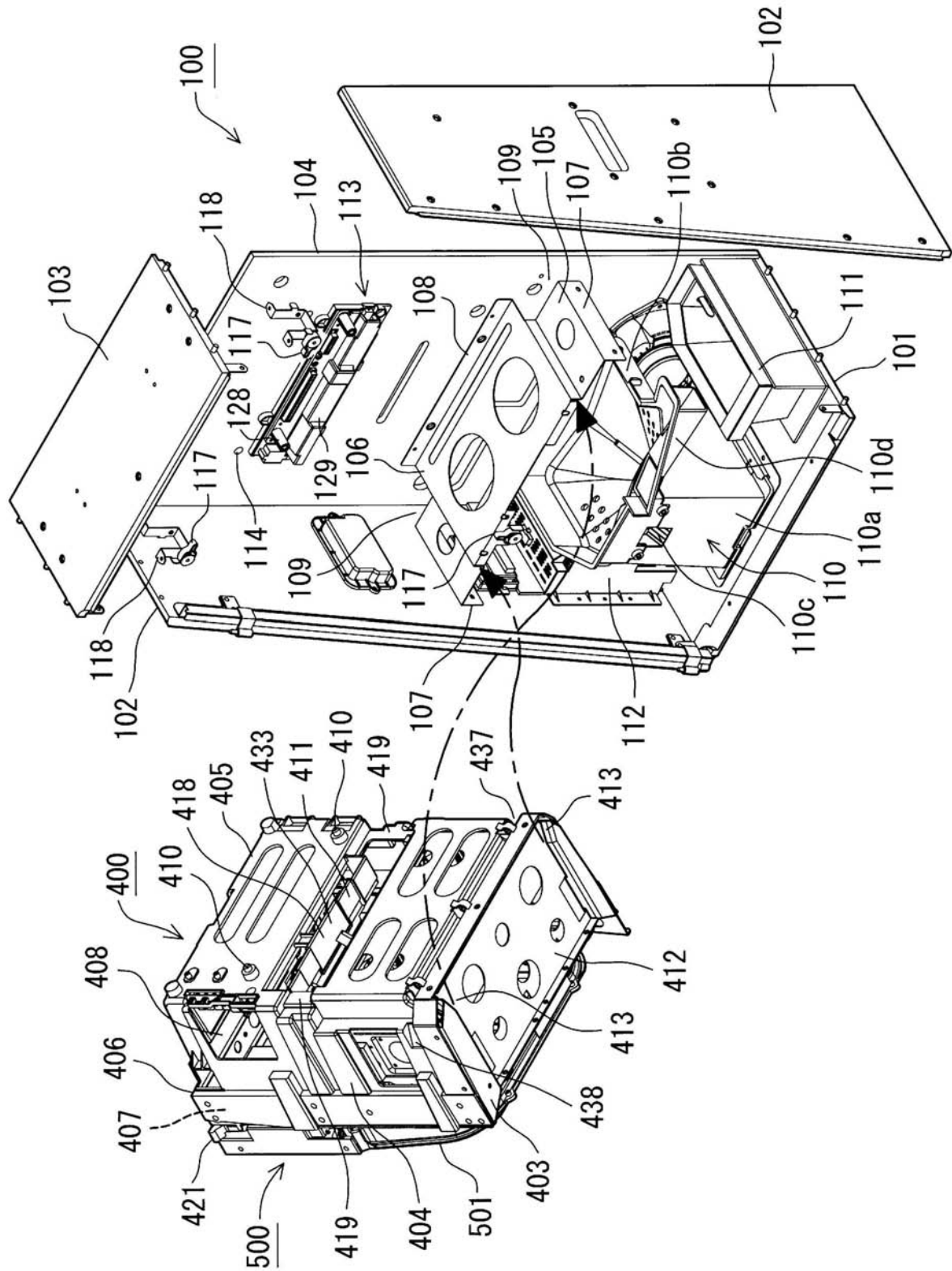
【0372】

50

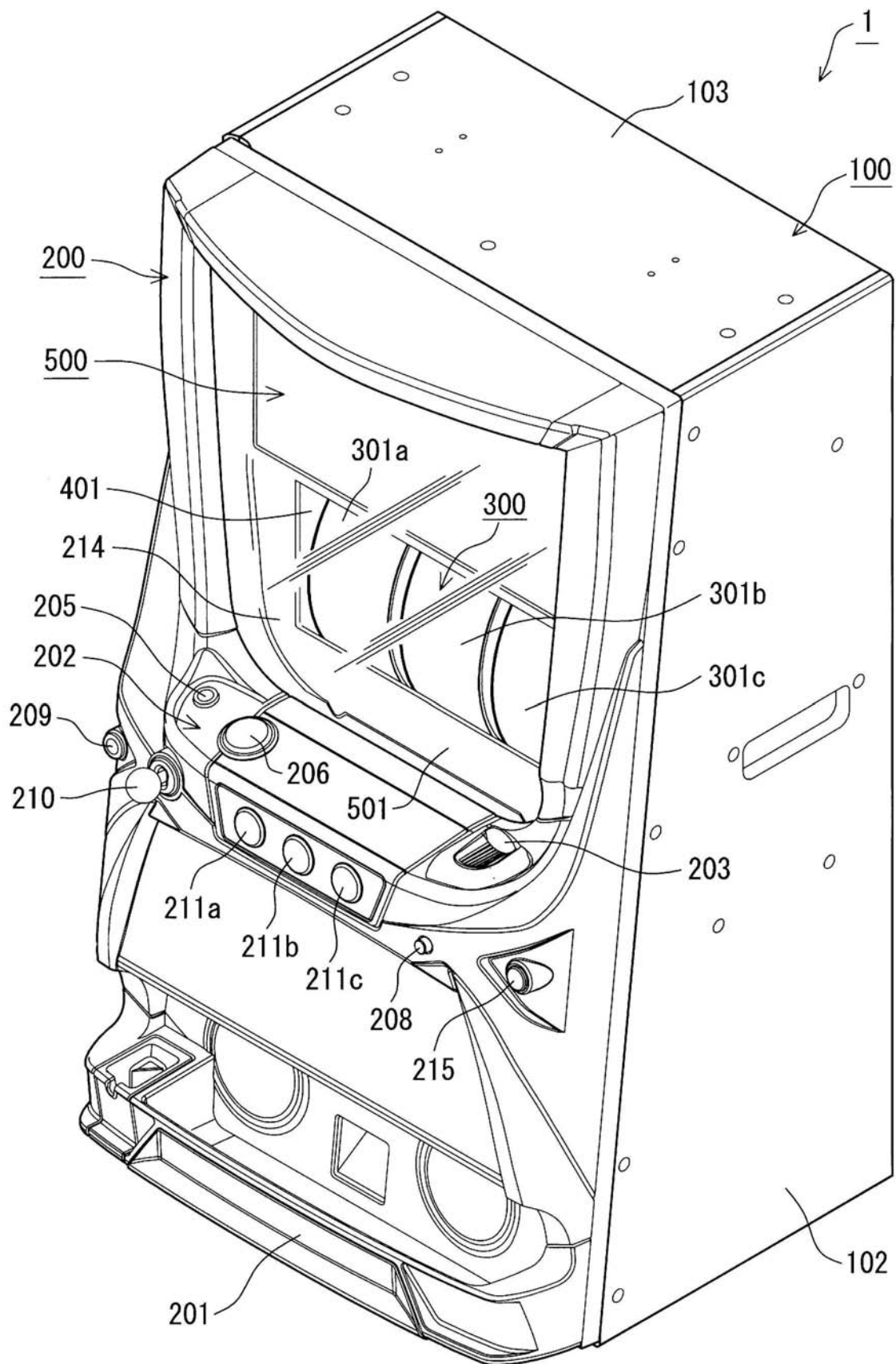
- 【図 1】スロットマシンの分解斜視図である。
- 【図 2】扉形前面部材を省略した状態を示すスロットマシンの分解斜視図である。
- 【図 3】スロットマシンの斜視図である。
- 【図 4】扉形前面部材を省略した状態を示すスロットマシンの縦断面図である。
- 【図 5】図 4 の Z 1 部拡大図である。
- 【図 6】コネクタホルダーを移動させた状態を示す図 4 の Z 1 部拡大図である。
- 【図 7】扉形前面部材を省略した状態を示すスロットマシンの横断面図である。
- 【図 8】(a) は図 7 の Z 2 部拡大図、(b) はコネクタホルダーを移動させた状態を示す図 7 の Z 2 部拡大図である。
- 【図 9】図 8 (a) の要部を示す拡大図である。 10
- 【図 10】背板側を示すスロットマシン要部の横断面図である。
- 【図 11】ケース部材の分解斜視図である。
- 【図 12】ケース部材を後ろから見た斜視図である。
- 【図 13】(a), (b) はコネクタホルダーの仮止め状態を説明するケース部材の要部の斜視図である。
- 【図 14】配線中継部材の分解斜視図である。
- 【図 15】配線中継部材のカバー体を省略した正面図である。
- 【図 16】コネクタホルダーの分解斜視図である。
- 【図 17】ケース部材を止めるストッパーの斜視図である。
- 【図 18】他の形態を示すストッパーの斜視図である。 20
- 【図 19】ケース部材のガイド構造を示す要部の断面図である。
- 【図 20】ケース部材のガイド構造を示す要部の断面図である。
- 【図 21】把手の他の形態を示す図柄変動表示装置の部分斜視図である。
- 【図 22】ケース部材と外本体側のストッパーとの関係を示す要部の斜視図である。
- 【図 23】配線窓と図柄変動表示装置のリールとの関係を示す要部の断面図である。
- 【図 24】リール帯の図柄列を平面的に展開した展開図である。
- 【図 25】図柄表示窓 401 部分の拡大図である。
- 【図 26】スロットマシンに装備されている各種の機構要素や電子機器類、操作部材等の構成を概略的に示す概略図である。
- 【図 27】各当選役と対応する図柄の組み合わせ態様及びその遊技特典を示す対応表である。 30
- 【図 28】遊技者に向けた各当選役と対応する図柄の組み合わせ態様及びその遊技特典を示す配当表である。
- 【図 29】スロットマシンにおける基本的な 1 ゲームの処理手順を示すフローチャートである。
- 【図 30】始動処理の処理手順を示すフローチャートである。
- 【図 31】抽出乱数値の当たり値判定テーブル(各種)である。
- 【図 32】リール停止処理の処理手順を示すフローチャートである。
- 【図 33】判定処理の処理手順を示すフローチャートである。
- 【図 34】BB ゲーム遊技処理の処理手順を示すフローチャートである。 40
- 【図 35】RB ゲーム遊技処理の処理手順を示すフローチャートである。
- 【図 36】UNBB ゲーム遊技処理の処理手順を示すフローチャートである。
- 【符号の説明】
- 【0373】
- 1 … スロットマシン(遊技機)
 - 100 … 外本体
 - 104 … 背板
 - 112 … 電源装置
 - 113 … 配線中継部材
 - 119 … 本体側配線類

1 2 8 … 支持筒
3 0 0 … 図柄変動表示装置
4 0 0 … ケース部材
4 0 9 … メイン基板
4 1 8 … 仮止め部材
4 2 3 … ケース側配線類
4 2 5 , 4 2 7 … コネクタ
4 2 8 … コネクタホルダー
5 0 0 … 画像表示体

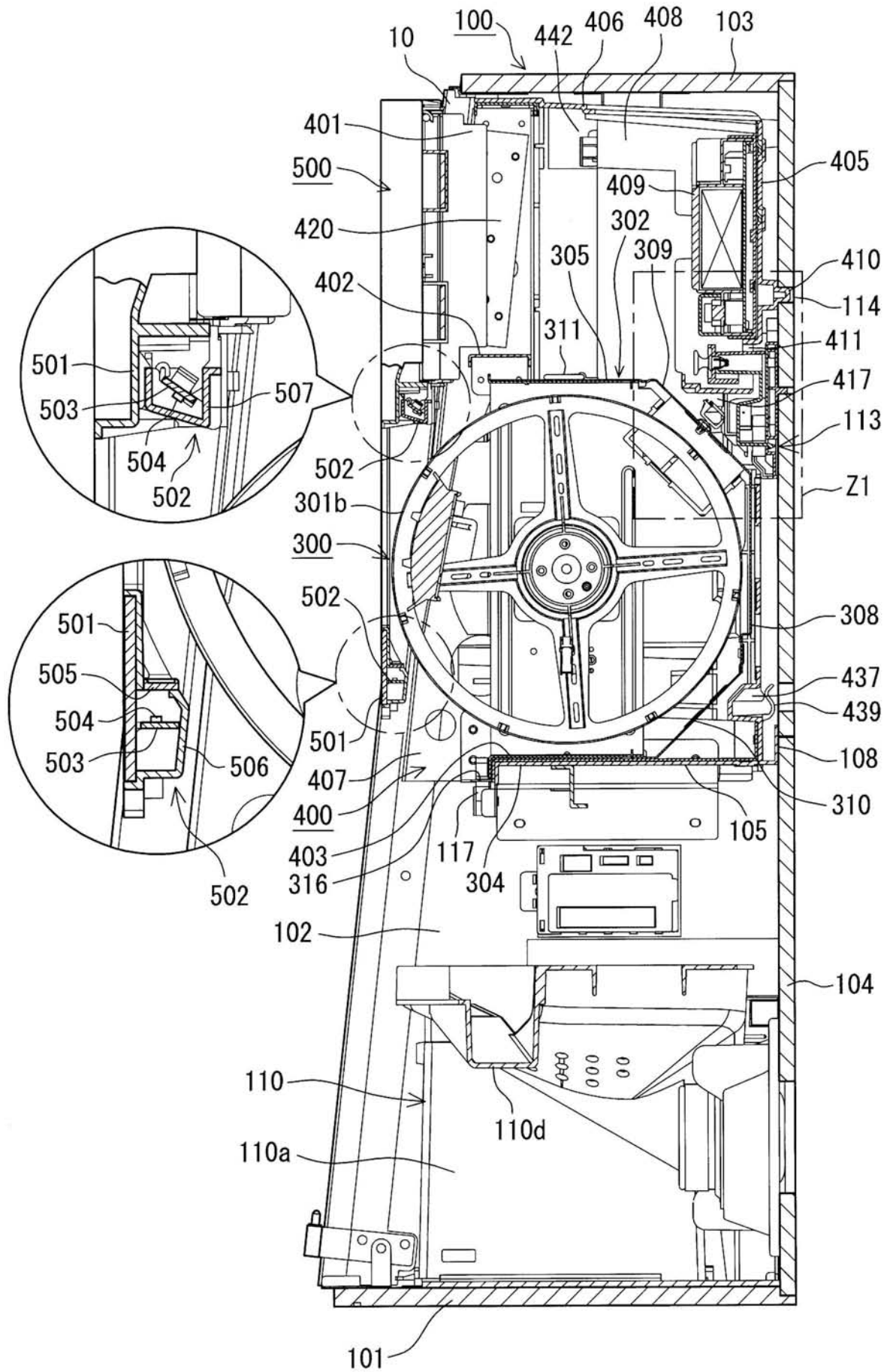
【図 2】



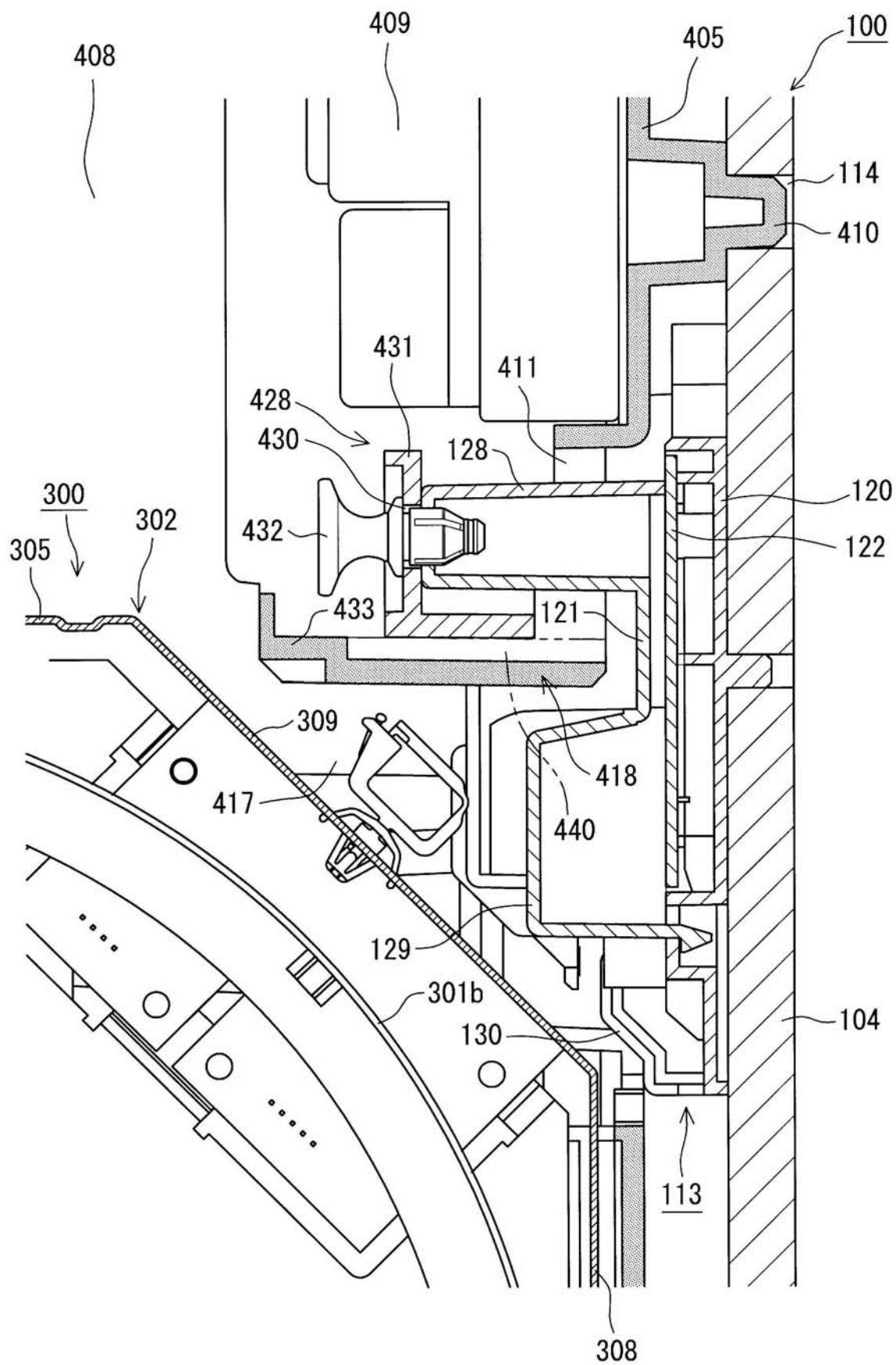
【図 3】



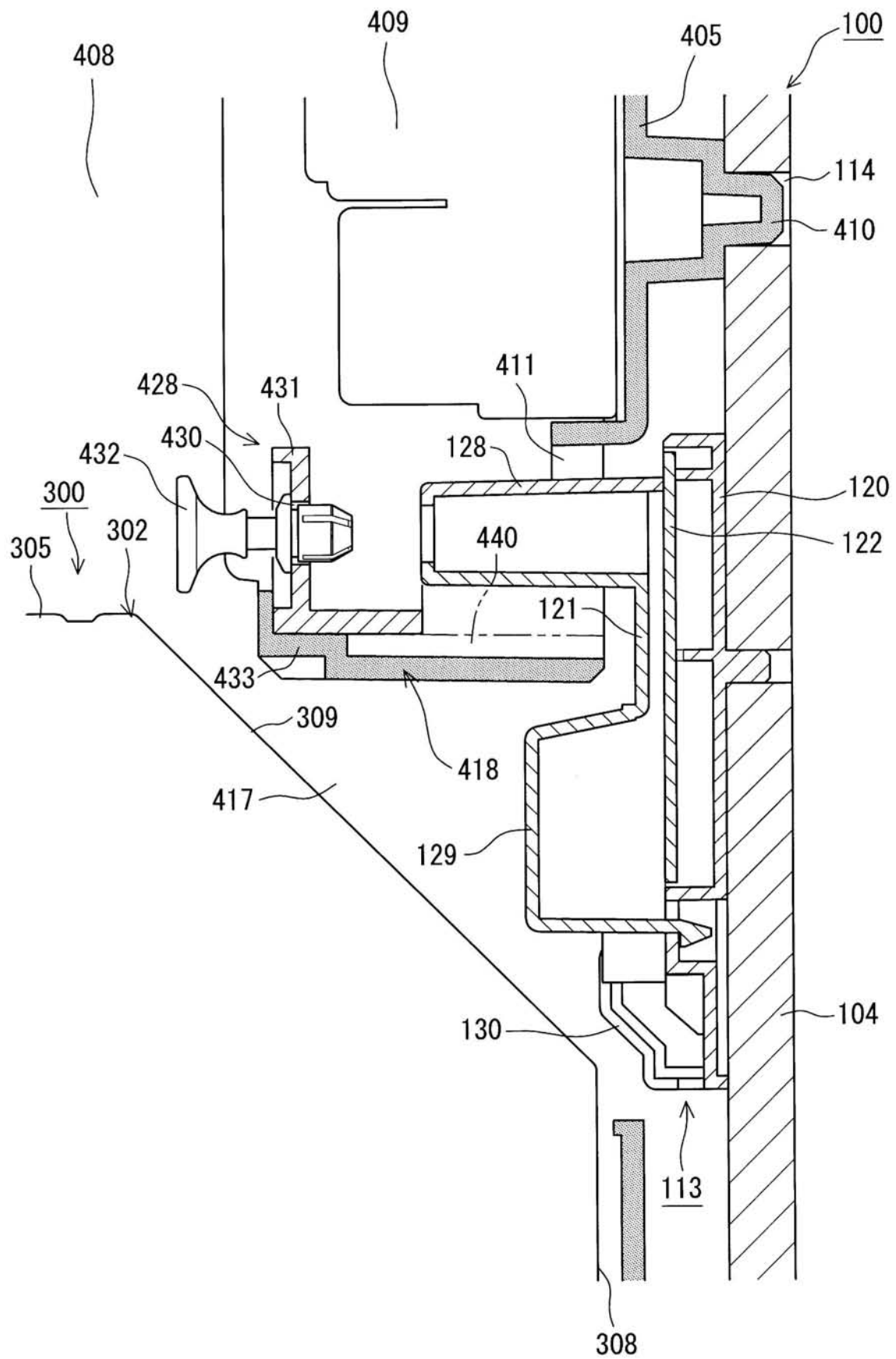
【図 4】



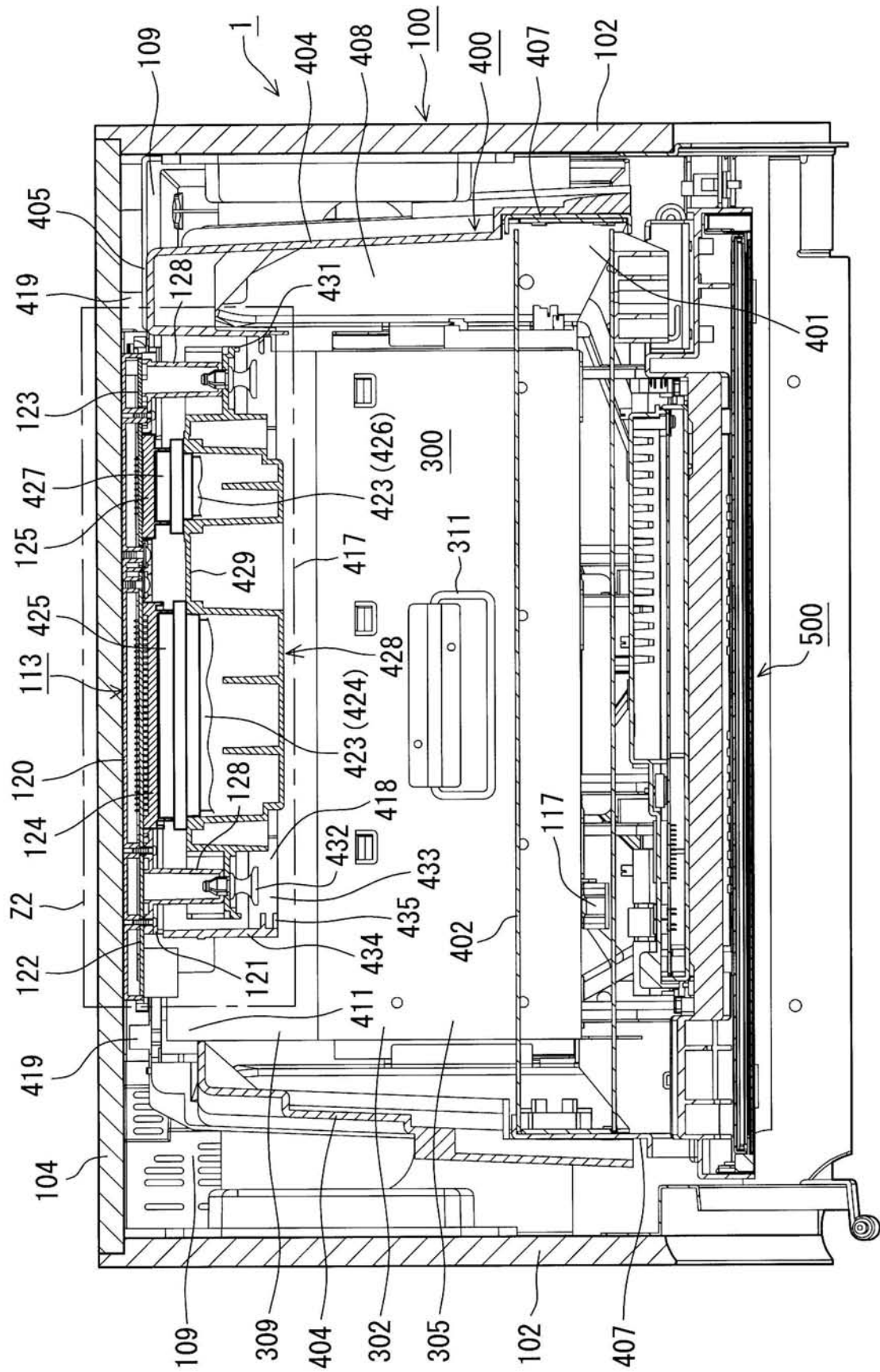
【図 5】



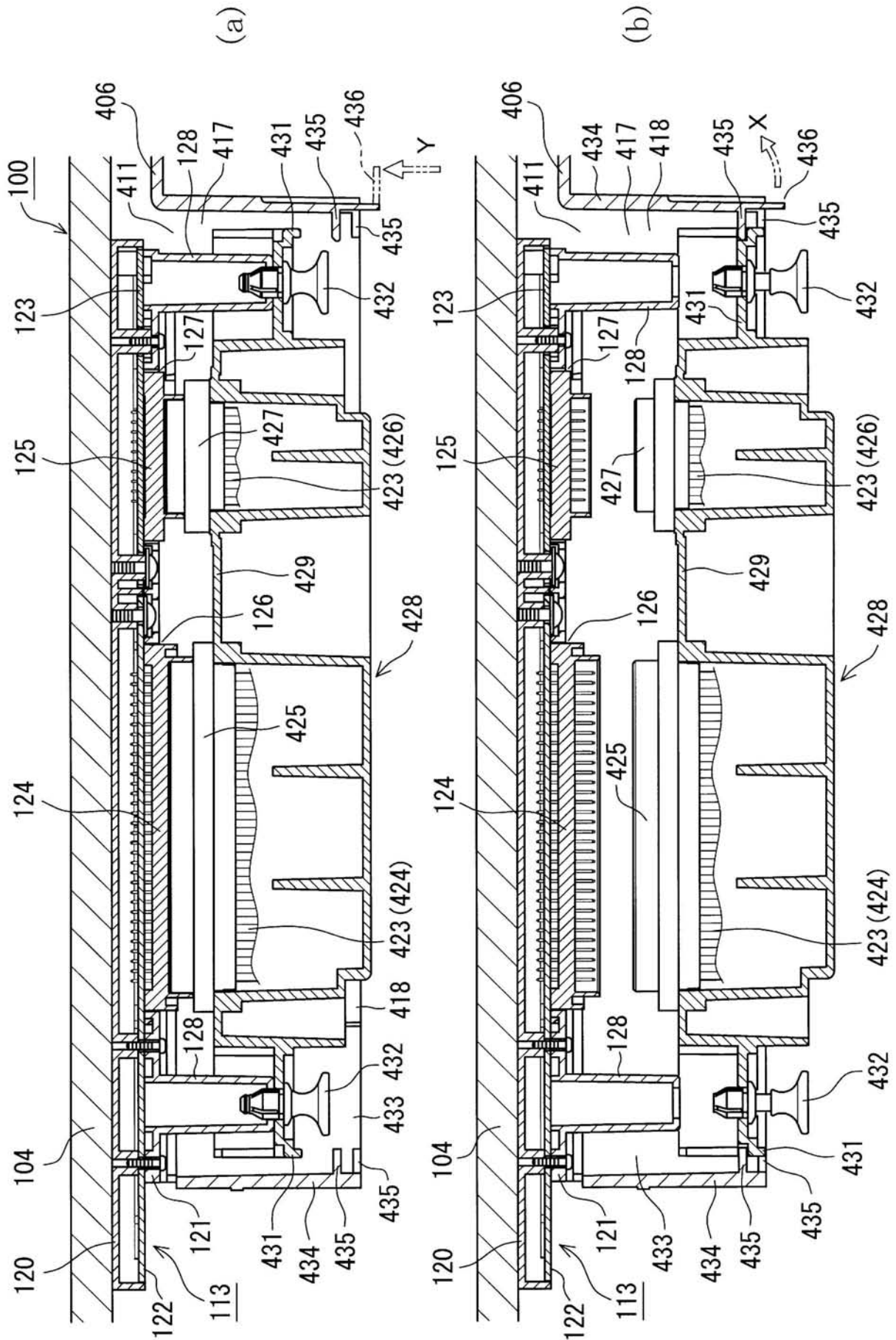
【図 6】



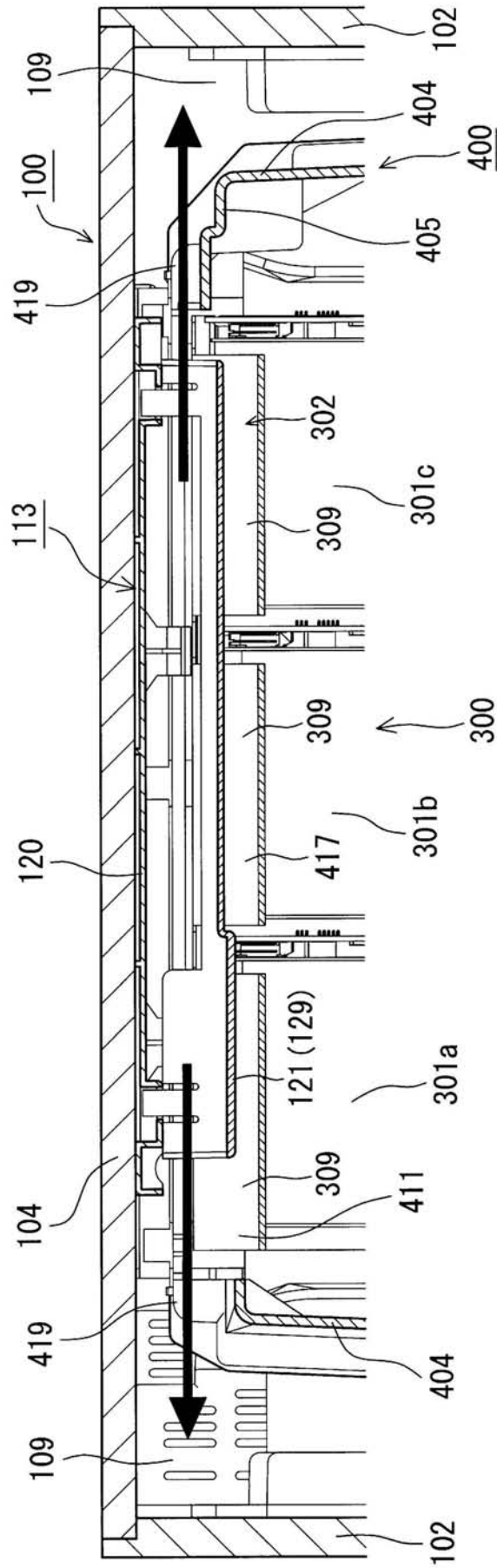
【図 7】



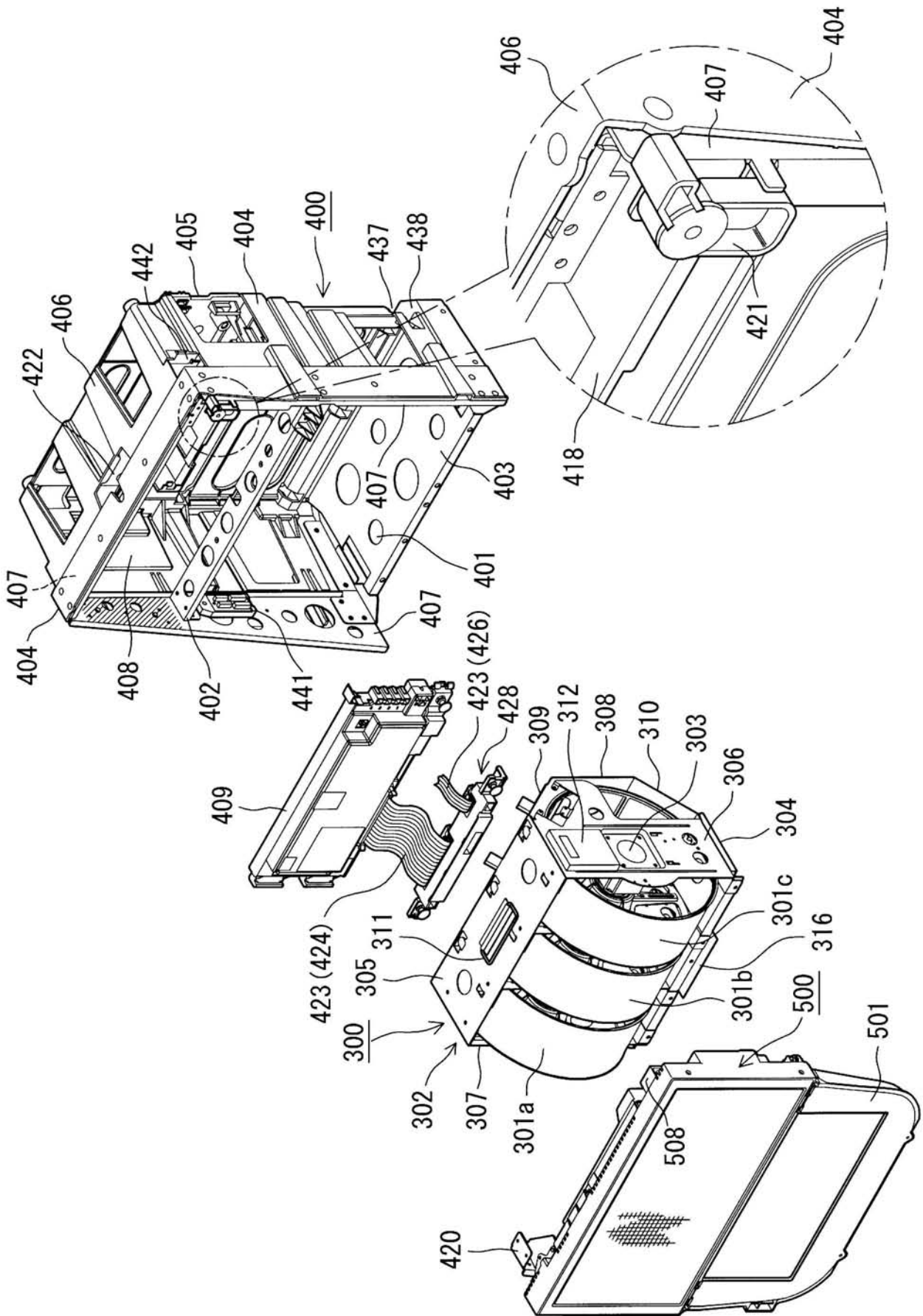
【图 8】



【図 10】

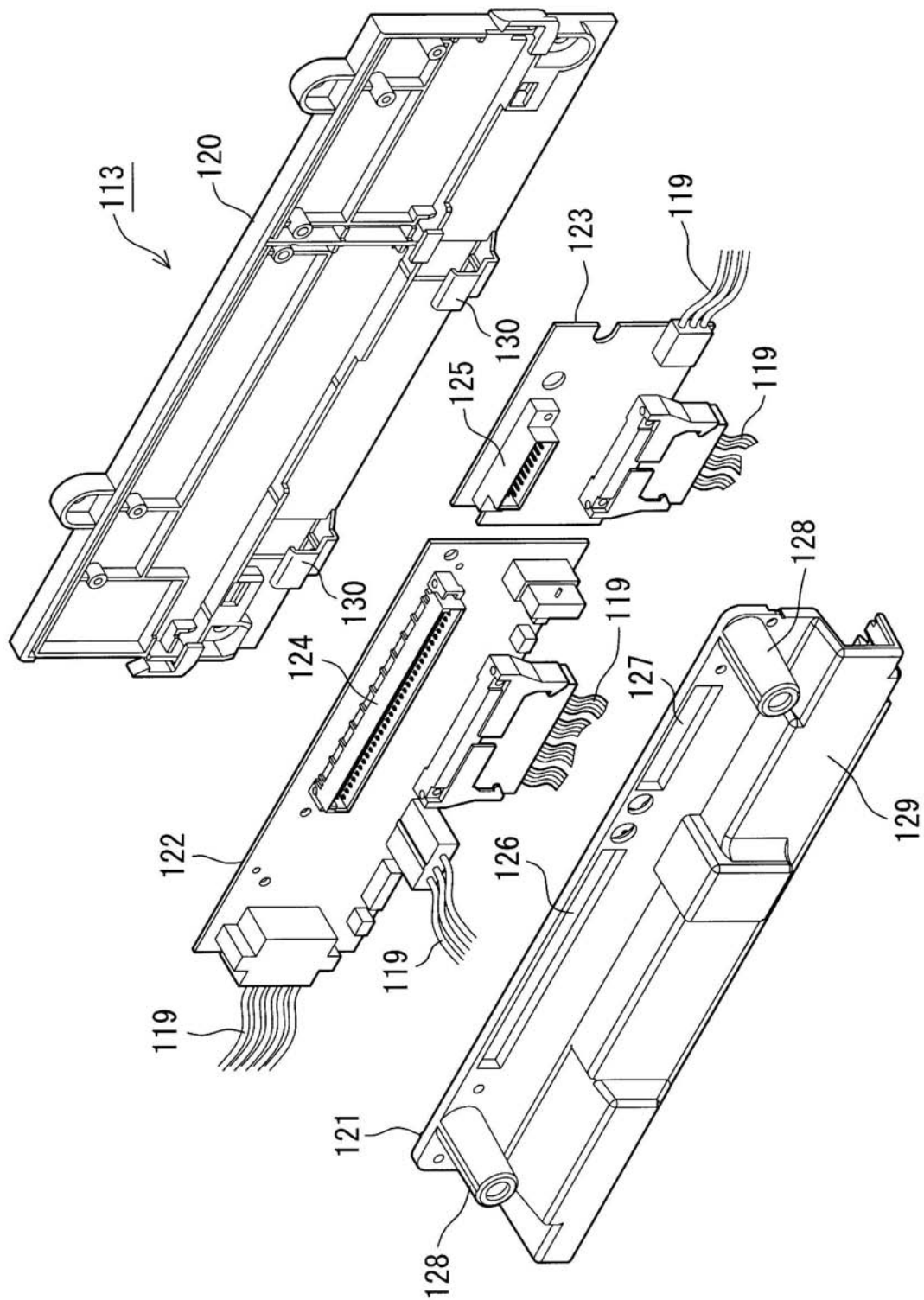


【図 11】

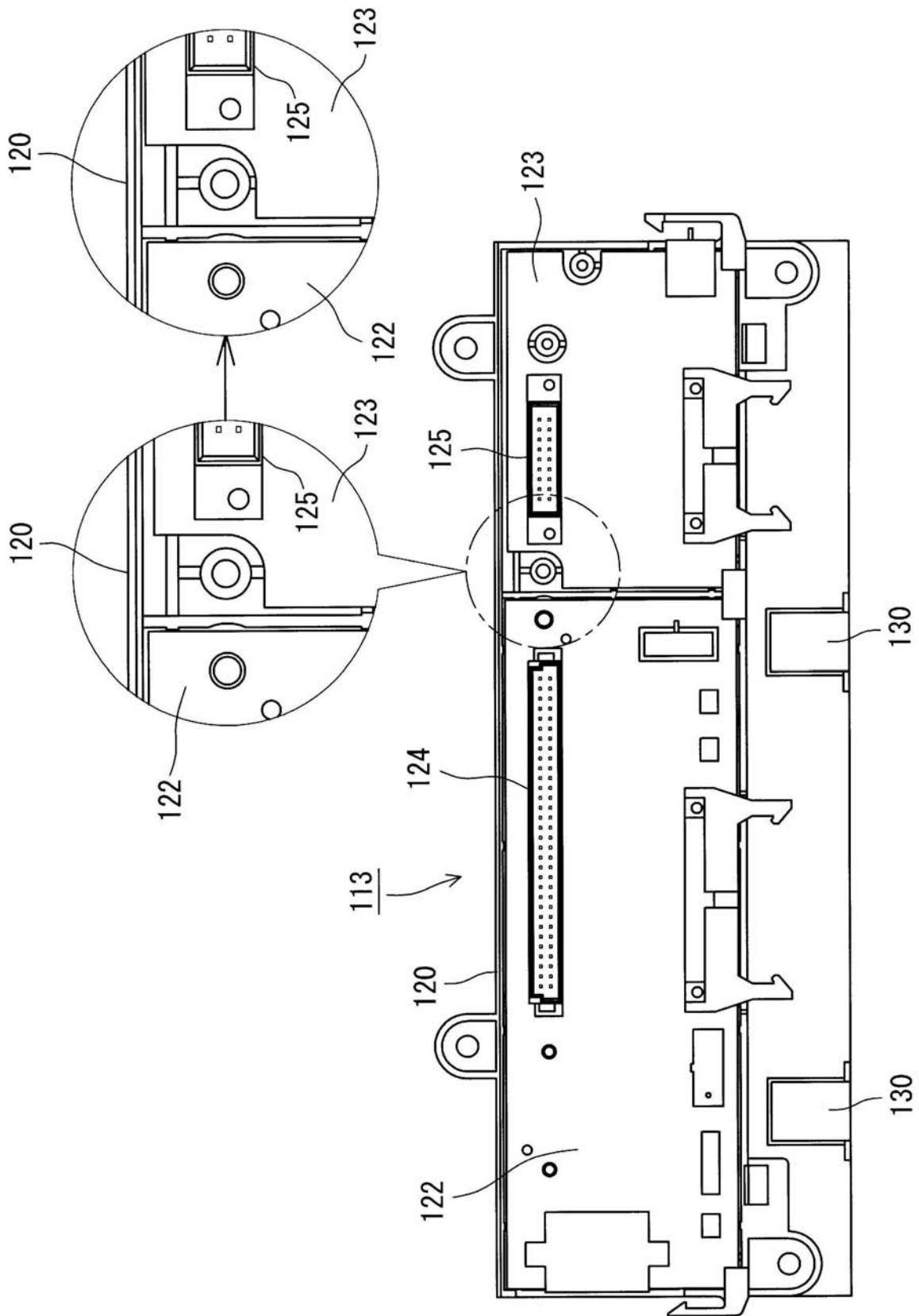


[illegible]

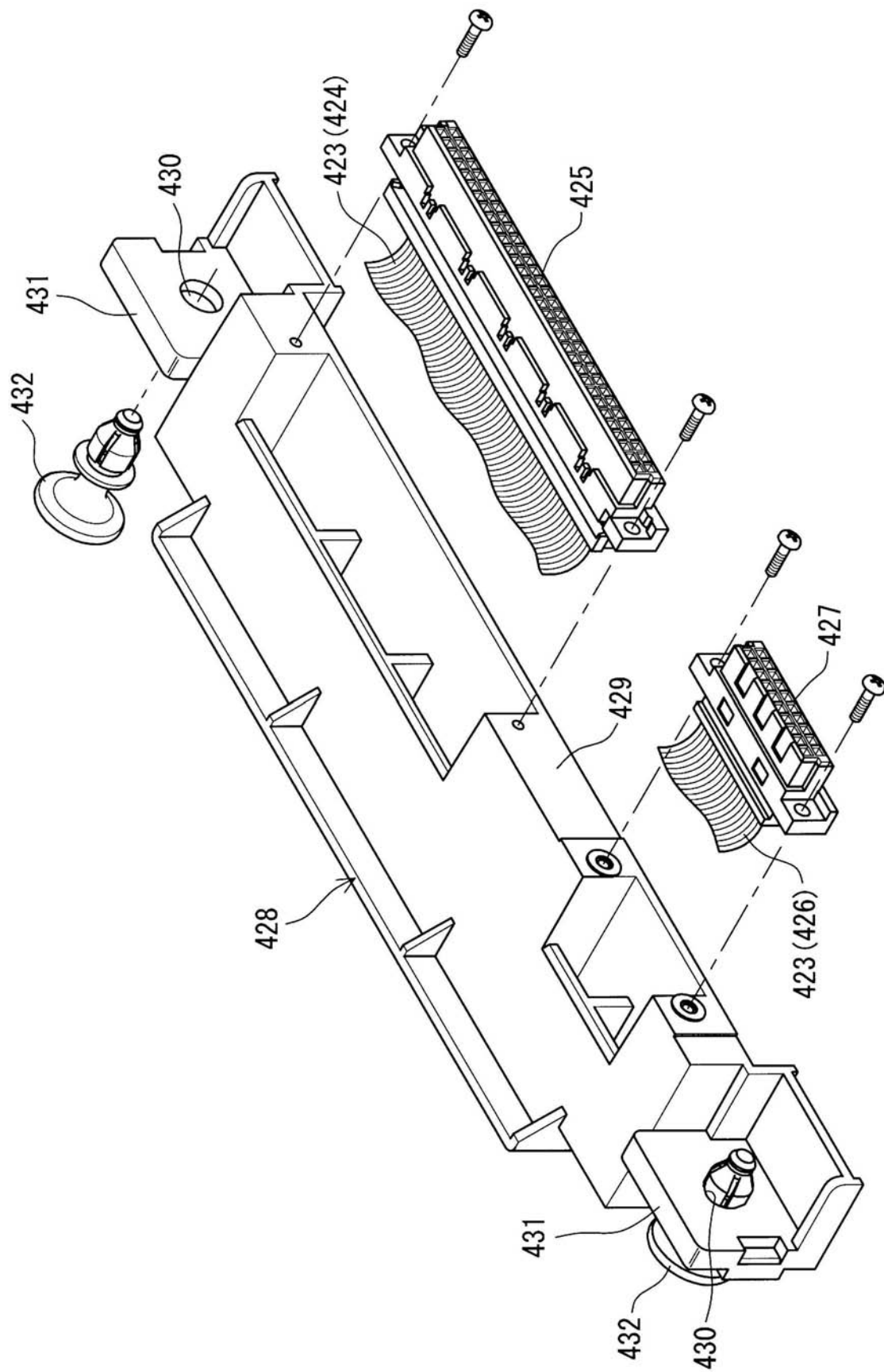
【図 14】



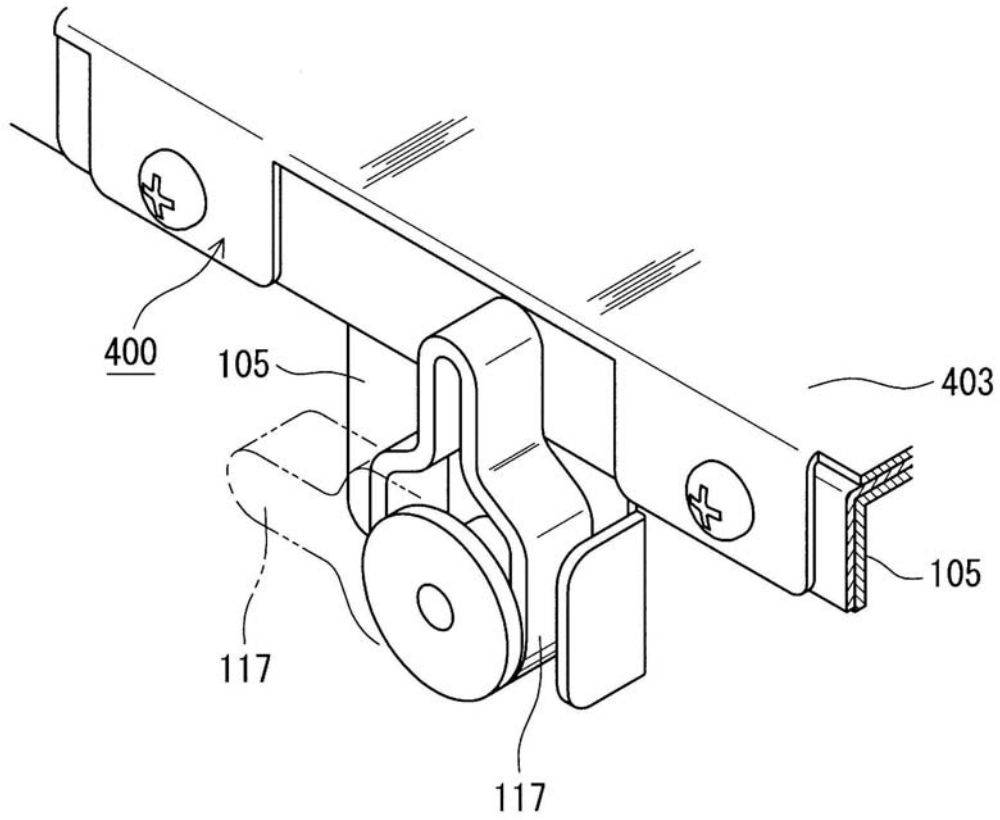
【図 15】



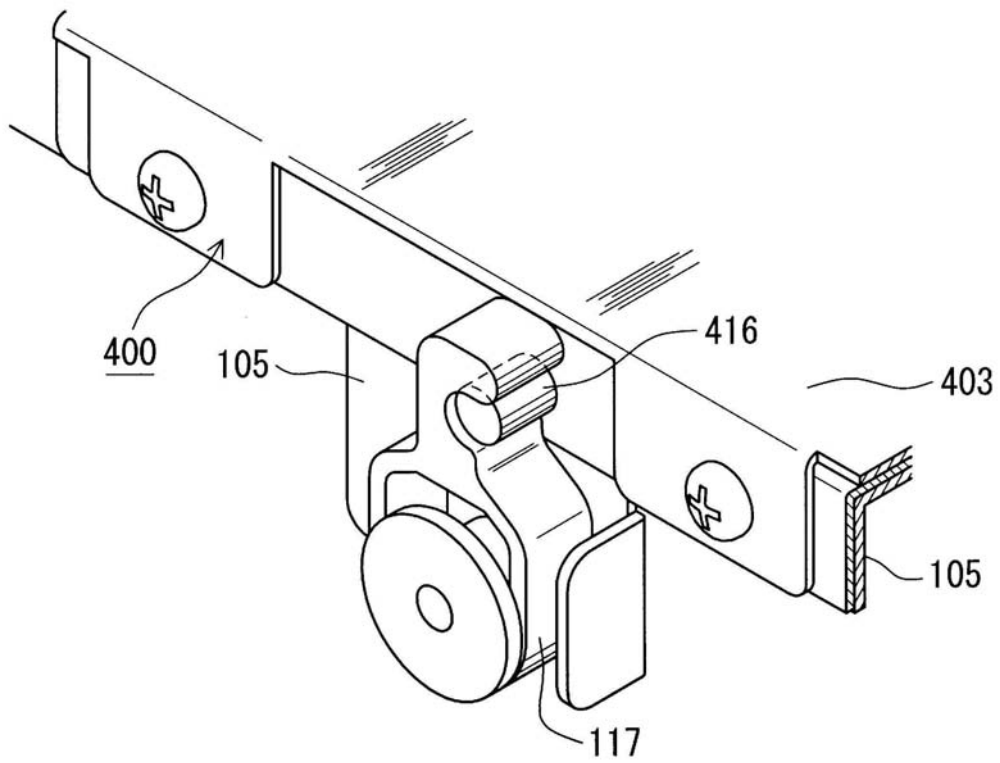
【図 16】



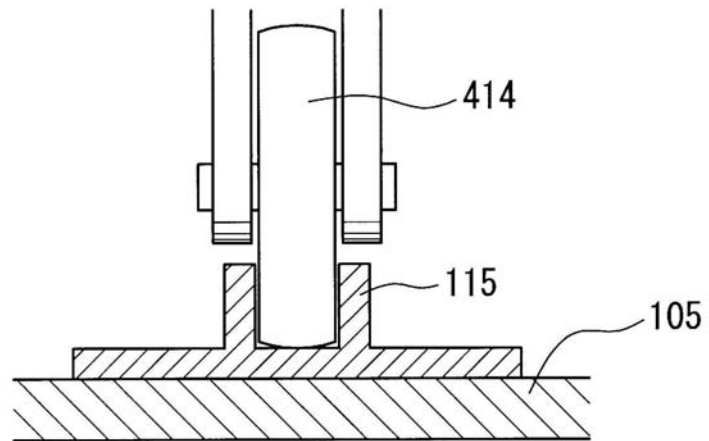
【図 17】



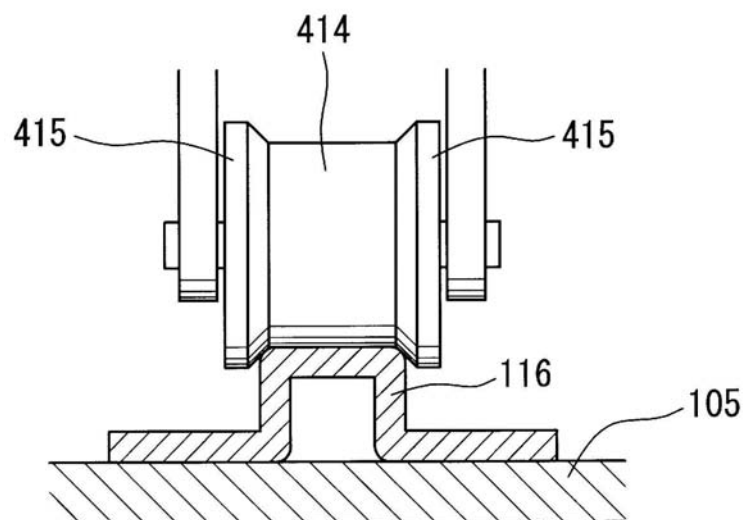
【図 18】



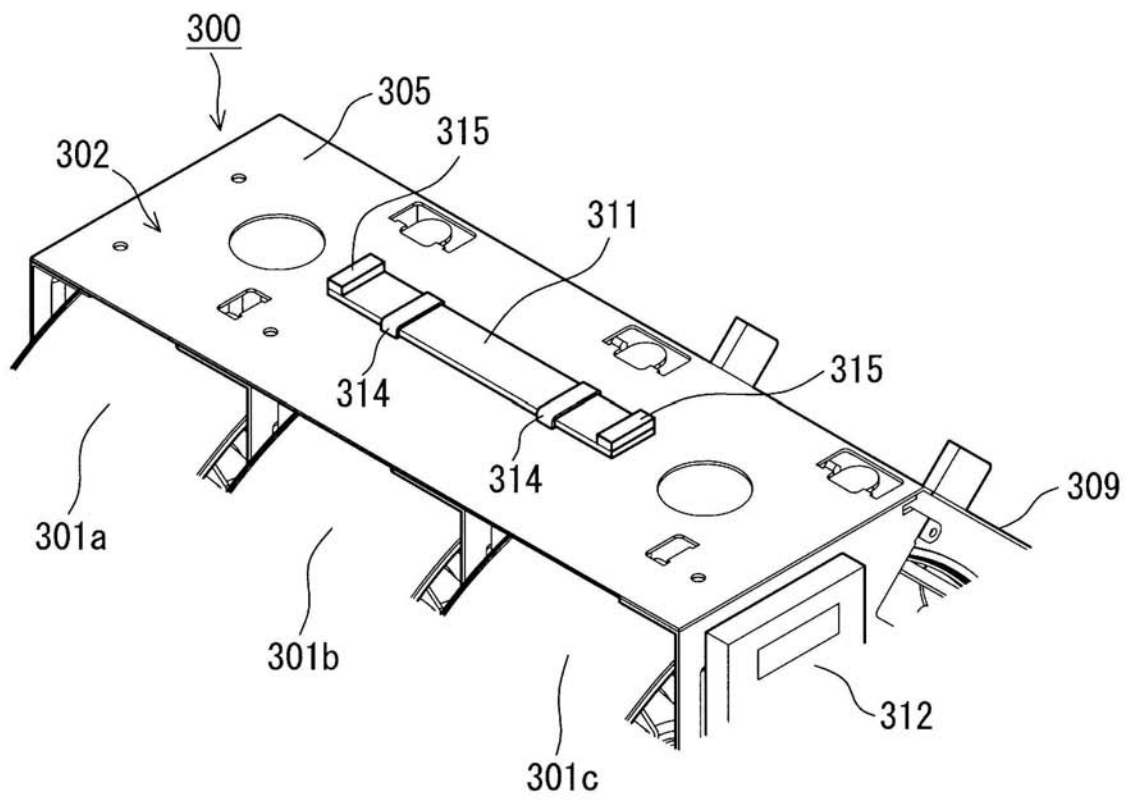
【図 19】



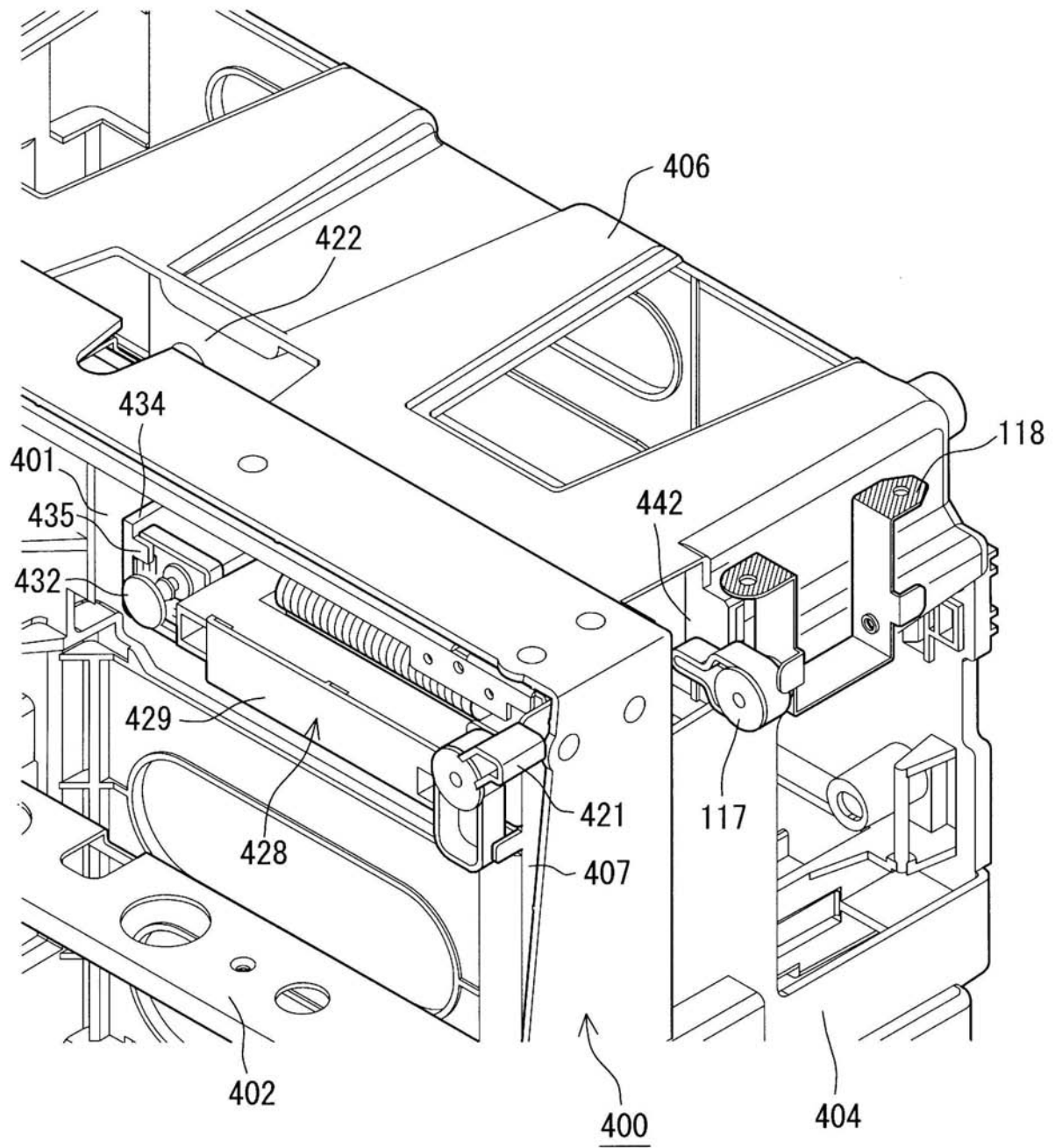
【図 20】



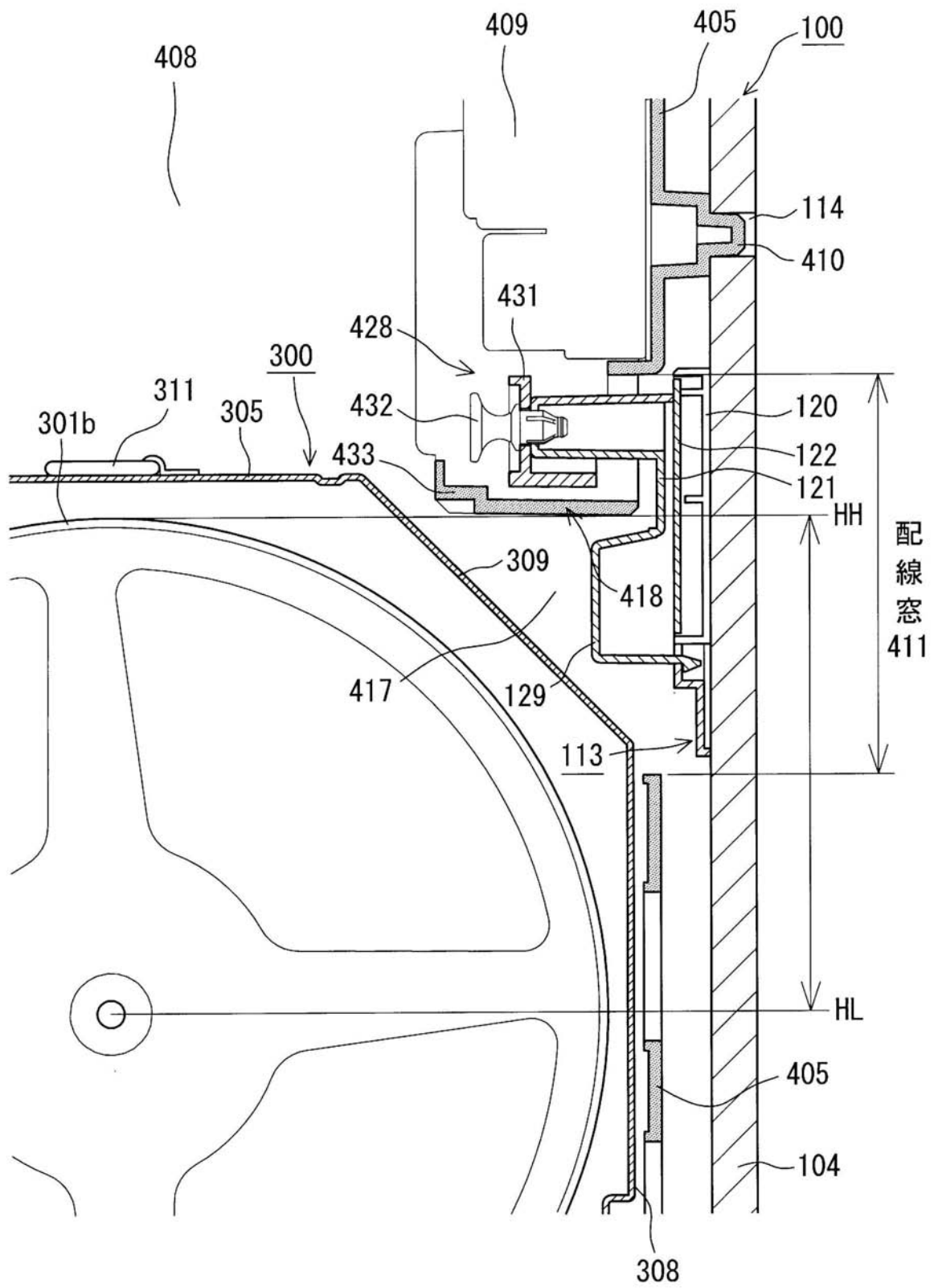
【図 21】



【図 22】



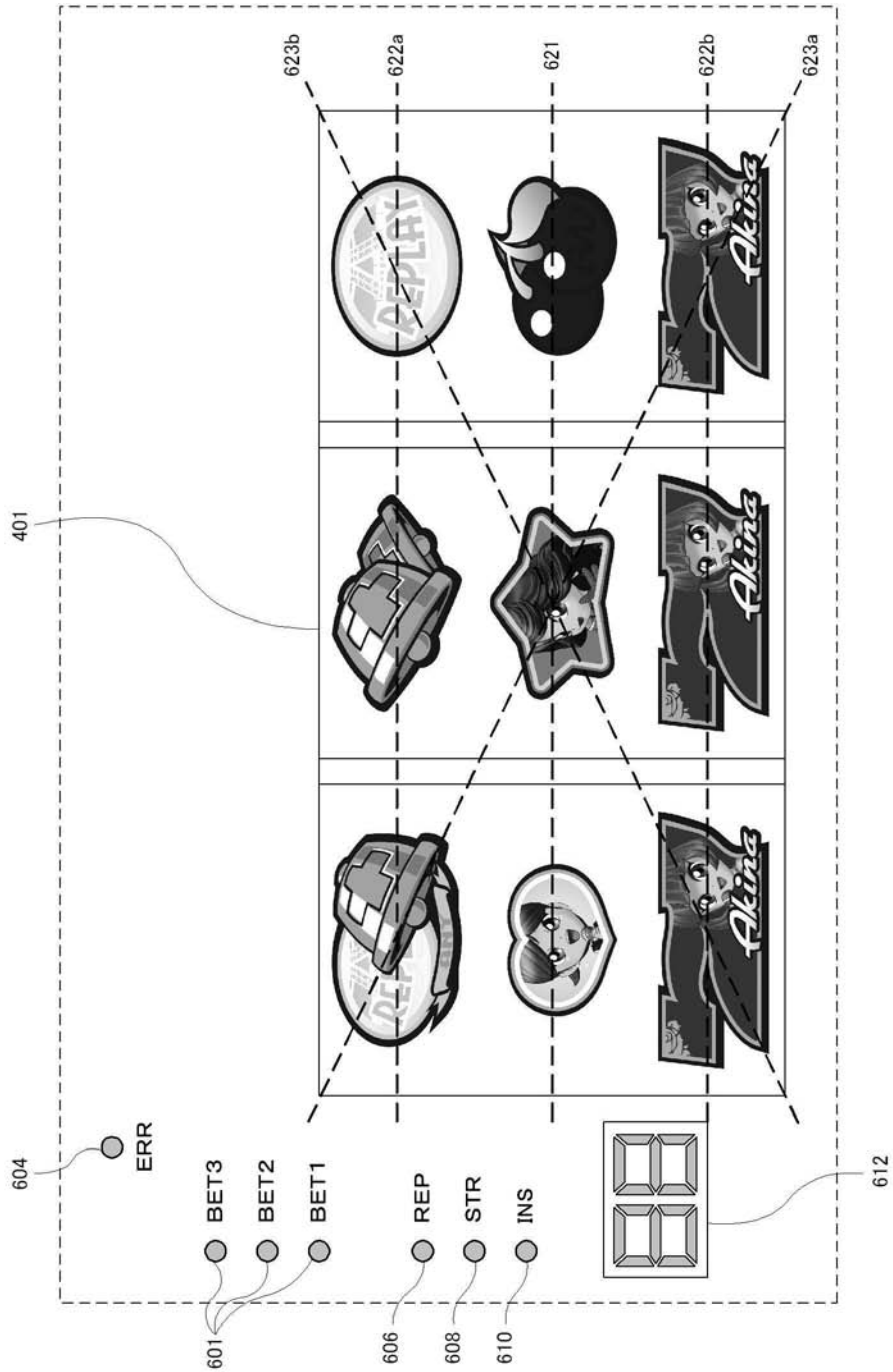
【図 23】



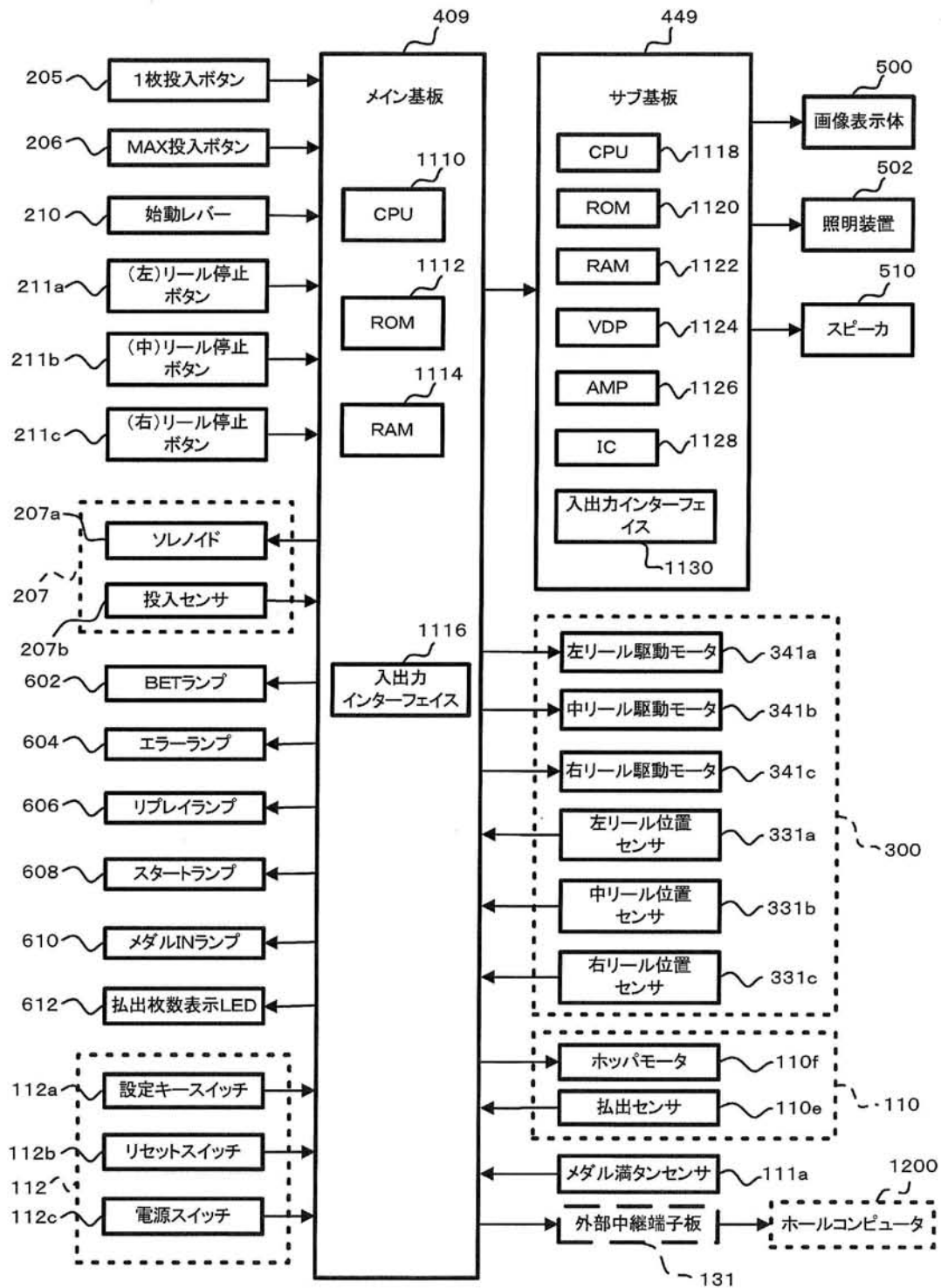
【図 24】

配列番号	321a	321b	321c
1-			
2-			
3-			
4-			
5-			
6-			
7-			
8-			
9-			
10-			
11-			
12-			
13-			
14-			
15-			
16-			
17-			
18-			
19-			
20-			
21-			

【図 25】



【図 26】



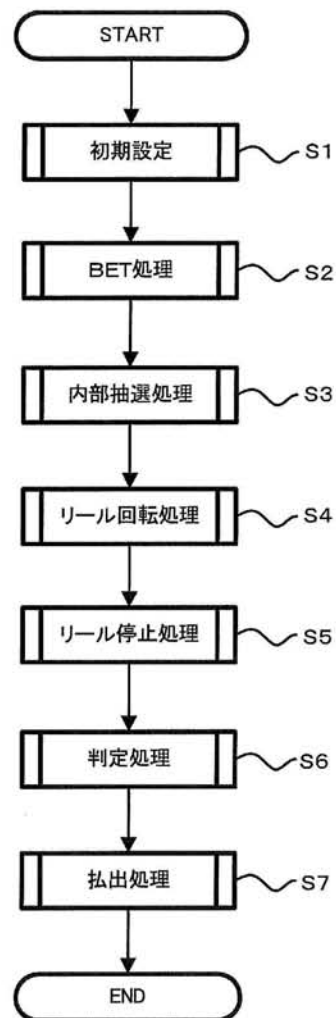
【図 27】

当選役	図柄の組み合わせ	特典
BB	  	BBゲーム
リプレイ	  	リプレイゲーム
ベル	  	3枚
チェリー	—  	2枚
RB	  	RBゲーム
BBゲーム専用役	  	15枚
UNBB	  	UNBBゲーム
CB	—  	CBゲーム

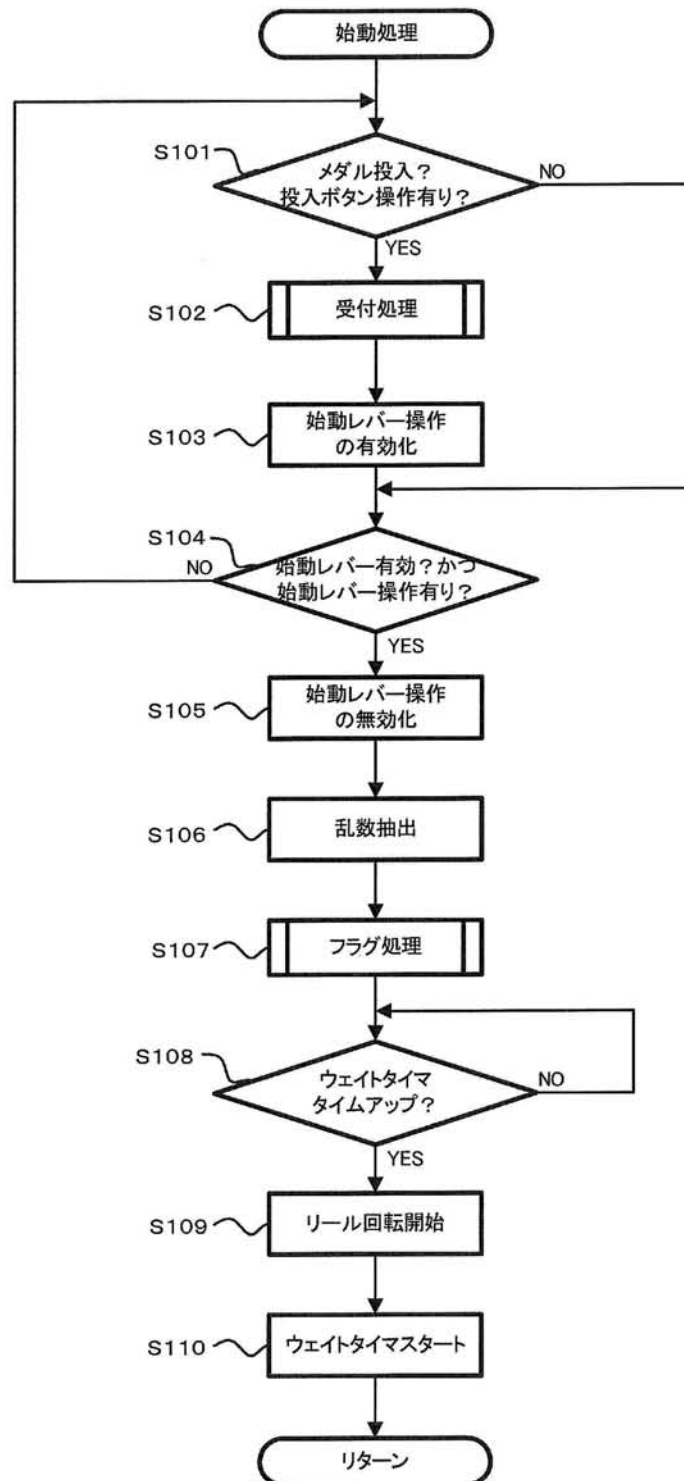
【図 28】

当選役	図柄の組み合わせ	特典
BB	  	BBゲーム
リプレイ	  	リプレイゲーム
ベル	  	3枚
チェリー	 — —	4枚
RB	  	RBゲーム
BBゲーム専用役	  	15枚

【図 29】



【図 30】



内部抽選確率

(a)

乱数値0～16383

当選役	ハル	チェリ-	リアレイ	BB			RB			UNBB	CB	ハズレ	BBゲーム専用役
				BB	BB+ハル	BB+チェリ-	RB+ハル	RB+チェリ-	RB				
当たり値	0～774	775～6799	6800～9044	9045～9062	9063～9200	9201～9202	9203～9204	9205～9208	9209～9238	9239～9429	9430	9431～16383	—
当選確率	1/21.14	1/2.72	1/7.29	1/910.22	1/118.72	1/8192	1/8192	1/4096	1/546.13	1/85.78	1/16384	1/2.36	—

(b)

乱数値0～16383

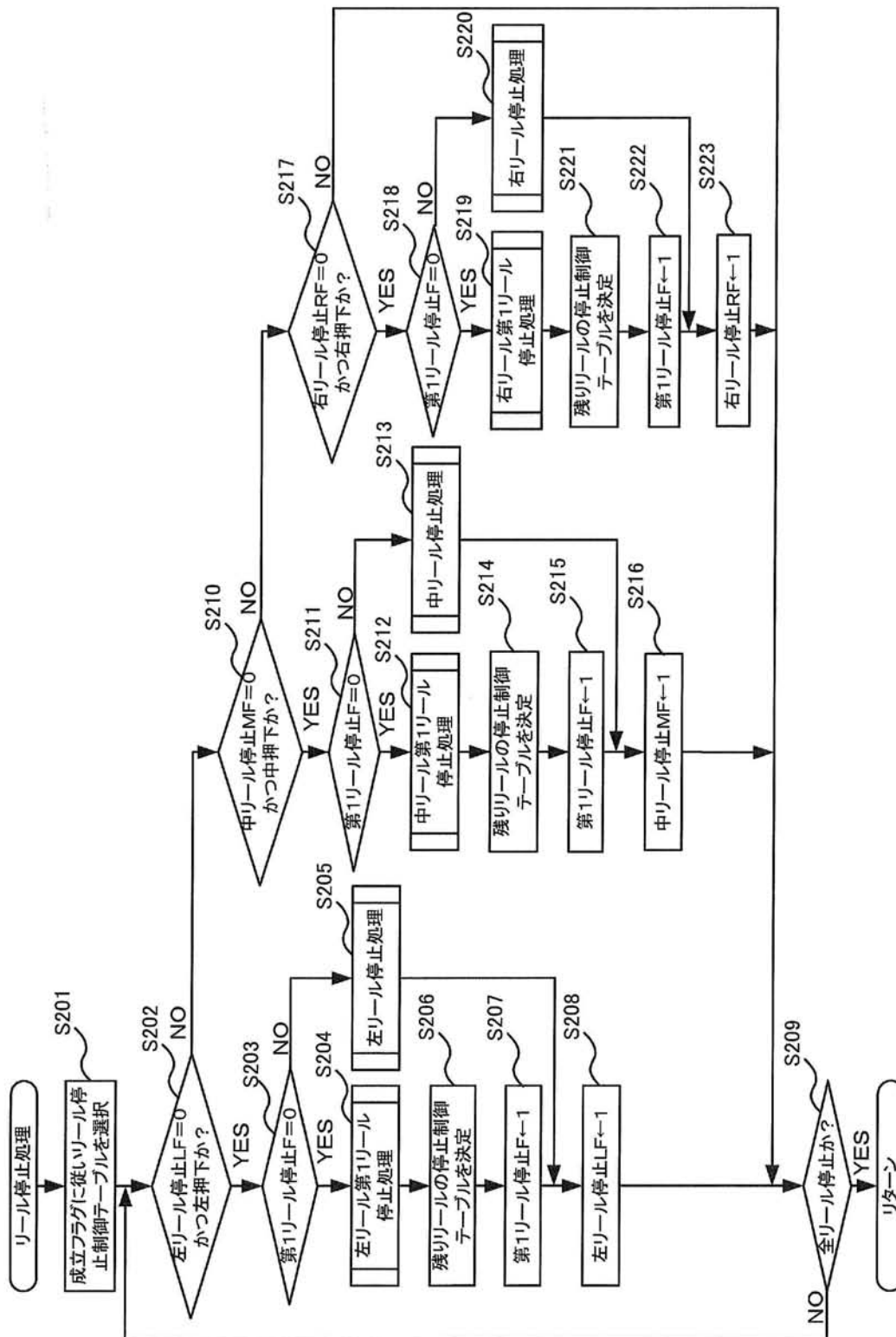
当選役	ハル	チェリ-	リアレイ	BB			RB			UNBB	CB	ハズレ	BBゲーム専用役
				BB	BB+ハル	BB+チェリ-	RB+ハル	RB+チェリ-	RB				
当たり値	0～774	775～6799	—	—	6800～6937	6938～6939	6940～6941	6942～6945	—	—	—	6946	6947～16383
当選確率	1/21.14	1/2.72	—	—	1/118.72	1/8192	1/8192	1/4096	—	—	—	1/16384	1/1.74

(c)

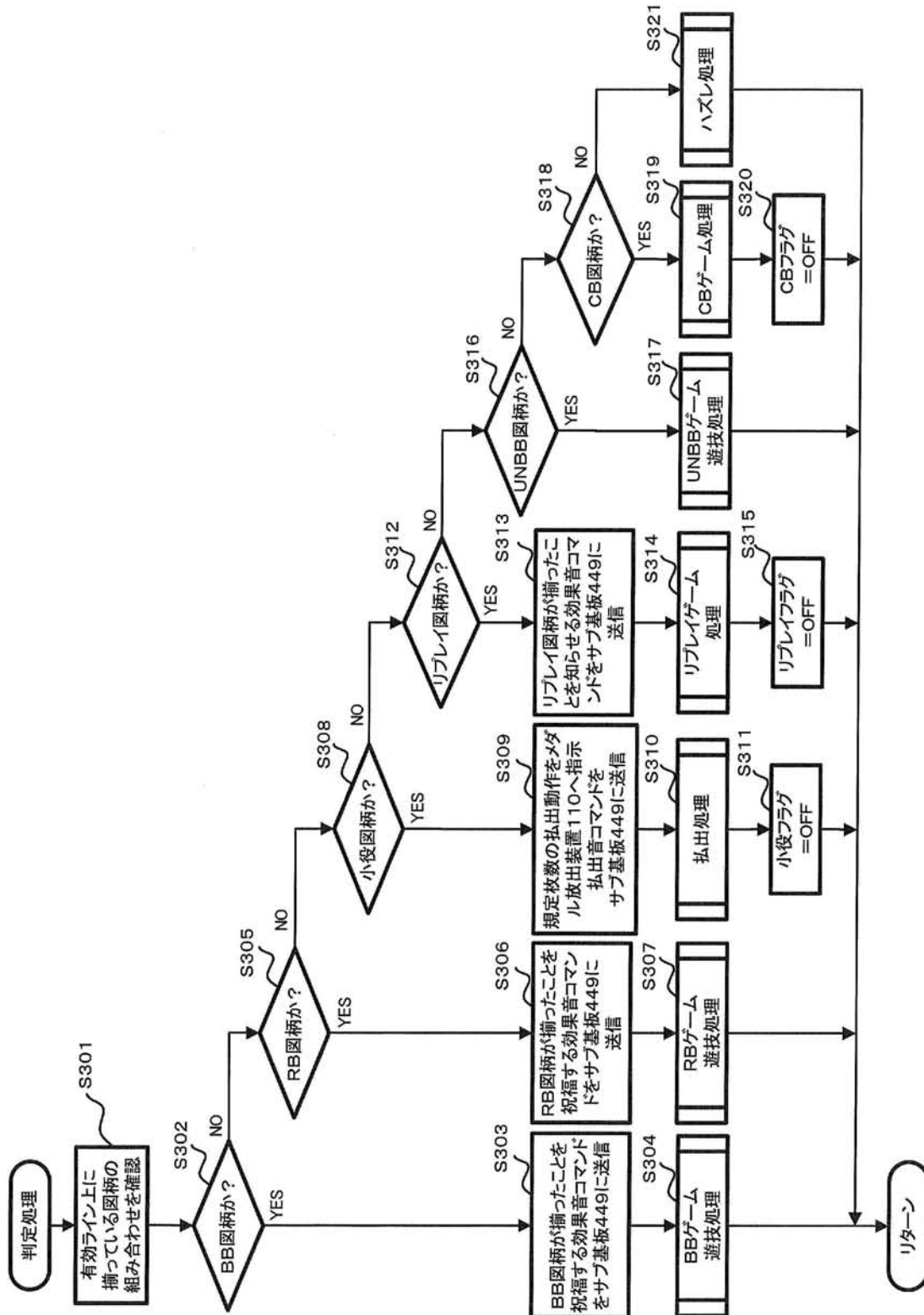
乱数値0～16383

当選役	ハル	チェリ-	リアレイ	BB			RB			UNBB	CB	ハズレ	BBゲーム専用役
				BB	BB+ハル	BB+チェリ-	RB+ハル	RB+チェリ-	RB				
当たり値	0～774	775～6799	—	—	6800～6937	6938～6939	6940～6941	6942～6945	6946～6975	—	6976～14125	14126～16383	—
当選確率	1/21.14	1/2.72	—	—	1/118.72	1/8192	1/8192	1/4096	1/546.13	—	1/2.29	1/7.26	—

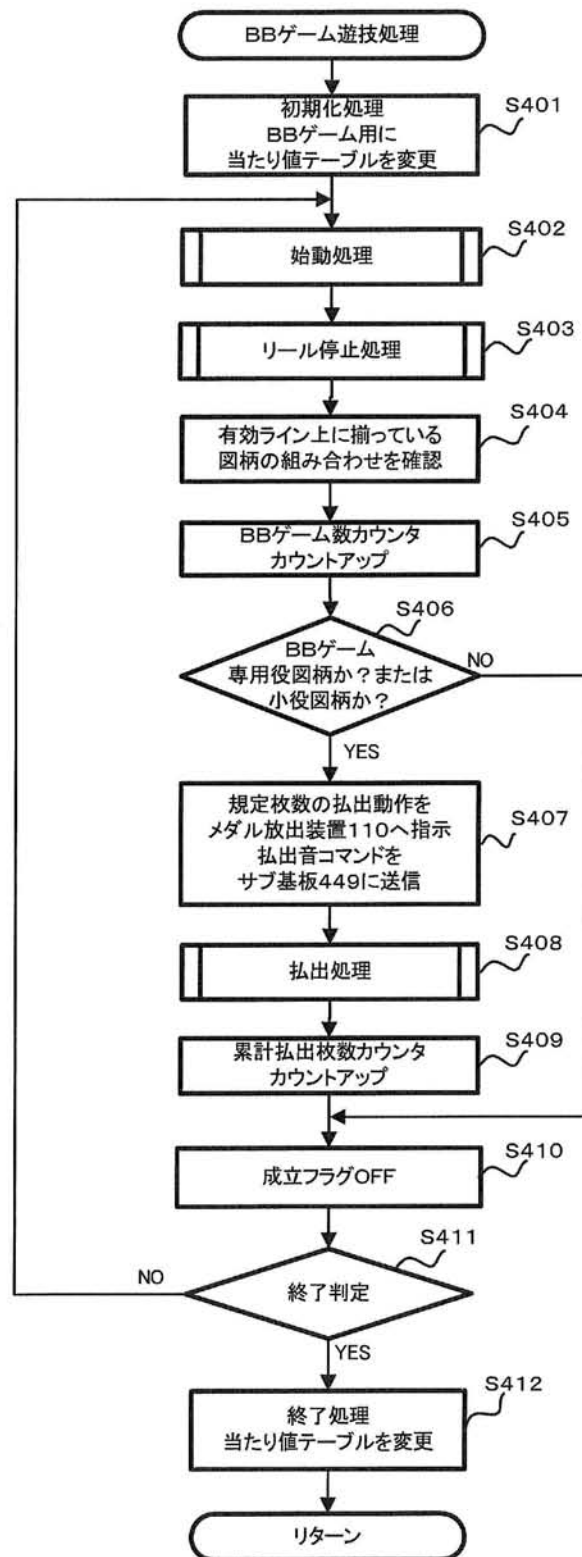
【図 3 2】



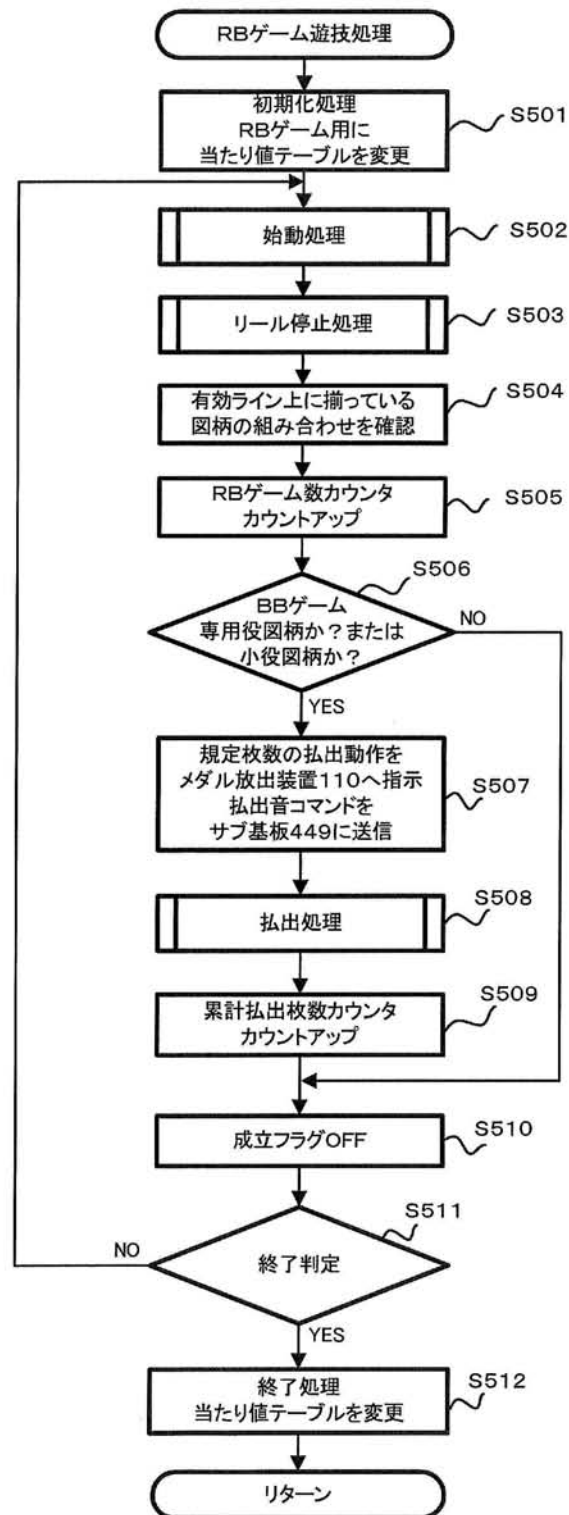
【図 33】



【図 3 4】



【図 35】



【図 36】

